須玖坂本Ｂ遺跡

－１・４次調査－

福岡県春日市岡本所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書　第82集

２０２０

春 日 市 教 育 委 員 会

1 次調査区全景

4 次調査区全景

４次調査出土鋳型№２

４次調査出土鋳型№３

４次調査出土鞴送風管

序

中国の歴史書に記された奴国の故地とされる福岡平野は、大陸、朝鮮半島への玄関口として古来より発展してきました。福岡平野の南部に位置する春日市は、100 万都市である福岡市と接し、その利便性の良さや水､緑の残る快適な住環境から､現在 11 万人を超す市民の方が住まわれています。また、国指定特別史跡水城跡、国指定史跡須玖岡本遺跡、国指定史跡日拝塚古墳や、国指定無形民俗文化財である春日の婿押し、嫁ごのしりたたきなどの古くからの文物や伝統行事が伝わる歴史遺産が多いまちでもあります。

特に、本市の北部には、多くの弥生時代の遺跡が発見されており、須玖遺跡群と呼称しています。この須玖遺跡群では、王墓や当時の先端技術である青銅器生産に関わる遺物、遺構が確認され「奴国の王都」「奴国の首都」などと呼ばれることがあります。

ここに報告いたします須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査は、夥しい数の青銅器生産関連遺物や工房が確認された須玖岡本遺跡坂本地区の北側に接する遺跡です｡後世の開発により削平を受けていましたが、幅約４ｍの直線的な大溝や青銅器生産に関連する古式鋳型類や鞴の送風管、貨泉などが出土した大変重要な遺跡です。また、未発見である奴国王の居宅が発見される可能性が高い遺跡でもあり、今後の調査に期待が膨らみます。

貴重な遺跡の発掘調査報告書といたしましては、不十分さは免れませんが、本書が弥生時代研究の一資料となり、一般の方々にも活用していただければ幸いに存じます。

なお、最後になりましたが、発掘調査や発掘調査報告書作成に際しまして、御協力、御指導を賜りました方々に心からお礼申し上げます。

令和２年３月 31 日

春日市教育委員会
教育長　山　本　直　俊

例　言

1．本書は1991年１月21日から同年４月６日にかけて春日市教育委員会が実施した低学年用プール建築に伴う須玖坂本Ｂ遺跡１次調査と、2003年５月９日から同年６月12日にかけて春日市教育委員会が実施した放課後児童クラブ舎建て替えに伴う須玖坂本Ｂ遺跡４次調査の報告書である。

2．発掘調査は、１次調査を吉田佳広が、４次調査を境靖紀が担当し、報告書作成は井上義也が担当した。

3．遺構の実測は、１次調査を吉田が、４次調査を境、坂田邦彦（現鳥取市教育委員会）が行い、製図は田邊千恵、吉村美保が行った。

4．遺物の図面作成は、井上、熊埜御堂早和子、島津屋幸子、伊東ひかり、織田優子、片多浩美、久家春美、桑野暢子、竹田祐子、吉富千春、製図は織田、片多、竹田、吉富が行った。

5．掲載写真のうち、遺構については１次を吉田が、４次を境、(有)空中写真企画が撮影し、遺物は(有)文化財写真工房・岡紀久夫氏、(有)タクト・西村新二氏が担当した。

6．本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。

7．遺構、遺物については、久住猛雄氏（福岡市経済観光文化局）、小林義彦氏（福岡市経済観光文化局）、武末純一氏（福岡大学）、平田定幸氏（うきは市教育委員会）、村松洋介氏（佐賀県立名護屋城博物館）、森康氏（北九州市立いのちのたび博物館）、柳田康雄氏（國學院大學）、山口譲治氏（福岡市経済観光文化局）から御教示をいただいた。

8．１次調査のP151・162・167については遺構の特定はできなかったが、土器実測は掲載した。

9．本書の執筆および編集は、熊埜御堂の協力の下、井上が行った。

本　文　目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
1　調査に至る経過 …… 1
2　調査の組織 …… 1
Ⅱ　位置と環境 …… 3
Ⅲ　1次調査の内容 …… 6
1　調査の概要 …… 6
2　遺構 …… 6
（1）土坑 …… 6
（2）溝 …… 10
（3）ピット …… 11
3　遺物 …… 13
（1）土器 …… 13
（2）土製品等 …… 38
（3）青銅器生産関連遺物 …… 39
①　石製鋳型類 …… 39
②　中型 …… 41
③　坩堝／取瓶 …… 43
（4）青銅器 …… 44
（5）鉄器 …… 45
（6）玉類 …… 45
（7）木製品 …… 46
（8）石器 …… 47
Ⅳ　4次調査の内容 …… 55
1　調査の概要 …… 55
2　遺構 …… 55
（1）溝 …… 55
（2）ピット …… 56
3　遺物 …… 56
（1）土器 …… 56
（2）土製品 …… 72

（３）青銅器生産関連遺物 …… 83
① 鋳型類…… 83
② 中型…… 84
③ 坩堝／取瓶…… 86
④ 鞴送風管…… 86
（４）石器等 …… 89
Ⅴ まとめ …… 92
１ １・４次調査の１号溝について …… 92
２ 須玖坂本Ｂ遺跡の青銅器生産 …… 96
３ 須玖遺跡群出土の権 …… 97

図 版 目 次

巻頭図版１ １次調査区全景
４次調査区全景
巻頭図版２ ４次調査出土鋳型№２
４次調査出土鋳型№３
４次調査出土鞴送風管

１次調査
図版１（１） 調査区全景（北から）
（２） 調査区全景（南から）
図版２（１） １号土坑
（２） 鋳型№10 出土状態
（３） 貸泉出土状態
（４） 木製品№１出土状態
図版３（１） １号土坑Ａ－Ａ′断面土層（東から）
（２） １号土坑Ｂ－Ｂ′断面土層（東から）
図版４（１） １号溝Ｃ－Ｃ′断面土層（西から）
（２） １号溝Ｄ－Ｄ′断面土層（東から）
（３） １号溝Ｅ－Ｅ′断面土層（東から）
図版５（１） １号溝Ｆ－Ｆ′断面土層（西から）
（２） １号溝Ｇ－Ｇ′断面土層（東から）
（３） Ｐ 66 鉄器出土状態

（４）　Ｐ 72 半裁状態
図版 6　１次調査出土土器①
図版 7　１次調査出土土器②
図版 8　１次調査出土土器③
図版 9　１次調査出土土器④
図版 10　１次調査出土土器⑤
図版 11　１次調査出土土器⑥
図版 12（１）　１次調査出土土器⑦
（２）　土製品等
図版 13　鋳型類①
図版 14　鋳型類②
図版 15　中型
図版 16　坩堝／取瓶
図版 17（１）　青銅器
（２）　玉類
（３）　鉄器
（４）　木製品①
図版 18（１）　木製品②
（２）　石器①
図版 19（１）　石器②
（２）　石器③
図版 20（１）　石器④
（２）　石器⑤

４次調査

図版 21（１）　調査区西半
（２）　調査区東半・１号溝
図版 22（１）　４次調査地と１次調査地の位置関係
（２）　１号溝（東から）
図版 23（１）　１号溝西部
（２）　１号溝木製品等出土状態
図版 24（１）　１号溝Ａ－Ａ′断面土層（東から）
（２）　１号溝Ｂ－Ｂ′断面土層
図版 25（１）　鋳型№２出土状態

（２）　鋳型№３出土状態
（３）　鞴送風管・土器出土状態
（４）　土器出土状態
（５）　木製品出土状態①
（６）　木製品出土状態②
図版 26　４次調査出土土器①
図版 27　４次調査出土土器②
図版 28　４次調査出土土器③
図版 29　４次調査出土土器④
図版 30　４次調査出土土器⑤
図版 31　４次調査出土土器⑥
図版 32（１）　４次調査出土土器⑦
（２）　土製品
図版 33（１）　鋳型
（２）　中型
図版 34　坩堝／取瓶
図版 35（１）　鞴送風管
（２）　石器①
図版 36（１）　石器②
（２）　石器③

まとめ
図版 37　須玖遺跡群出土権

挿　図　目　次

第 1 図　須玖坂本Ｂ遺跡周辺遺跡分布図 …… 4
第 2 図　須玖坂本Ｂ遺跡位置図 …… 5
第 3 図　須玖坂本Ｂ遺跡１次調査遺構配置図 …… 7・8
第 4 図　１号土坑実測図 …… 9
第 5 図　溝等断面土層実測図① …… 11
第 6 図　溝等断面土層実測図② …… 12
第 7 図　溝等断面土層実測図③ …… 13
第 8 図　北部ピット群実測図 …… 14

第 9 図　1 号土坑出土土器実測図① …… 16
第 10 図　1 号土坑出土土器実測図② …… 17
第 11 図　1 号土坑出土土器実測図③ …… 18
第 12 図　1 号土坑出土土器実測図④ …… 19
第 13 図　1 号土坑出土土器実測図⑤ …… 20
第 14 図　1 号溝出土土器実測図① …… 21
第 15 図　1 号溝出土土器実測図② …… 22
第 16 図　1 号溝出土土器実測図③・5 号溝出土土器実測図 …… 23
第 17 図　ピット出土土器実測図① …… 26
第 18 図　ピット出土土器実測図② …… 27
第 19 図　土製品等実測図 …… 38
第 20 図　石製鋳型類実測図① …… 39
第 21 図　石製鋳型類実測図② …… 40
第 22 図　石製鋳型類実測図③ …… 42
第 23 図　中型実測図 …… 44
第 24 図　坩堝／取瓶実測図 …… 46
第 25 図　青銅器実測図 …… 47
第 26 図　鉄器実測図 …… 47
第 27 図　玉類実測図 …… 47
第 28 図　木製品実測図 …… 48
第 29 図　石器実測図① …… 49
第 30 図　石器実測図② …… 50
第 31 図　石器実測図③ …… 51
第 32 図　石器実測図④ …… 52
第 33 図　石器実測図⑤ …… 53
第 34 図　須玖坂本 B 遺跡 4 次調査遺構配置図 …… 57・58
第 35 図　1 号溝木製品等出土状態実測図 …… 59
第 36 図　1 号溝断面土層実測図 …… 60
第 37 図　1 号溝出土土器実測図① …… 61
第 38 図　1 号溝出土土器実測図② …… 62
第 39 図　1 号溝出土土器実測図③ …… 64
第 40 図　1 号溝出土土器実測図④ …… 65
第 41 図　1 号溝出土土器実測図⑤ …… 66
第 42 図　1 号溝出土土器実測図⑥ …… 67

第 43 図　１号溝出土土器実測図⑦ …… 68
第 44 図　１号溝出土土器実測図⑧ …… 69
第 45 図　１号溝出土土器実測図⑨・２号溝出土土器実測図① …… 70
第 46 図　２号溝出土土器実測図② …… 71
第 47 図　ピット出土土器実測図 …… 72
第 48 図　土製品実測図 …… 72
第 49 図　鋳型実測図 …… 84
第 50 図　中型実測図 …… 85
第 51 図　坩堝／取瓶実測図 …… 87
第 52 図　鞴送風管実測図 …… 88
第 53 図　石器等実測図① …… 90
第 54 図　石器等実測図② …… 91
第 55 図　須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査遺構配置図 …… 93・94
第 56 図　須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査１号溝復元図 …… 95
第 57 図　須玖遺跡群権出土遺跡 …… 98
第 58 図　須玖遺跡群出土権実測図 …… 99

表　目　次

表 1　１次調査出土土器観察表 …… 28
表 2　１次調査出土土製品等観察表 …… 38
表 3　１次調査出土石製鋳型類観察表 …… 43
表 4　１次調査出土中型類観察表 …… 45
表 5　１次調査出土坩堝／取瓶観察表 …… 46
表 6　１次調査出土石器観察表 …… 54
表 7　４次調査出土土器観察表 …… 73
表 8　４次調査出土土製品観察表 …… 82
表 9　４次調査出土鋳型観察表 …… 84
表 10　４次調査出土中型観察表 …… 85
表 11　４次調査出土坩堝／取瓶観察表 …… 86
表 12　４次調査出土石器等観察表 …… 92
表 13　須玖遺跡群出土権観察表 …… 100

Ⅰ　はじめに

１　調査に至る経過

須玖坂本Ｂ遺跡１次調査は、調査時は須玖坂本遺跡２次調査であった。しかしながら、平成15年度に史跡須玖岡本遺跡の範囲の見直しを行い、須玖坂本遺跡１次調査などは、須玖岡本遺跡坂本地区と名称変更した。一方､立地や性格の異なる須玖坂本遺跡２次調査については､須玖坂本Ｂ遺跡となった。このため、今回の報告では新名称の須玖坂本Ｂ遺跡１次調査を使用する。

１次調査については、平成元年度に春日市建設部都市整備課から春日北小学校グラウンド南端において、低学年用プールの建築計画の打診があった。当地は、須玖岡本遺跡王墓地点の北方130ｍに位置し、当地のことを記した論文や過去に行った聞き取り調査によって、大溝や住居跡を中心とする集落が検出される可能性が推察された。このため埋蔵文化財に関する事前協議を行い、確認調査を実施することとなった。

平成２年10月31日に重機による確認調査を行ったところ、20～30㎝の客土の下に褐色粘質土の地山を検出し、柱穴などを確認した。後日協議を行ったが、計画の変更は困難であり遺跡の破壊は避け難いため、記録保存を行うことになった。発掘調査は、低学年用プールが建築される範囲414.8㎡を対象とし、市単独事業により平成３年１月21日から実施した。

４次調査については、平成15年１月27日に春日市福祉支援部こども未来課から同小学校の放課後児童クラブ舎建て替え計画の打診があった。当地は１次調査地の西に接し、遺構が確認される可能性は非常に高かった。このため埋蔵文化財に関する事前協議を行い、対象地にある植栽の伐採、撤去を行った後で、確認調査を実施することとなった。

平成15年４月17日に重機による確認調査を行ったところ、グラウンドより数十㎝高い地表面から90㎝下げると褐色粘質土の地山を検出し、土坑または溝と思われる遺構を検出した。開発内容は遺構に殆ど影響はないが、重要遺跡の可能性が強いことを考慮して関係部局と協議を行い、対象地の表土はすべて除去し、遺構の確認を行い、一部を発掘調査することになった。発掘調査は344.0㎡を対象とし、市単独事業により平成15年５月９日から実施した。

なお、報告書作成は、令和元年度を中心に行った。

２　調査の組織

春日市教育委員会が発掘調査を実施した平成２・15年度、報告書刊行の最終的な作業を行った令和元年度の体制は次のとおりである。

１次調査（平成２年度）

教育長	三原　英雄
教育部長	西田　　譲
社会教育課長	矢野　文一
文化財係長	鬼倉　芳丸
主　事	坂本　智明
技　師	丸山　康晴
技　師	平田　定幸
技　師	中村　昇平
技　師	吉田　佳広
嘱　託	池田　洋子

４次調査（平成 15 年度）

教育長	山本　直俊
社会教育部長	矢野　文一
文化財課長	白石　光治
管理担当	
課長補佐	谷　　芳文
事務主査	渡邊　康博
事務主任	松竹　典子
文化財担当	
統括係長	平田　定幸
技術主査	中村　昇平
技術主任	森井　千賀子
技術主任	境　　靖紀
技術主任	井上　義也
嘱　託	坂田　邦彦
嘱　託	河村　麻子

報告書作成（令和元年度）

教育長	山本　直俊
教育部長	神田　芳樹
文化財課長	神崎　由美
整備活用担当	
統括係長	髙田　博之
主　査	森井　千賀子
主　査	大原　佳瑞重
主　査	飛永　宗俊
嘱　託	坂井　和彦
嘱　託	和田　奈緒
調査保存担当	
課長補佐	中村　昇平
主　査	吉田　佳広
主　査	井上　義也
主　任	山崎　悠郁子
主　事	熊埜御堂　早和子
嘱　託	川村　　博
嘱　託	種生　優美
嘱　託	尾方　禎莉（～ 11 月）

Ⅱ　位置と環境

福岡平野は玄界灘に面しており、古代から対外的交易拠点の一角として機能していた。中国の史書に記された「奴国」の推定地であるこの地域では、朝鮮半島から伝来した稲作や青銅器をはじめとした新技術をいち早く受容し、急速に普及していくなど、弥生文化の先進地域として重要な位置を占めていた。

春日市は福岡平野の南東部に位置し、牛頸山系から派生した春日丘陵のほか、宝満山系の御笠川と脊振山系の那珂川によってできた段丘・氾濫原で構成される。本市は宅地開発などがとても多く、これまでに約 150 の遺跡を確認している。中でも特筆されることは、弥生時代中期から後期に絶え間なく展開する「須玖遺跡群」の存在である。須玖遺跡群は、市域の中央部から北部に延びる春日丘陵及び周辺の低地に営まれた巨大な遺跡群で、その範囲は南北約２㎞、東西約１㎞である。この範囲には集落や墳墓が稠密しており、奴国王墓や当時の高い技術によって営まれた工房などがあることから、奴国の中枢的な集落と考えられる。

当遺跡群で青銅器生産が行われたのは中期以降であり、須玖岡本遺跡坂本地区、須玖タカウタ遺跡、須玖永田Ａ遺跡、須玖黒田遺跡、須玖尾花町遺跡からは鋳型や送風管、坩堝／取瓶などの青銅器生産関連遺物が多数出土している。須玖タカウタ遺跡では、中期前半の竪穴建物跡とその周辺から、国内最古級の青銅器生産関連遺物が多数見つかった。この発見から、遺跡群が朝鮮半島の先端技術をいち早く取り入れ、青銅器生産の先駆け的な存在となったと言えよう。

また、青銅器生産の他にガラス玉生産が行われ、須玖岡本遺跡坂本地区、須玖五反田遺跡、赤井手遺跡で勾玉鋳型などが出土している。須玖五反田遺跡では、鋳型のほかにも、未製品やガラス玉を磨いたとされる砥石なども出土することから、生産の過程を追うことができ、当時の先端技術を解明する上で重要な遺跡である。

さらに鉄器生産も行われており、仁王手Ａ遺跡では竪穴建物跡から多量の鉄片が、赤井手遺跡では製作工程を辿ることができる未製品や鉄素材など多くの生産関連遺物が出土する。

このように須玖遺跡群では、生産に関連する遺跡が一際目立つ一方で、須玖遺跡群の西部に位置する赤井手遺跡と竹ヶ本Ａ遺跡、南部に位置する大南Ａ遺跡、高辻Ｄ・Ｆ遺跡、高辻Ｅ遺跡では大溝が確認されており、それらは一帯となって須玖遺跡群を囲む役割を果たしていた可能性がある。

須玖遺跡群は遺跡の規模、遺構、出土遺物ともに卓抜した内容をほこり、「奴国の王都」とも称される他に類を見ない遺跡であろう。

須玖遺跡群北部にある須玖坂本Ｂ遺跡は、春日丘陵の北東側低地、北流する諸岡川の右岸に立地する。須玖坂本Ｂ遺跡は主に弥生時代中期から後期にかけての集落で、これまでの調査で多くの青銅器生産関連遺物が出土する。当遺跡は北側に須玖五反田遺跡、西側に須玖タカウタ遺跡、南東側に須玖岡本遺跡坂本地区が隣接し、当地一帯には生産関連遺跡が計画的に配置された可能性がある。

1 須玖坂本Ｂ遺跡　2 須玖岡本遺跡　3 須玖タカウタ遺跡　4 須玖永田Ａ遺跡　5 須玖五反田遺跡　6 須玖唐梨遺跡　7 須玖黒田遺跡　8 須玖尾花町遺跡
9 平若Ａ遺跡　10 赤井手遺跡　11 竹ヶ本Ａ遺跡　12 豆塚山遺跡　13 大南Ｂ遺跡　14 大南Ａ遺跡　15 仁王手Ａ遺跡　16 伯玄社遺跡
17 松添遺跡　18 高辻Ｄ・Ｆ遺跡　19 高辻Ｅ遺跡　20 大谷遺跡　21 宮の下遺跡　22 寺田池北遺跡　23 一の谷Ａ遺跡　24 一の谷Ｂ遺跡
25 一の谷Ｃ遺跡　26 立石遺跡　Ａ 須玖遺跡群　Ｂ 南八幡遺跡　Ｃ 雑餉隈遺跡　Ｄ 麦野Ｂ遺跡　Ｅ 麦野Ｃ遺跡　Ｆ 三筑遺跡
Ｇ 笹原遺跡　Ｈ 井尻Ｂ遺跡　Ｉ 寺島遺跡　Ｊ 横手遺跡　Ｋ 日佐遺跡　Ｌ 笠抜遺跡　Ｍ 弥永原遺跡　Ｎ 寺田・長崎遺跡
Ｏ 中白水遺跡　Ｐ 門田遺跡　Ｑ 天神ノ木遺跡　Ｒ 駿河Ａ遺跡

第１図　須玖坂本Ｂ遺跡周辺遺跡分布図（1/25,000）

第２図　須玖坂本Ｂ遺跡位置図（1/2,500）

Ⅲ　１次調査の内容

１　調査の概要

須玖坂本Ｂ遺跡は須玖遺跡群の北部にあり、弥生時代中期末の奴国王墓とされる須玖岡本遺跡の厚葬墓は、約 130 m南側にある。また、奴国の官営工房とも称される須玖岡本遺跡坂本地区が南に隣接する。現在、当地は春日北小学校のグラウンドであるが、本来の地形は南にある丘陵が徐々に高さを減じる緩斜面であったと推定でき、小学校建設時に造成を受けたと考えられる。

重機でグラウンドの土を 20 ～ 30 ㎝程度除去すると褐色粘質土を基本とする地山を検出し、黒褐色土で埋まった遺構を検出した。調査区の中央を側溝が走り、その他にも植樹や工事のためか重機で掘削された跡が確認できる。

発掘調査の結果、溝６条、土坑１基と大小多数のピットを検出した。最も規模が大きい１号溝やそれと重複する２号溝は､南端部で検出した。周囲にはピットが殆どないのに対し､調査区の北部はピットが集中するため、南側は大きく削平を受けたことが分かる。１号溝は丘陵の落ち際に掘られた直線的な溝で、床面は西側に向かい徐々に深くなる。本来の地形の高さと削平も関係あるだろうが、東側の残存状態は悪い。１号土坑は１号溝の西部と重複するが､平面形や土層観察から別の遺構とせずに、１号溝の床面を１段掘り窪めた施設とするのがよかろう。１号土坑、１号溝からは、弥生時代中・後期の土器や石包丁などの石器とともに、青銅器鋳型、銅矛中型、貨泉が出土する。南側から流入したとは考え難いため、北側に想定される住居跡などからの流れ込みであろう。

北隅部に集中するピット群には、柱痕を検出したものがある。これら同規模のピットは、直径６ｍの範囲で円を描いており、中心には土坑状の大形のピットがある。これらのことから、当ピット群は、壁面が完全に削平された円形の竪穴建物跡と推測できる。しかも、ここからは銅矛中型とともに、鋳型石材である石英長石斑岩製の剥片や砕片が多数出土する。このため、青銅器工房の可能性が考えられる。

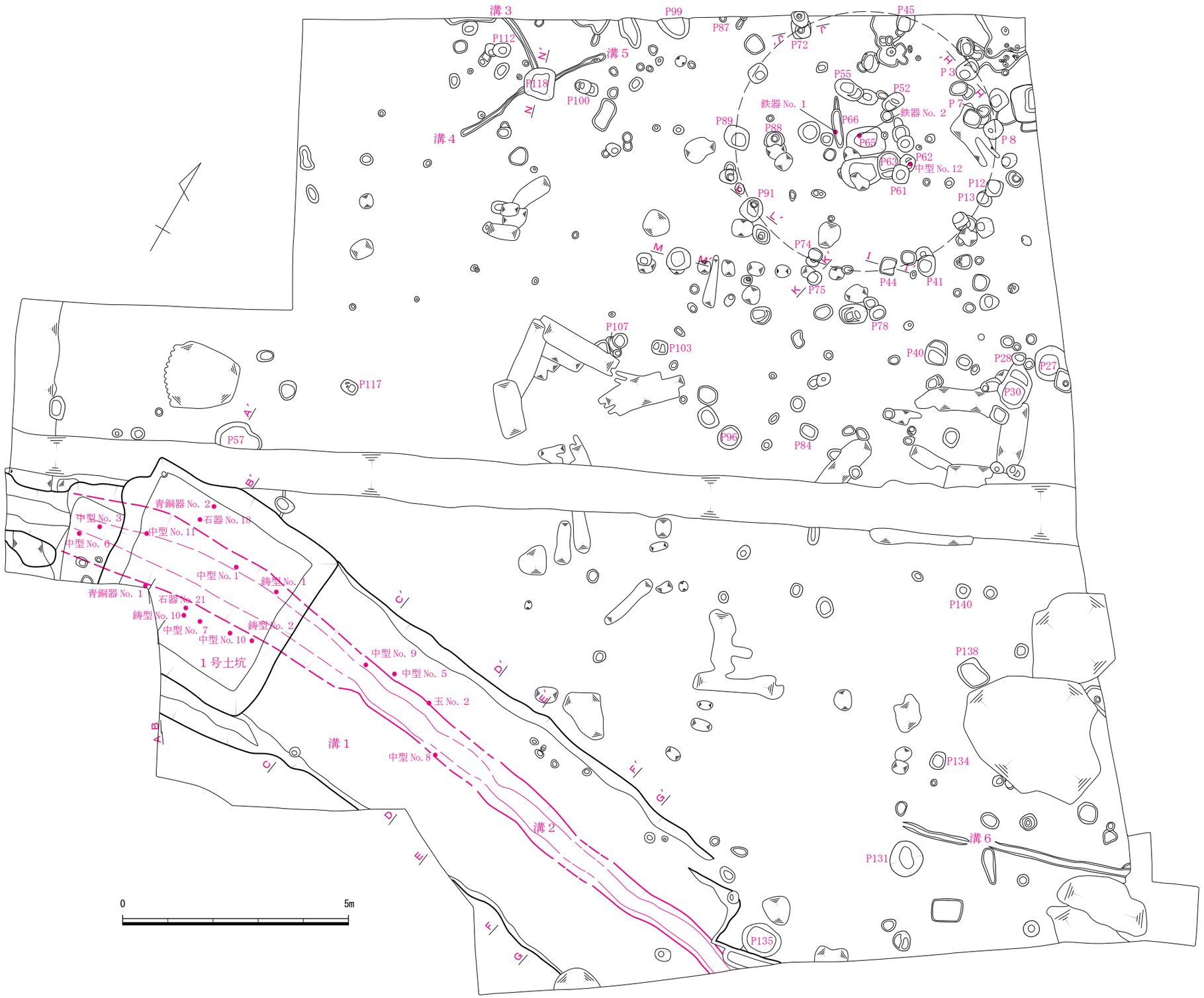
またピット群の南西側には、大型のピットに３条の小溝が接続する。これも削平された竪穴建物跡と考えられないだろうか。

２　遺構

（１）　土坑

１号土坑（図版２・３、第４・５図）

１号土坑は、後述する１号溝の西部に検出した。南西部は調査区外まで延びるために、完掘はでき

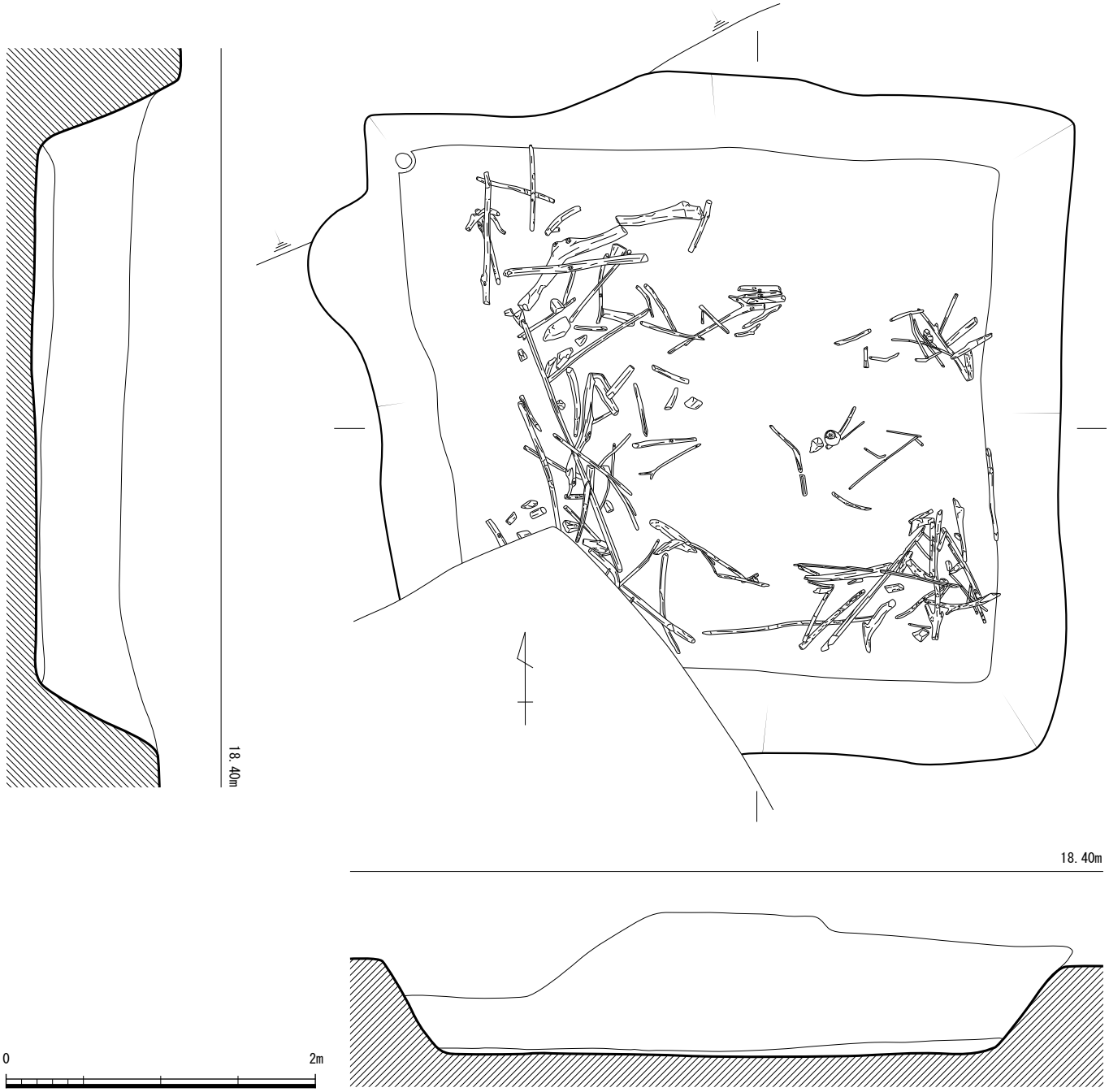


第３図　須玖坂本Ｂ遺跡１次調査遺構配置図（1/100）

ていない。土坑として報告するが、１号溝との平面形、土層、出土遺物の比較では、１号土坑と１号溝との間に新旧関係はない。このため１号溝の底面の一部を深く掘削したものと考えられる。なお中央部は２号溝に切られる。

平面形は 4.5 m × 4.35 m前後の方形で、北西コーナー部付近は丸みを持ち広がる。検出面からの深さは 1.16 m。底面はほぼ水平で、壁面は 60° 前後の傾斜を持つ。湧水のため、底面には木器や木片などが残存する。

出土遺物は、多くの弥生土器の他に、石器、木器、青銅器鋳型、中型、貨泉等青銅器が出土する。



第４図　１号土坑実測図（1/40）

また桃等の種子と考えられるものも出土した。

（２） 溝

１号溝（図版４・５－(2)、第３・６図）

１号溝は、調査区南部に 20.5m 程度を検出した。東西方向に延びる溝で、幅は 4.1 ～ 5.15 m。検出面からの深さは、最も残りの良い１号土坑南付近では 60 ㎝、最も残りの悪い東部は８㎝だが、底面の標高にさほど違いはない。２号溝により切られたり、調査区際であったりするために細密な検討はできないが、西端部は張出状になっている。また、削平のために断定はできないが、東端部も張出状になる可能性がある。なお、西端部の張出状部に近接して、１号土坑がある。

出土遺物は、多くの弥生土器と共に、石器、青銅器中型、管玉等が出土する。

２号溝（図版３・５－(2)、第３・５・６図）

２号溝は、１号溝と重複し、東西方向に 19.7 m程度を検出した。なお、２号溝は、調査当初１号溝の埋土の差という認識で調査しており、西部は平面で捉えていないために、断面図からの復元を行った。幅は 0.6 ～ 1.6 mに復元でき、深さは 15 ～ 50 ㎝程度。底面はほぼ水平。

出土遺物は、土器等が出土するが、弥生土器は１号溝に帰属するものであろう。

３号溝（第３図）

３号溝は、調査区北西部のＰ 118 に接続する小溝で、同じくＰ 118 に接続する４・５号溝と同様の性格を持つ可能性がある。北西から南東に延び、1.3 m程度を検出した。幅は 13 ㎝前後で、深さは 7.5 ㎝と浅い。

図化できる遺物は出土していない。

４号溝（第３図）

３・５号溝同様にＰ 118 に接続する小溝で、南西から北東方向へ 1.7 mを検出した。幅は７～ 13 ㎝程度で、深さは４㎝以下である。

図化できる遺物は出土していない。

５号溝（第３図）

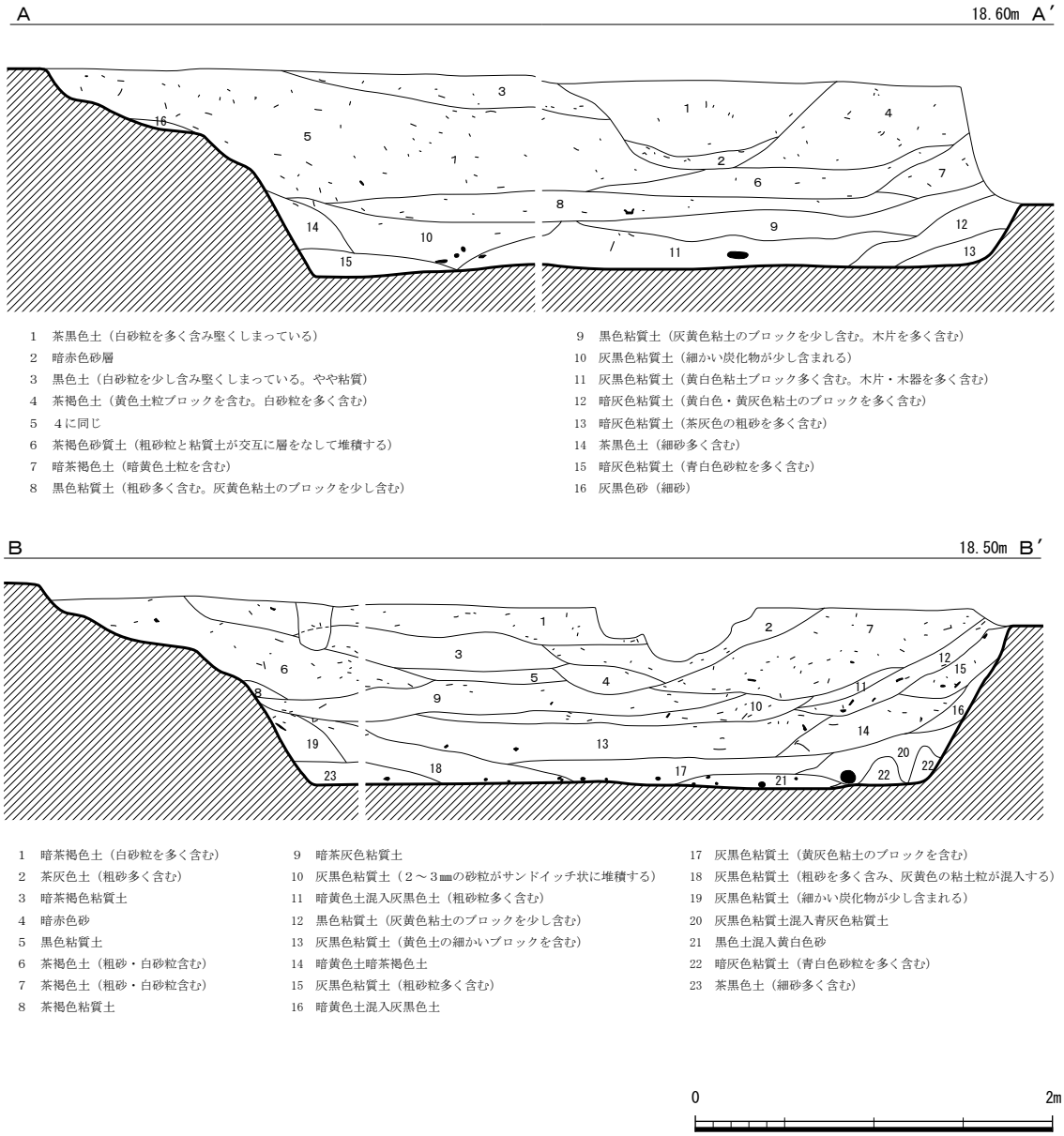
上述したようにＰ 118 に接続する。北東から南西方向へ 1.25 mを検出した。幅は７～ 16 ㎝程度で、深さは４㎝以下の小溝である。

弥生土器が出土する。

６号溝（第３図）

調査区東隅付近で略東西方向に 5.1 m程を検出した。幅は 15 ～ 20 ㎝程度の小溝で、深さは６㎝以下と浅く、一部は消滅する。

図化できる遺物は出土していない。



第５図　溝等断面土層実測図①（1/40）

（３）　ピット

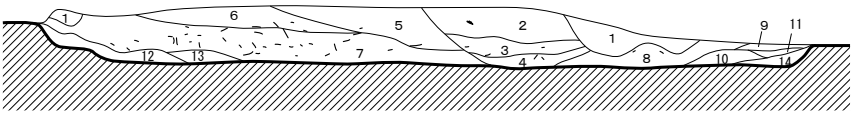
調査区の北部を中心に多数のピットを検出した。これは、現在の地形が南から北へ向けて低くなっていることや溝の残存状況からも分かるように、南側が大きく削平されていることに起因するものと考えられる。

ピットの中には大小があるが、大型のピットには柱痕を検出したものがあり、後述するように竪穴建物や掘立柱建物の柱穴になるものが含まれると考えられる。

北部ピット群（図版５－(3)・(4)、第８図）

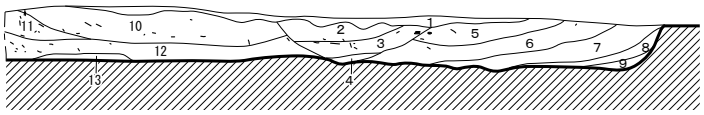
調査区の北部には、大型のＰ 65 を中心に、直径６ｍ程度の範囲にピットが集中する。これらの中

C　　18.30m　C′



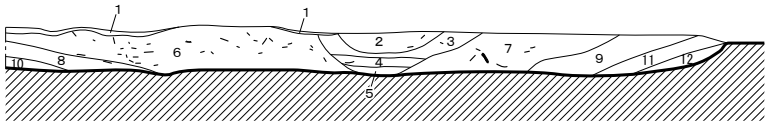
1　攪乱
2　黒色土（砂粒多く含み堅くしまっている）
3　黒色砂質土（粗砂に黒色の粘質土が混じり、堅くしまっている）
4　暗赤褐色砂（細砂）
5　暗茶褐色土（粗砂を含む）
6　黄色土混入茶褐色土
7　黄色土混入暗茶褐色土（４より明るい）
8　６に同じ
9　暗黄色土（茶褐色土が混じる）
10　暗茶灰色土
11　黄褐色土（粗砂を多く含む）
12　黄色土ブロック混入暗茶灰色土
13　暗茶灰色土
14　黄色土（粗砂を多く含む）

D　　18.30m　D′



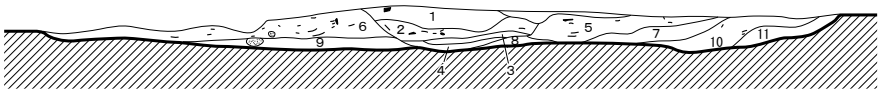
1　攪乱（青灰色・黄色・黒色・茶褐色土混在）
2　黒色土（砂粒多く含み堅くしまっている）
3　黒色砂質土（粗砂に黒色の粘質土が混じり、堅くしまっている。２より明るい）
4　暗赤褐色砂（細砂）
5　茶褐色土
6　黄色土ブロック混入茶褐色土
7　黄色土ブロック混入黒色土
8　黒色土
9　黒色土（黒色土がわずかに混じる）
10　６に同じ
11　６よりやや明るい
12　暗茶褐色土
13　黄色土（地山掘りすぎ）

E　　18.30m　E′



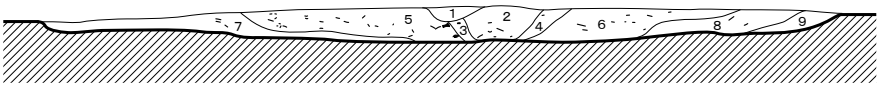
1　攪乱（青灰色・黄色・黒色・茶褐色土混在）
2　黒色土（砂粒多く含み堅くしまっている）
3　灰黒色土（粗砂を層状に堆積している）
4　黒色砂質土（粗砂に黒色の粘質土が混じり堅くしまっている）
5　暗赤褐色砂（細砂）
6　暗茶褐色土
7　暗茶褐色土
8　黄色土ブロック混入暗茶灰色土
9　茶褐色土
10　暗黄色土（黒色土がわずかに混じる）
11　黄色土ブロック混入茶褐色土
12　黄色土ブロック混入黒色土

F　　18.20m　F′



1　黒色土（砂粒多く含み堅くしまっている）
2　黒色砂質土（粗砂に黒色の粘質土が混じる）
3　暗茶褐色砂質土（粗砂に暗茶褐色の粘質土が混じる・２と同一層か）
4　暗赤褐色砂（細砂）
5　黄褐色土混入茶褐色土
6　５に同じ
7　黄褐色土ブロック混入暗茶褐色土
8　灰黒色粘質土
9　８に同じ
10　灰黒色土（黄褐色土粒が少し混じる）
11　暗黄褐色土

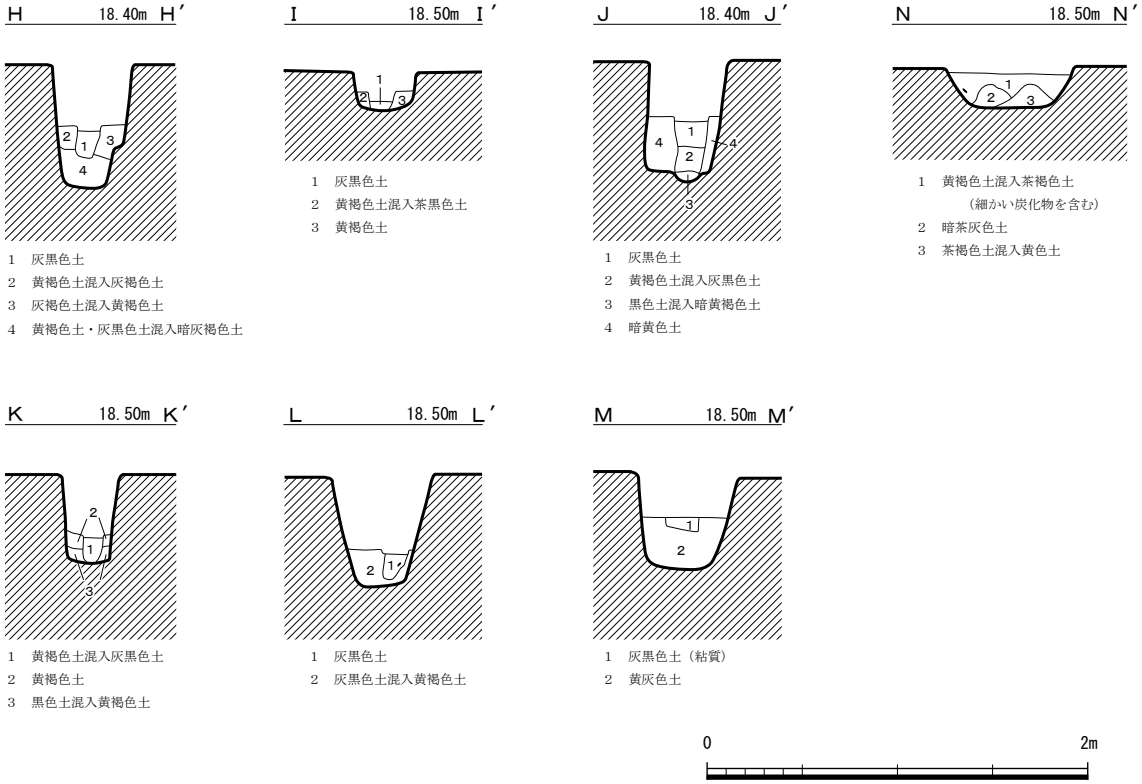
G　　18.20m　G′



1　攪乱
2　黒色土（粗砂・粘質土混在）
3　暗赤褐色粘質土（黒色粘質土混在）
4　３に同じ
5　暗茶褐色粘質土
6　茶褐色土（黄褐色土混入）
7　６に同じ
8　黄褐色土ブロック混入暗茶褐色土
9　暗茶褐色土混入黄褐色土

0　　2m

第６図　溝等断面土層実測図②（1/40）



第７図　溝等断面土層実測図③（1/40）

でも破線で示した円の上には、大型ピットが同じような間隔で並び、しかも、Ｐ３・44・72・75・91は柱痕が認められる。

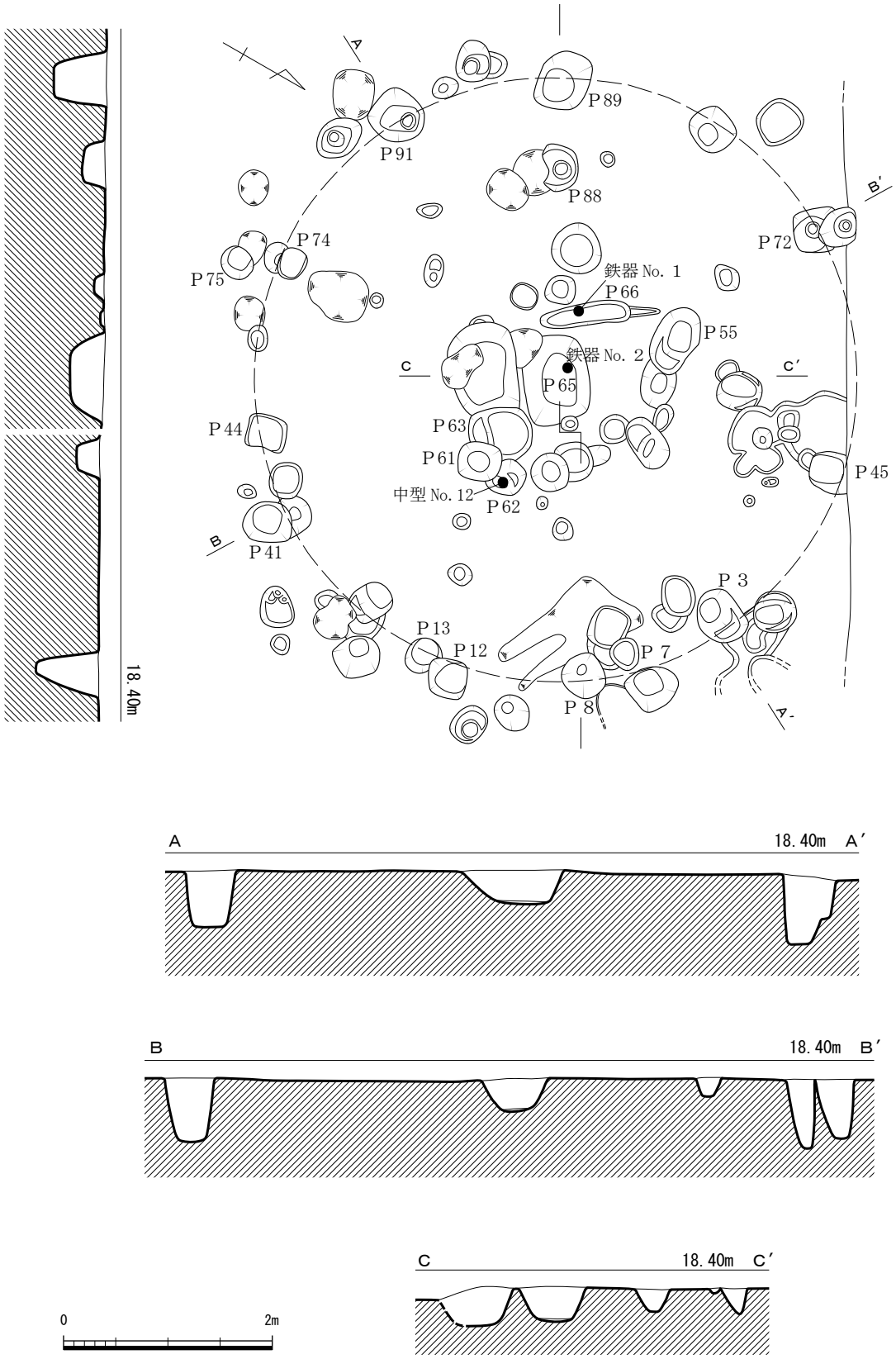
以上のことから、当ピット群は削平を受けた円形の竪穴建物跡で、柱穴しか残存していないと考えた。直径６ｍ前後に主柱穴が存在するため、本来の建物の規模は７～８ｍ程度であろう。

３　遺物

（１）　土器（図版６～12－(1)、第９～18図、表1）

1号土坑出土土器（1～109）

1～109は弥生土器である。1～20は壺。1・2は複合口縁壺で、1は頸部が締まり、頸部と体部の境には断面三角突帯が付く。2は口縁部の破片資料。一次口縁と二次口縁の境には、稜を持つ。外面は丹塗り。3・4は袋状口縁壺で、3は口縁下に突帯を付し、外面は丹塗り。4は口縁部の破片資料。厚みがあり、やや雑な印象を受ける。5は頸部から外反する口縁部を持つ壺。6・7は無頸壺。6は小型品で扁球状の体部に短い口縁部が付き、底部は凸レンズ状。7は外面に丹を施す小ぶりの資料。口縁部の外端部をやや下方へ下げ、口縁下に断面台形の突帯を付す。8～16は口縁部で、傾きや口径から壺と判断した。8～12は断面が鋤先状を呈するもので、10・12は内側の突出度は弱く、



第８図　北部ピット群実測図（1/60）

上面は外傾する。9は外端部に刻目を施す。13・14は内口縁が鋭く突出し、14は上面が窪む。15は口縁部上面が内傾し、外口縁の厚みは薄い。16は上面が水平な資料で、厚みがあり、外口縁は短く突出する。15・16ともに内側への突出度は低い。17は壺の頸部から肩部の資料で、1条の三角突帯を付す。頸部は突帯から外反し、肩部はなで肩を呈する。18は瓢形土器の肩部下の突帯部資料。19・20は底部。19は平底で、20は上底。

21～65は甕の口縁部。21～29は、断面形が「く」字に近い資料で、21・22・24は口縁部の上面が丸みを持ち、23はやや強く屈曲する。残存状況から22・23の胴部はやや丸みを持つと考えられる。29は小型品で、口縁部は緩やかに屈曲し、上面を窪ませる。30～41は口縁下に断面三角突帯を付す資料。41の突帯は非常に貧弱で、37は突帯が剥落する。30は断面「く」字状で、端部をやや肥厚させる。31は口縁部を匙面状に成形する中型品であろう。32は断面形が「T」字状の口縁部。33～41は断面形が逆「L」字状の口縁部。口縁部上面は、33～35・37・38・41はやや内傾し、36・39は水平、40はやや窪みを持つ。42～57は口縁下に突帯を付さないもの。42・43は破片資料で、内面を突出させ、外端部を丸く成形する口縁部。上面は42が外傾し、43は水平。44は内口縁をやや突出させる断面「T」字状のもの。45・47は口縁部がやや内傾し、上面が窪むもの。48・49は内口縁の突出が弱く、上面が水平なもの。50・51は口縁部片が外に短く突出し、口縁部上面は50が丸みを持ち、51は若干窪む。52～54は口縁部が内傾し、胴部がやや膨らむ資料。55は外側に伸び、やや垂下する口縁部。56は内傾し、内側を小さく突出する資料。57は内端部を突出させ、外端部を肥厚させ丸く仕上げる口縁部。

58～60は大型の甕。58は口縁部が「く」字状をなし、断面三角突帯を付す。胴部に丸みを持つものであろう。59は外傾する口縁部片。内端部は肥厚し丸みを持ち、外端部は面を持つ。60は胴部に丸みを持つ個体。口縁部は水平で外端部は突出する。

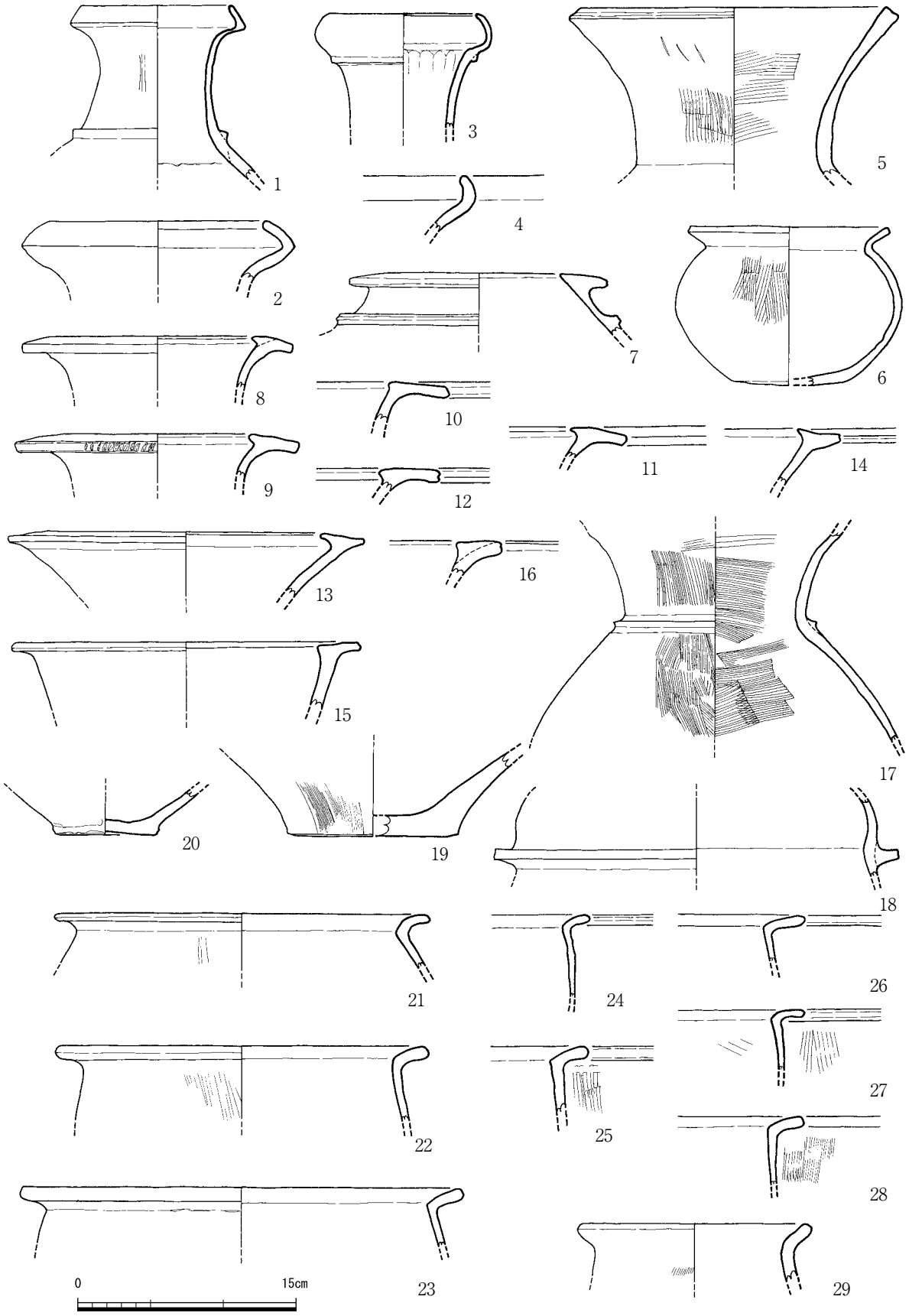
61～62は刻目突帯文土器の甕で、すべて小片。61・62は胴部上部で逆「く」字に反転する資料。両者ともに口縁端部外面の突帯と、後者の屈曲部突帯に刻目を持つ。63・64は刻目突帯を持つ屈曲部。65は口縁部に刻目を持つ突帯。

66～95は底部で、甕が主体ではあるが、壺なども含まれる。66は胴部下半が残存する。丸底に近いが、小さな底部がある。67は丸底で、器壁が厚い資料。68～69は凸レンズ状の底部をもつ資料。70～88は平底ないし僅かに上底を呈し、底部の器壁が薄いもの。85は底部に焼成後に、外面からであろうか穿孔を施す。89～95は底部の器壁が厚く、平底ないし僅かに上底を呈する資料。91は壺の可能性があろう。

96～98は甕の蓋。97・98のツマミはやや張る。

99～102は鉢の口縁部。99は半球形の体部から口縁部が短く屈曲する資料。100は体部の器壁が薄く、外反する口縁部を持つもの。101は体部の上部が内湾気味に直立し、口縁部へといたる資料。102は倒卵形の体部を持つと考えられ、「く」字状に口縁部を屈曲させる。

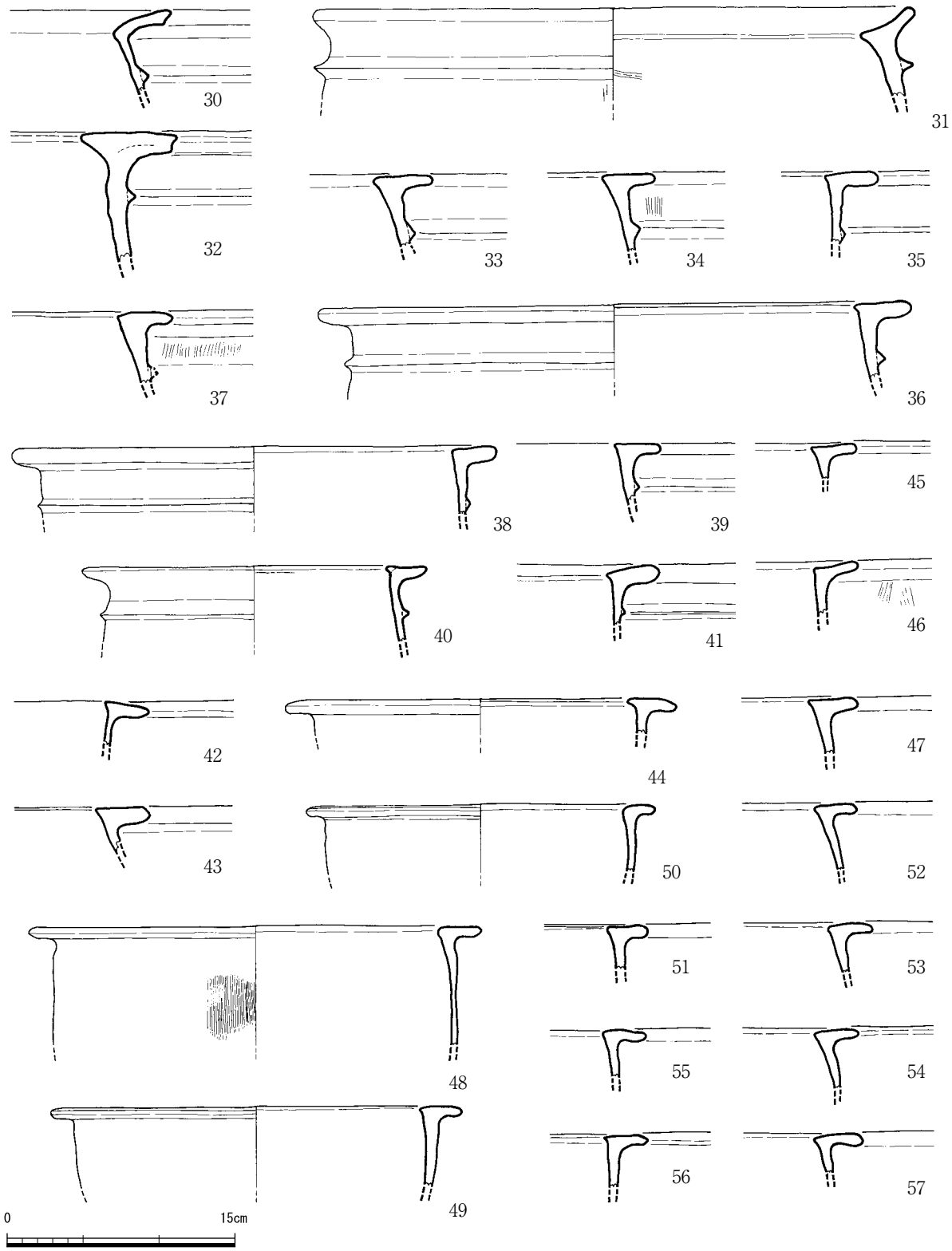
103～105は高坏。103・104は坏部が屈曲し、外反する口縁部にいたる資料。口縁端部は丸く成形し、103の外反度は弱い。105はやや小型の鋤先口縁の高坏。磨滅が著しいが、本来は丹が施されて



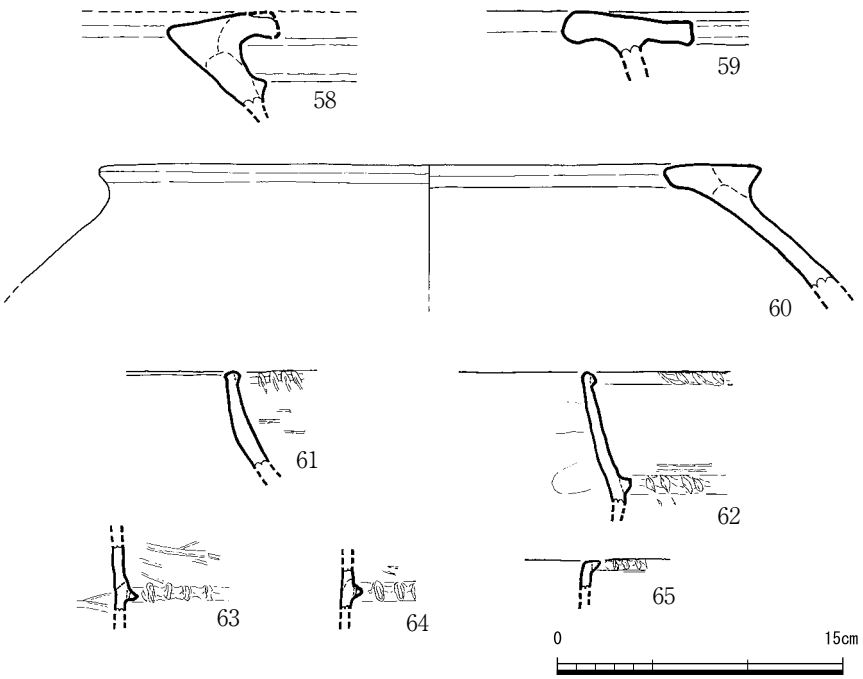
第９図　１号土坑出土土器実測図①（1/4）

いたと考えられる。

106～108は器台。106と107は薄い作りの口縁部と脚裾部。108は口縁部を欠損する資料。厚手で、外面調整も粗い。109は脚台部。甕や鉢が上部に接合するのであろう。



第10図　1号土坑出土土器実測図②（1/4）



第 11 図　1 号土坑出土土器実測図③（1/4）

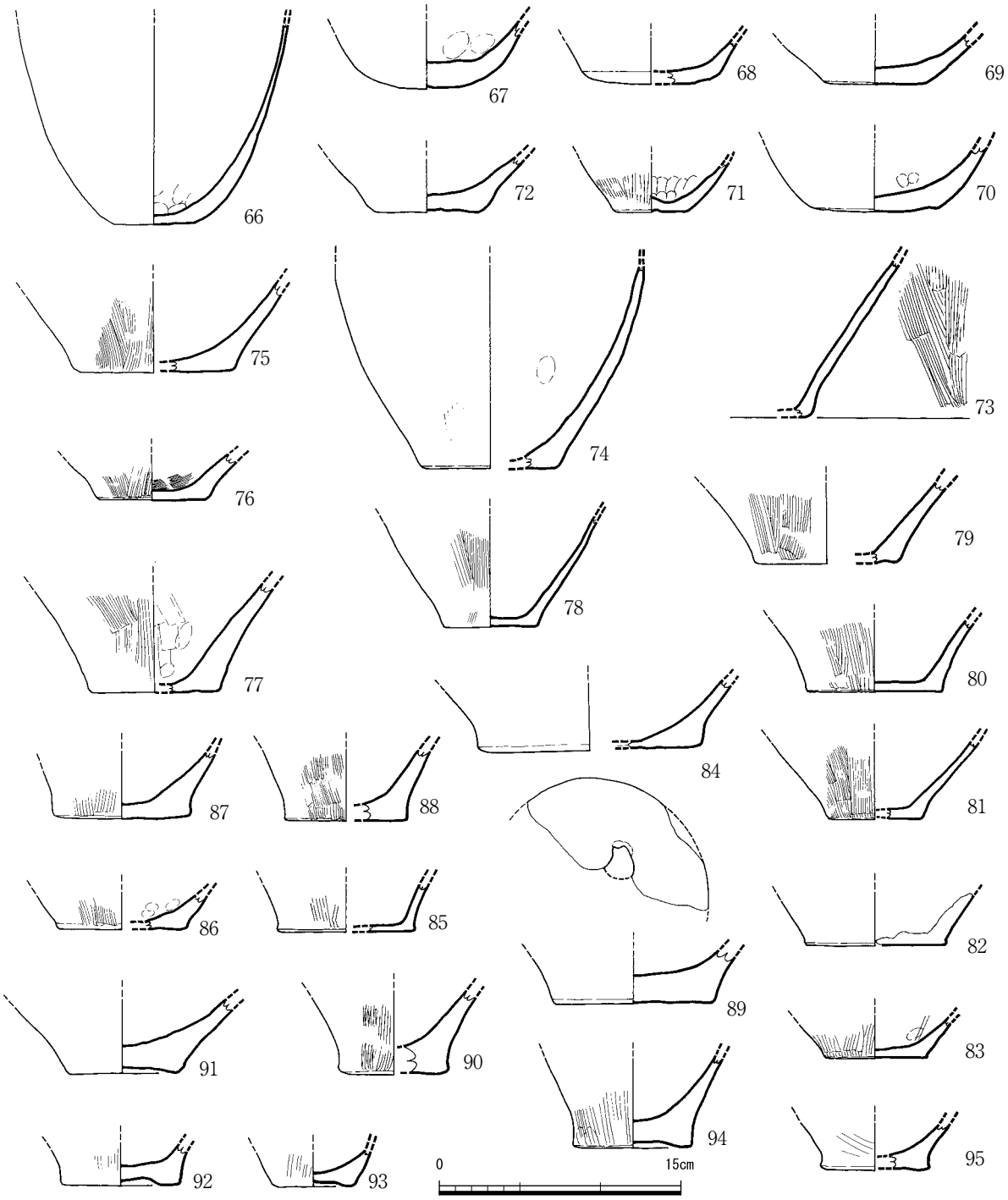
1 号溝出土土器（110 ～ 188）

110 ～ 186 は弥生土器である。110 ～ 124 は壺。110 ～ 112 は複合口縁壺。110 は頸部から長く外反する口縁部を持つ資料。強く屈曲し、口縁端部は肥厚する。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。111 は頸部が短く、口縁部の屈曲に丸みを持つもの。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。112 は屈曲度が強い口縁部の破片。113 ～ 119 は鋤先口縁を持つもの。113 は口縁部の上面が水平で、外側への突出は弱い。114 は口縁端部に面を持ち、刻目を施す資料。115 は上面が外傾し、外口縁が突出するもの。116 は内側を嘴状に突出させ、外側はやや長めに突出させるもの。117 は口縁下に小さな断面三角形の突帯を持つもの。118 は 115 の口縁部の形状に類似する破片資料。119 は内側が殆ど突出しないもの。120・121 は瓢形土器突帯部付近。120 の肩部はなで肩で、突帯は高く上辺を窪ませる。121 の突帯は断面三角形で、突出度は低い。122 ～ 124 は底部。122 は平底で、底部の厚みがある資料。124 は器壁が薄く、上底で、123 は両者の中間的なもの。

125 ～ 150 は甕の口縁部。125 ～ 132 は断面が「く」字状を呈するもの。125 は口縁部がやや外反し端部を丸く成形するもの。126 は端部をやや欠損するが、丸く仕上げる資料。127 は口縁部が直線的にのびる資料で、端部は面を持つ。128 は 127 と同じような個体。129 は口縁部が外反し、端部を丸く成形するもの。130 は口縁部が直線的にのび、胴部最大径が口径と差がないと考えられる資料。131・132 は中型品であろう。口縁下には断面三角形の突帯を付す。133 は大甕の口縁部で、断面三角形の小ぶりの突帯を付す。134 は口縁部上面が内傾し、端部は丸く成形する。断面三角形の突帯を付す。135 は口縁部が垂下する資料。136・137 は胴部に丸みを持つ大甕。136 は口縁部の上面はほぼ水平で、内口縁は強く張り出す。外口縁は面を持つ。137 は口縁部上面がやや内傾する資料で、内口縁はやや突出する。138 ～ 146 は口縁部が逆「L」字の資料。口縁部上面は、138 ～ 140 は内傾し、141 ～ 143 は水平、144 ～ 146 は外傾する。139・144 の上面はやや窪ませる。146 には断面三角形の突帯を付す。

147 ～ 150 は突帯文土器の甕の口縁部。147 は刻目を工具により施すもの。148・150 は外端部に突帯を貼り付ける小片。149 は胴部の上部から屈曲し、口縁部にいたる形態の甕であろう。

151 ～ 171 は底部。151 ～ 155 は底部が凸レンズ状をなす資料。156・157 は上底状の底部で、やや

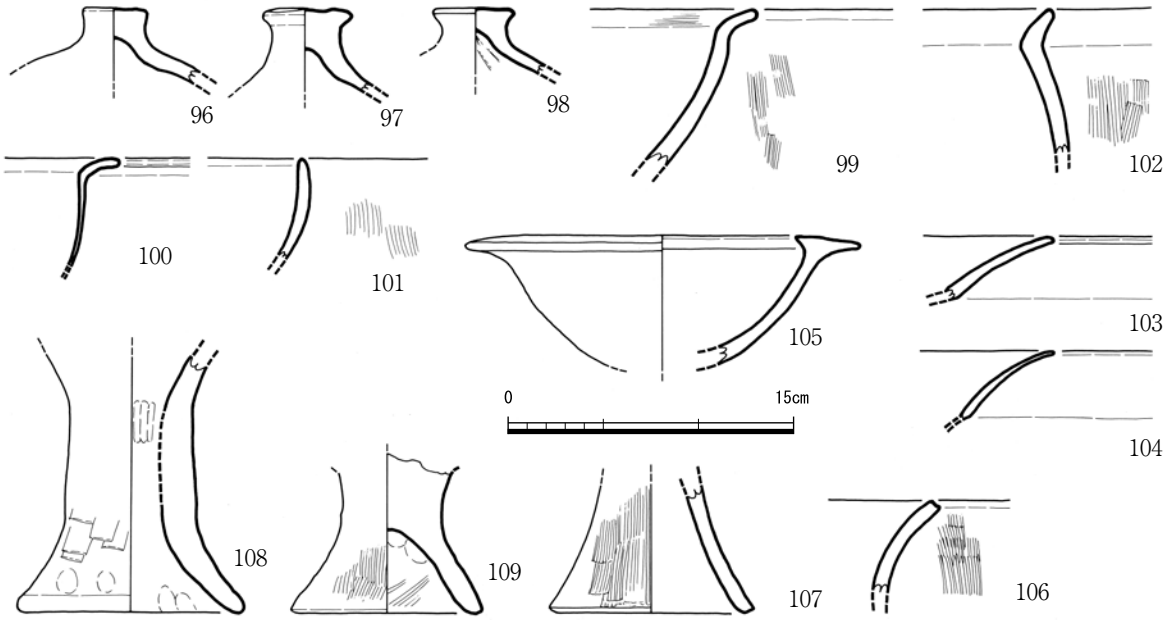


第 12 図　1 号土坑出土土器実測図④（1/4）

外側へ広がるために、脚台のような形状を呈する。158 ～ 164・168・169・171 は平底ないし若干上底気味の底部。161・163・168・169 は底部の器壁が厚い。165 ～ 167・170 は底部が上底で、器壁が厚い。

172 は甕の蓋で、天井部は窪む。

173 ～ 178 は高坏。173・174 は口縁部で、鋤先状を呈するもの。174 は磨滅のため器壁が薄くなる。口縁下に断面三角形の突帯を付す。175 ～ 178 は脚部。175 は裾部に円形のスカシ孔を有する。176



第 13 図　１号土坑出土土器実測図⑤（1/4）

は脚柱部で、内面にはシボリ痕が目立つ。177 は坏部の剥落が観察できる。178 は低い脚部と推定できる資料。台付鉢などの脚台になる可能性もある。

179 は鉢。扁球形の体部に短い口縁部が「く」字状に接続する。

180 ～ 186 は器台。180 はくびれ部を上位に持ち、口径よりも脚部径の方が大きい。181・182 は器高の低いもの。181 は口径と脚部径に殆ど差がない資料。182 は口縁部よりも脚部径が大きい資料で、内面には指頭痕が目立つ。183 は下半部の資料で、脚柱部は直立する。184 は上半部の資料。口縁部は殆ど外反しない。185 は所謂沓形器台。上面の一方が突出し、そこから傾く。円形の穿孔が一つ施される。186 は筒形器台の鍔部付近。磨滅のため内外面の調整は不明だが、丹を施していたと考えられる。

187・188 は混入品。187 は２号溝に帰属する土師器の高坏。188 は陶質土器の筒形器台の口縁部。内外面に自然釉が認められる。

５号溝出土土器（189）

189 は大甕の口縁部で、断面形は「Ｔ」字に近い。内口縁の端部は丸く成形し、外口縁の端部は面を持つ。磨耗のため調整は不明。

Ｐ３出土土器（190・191）

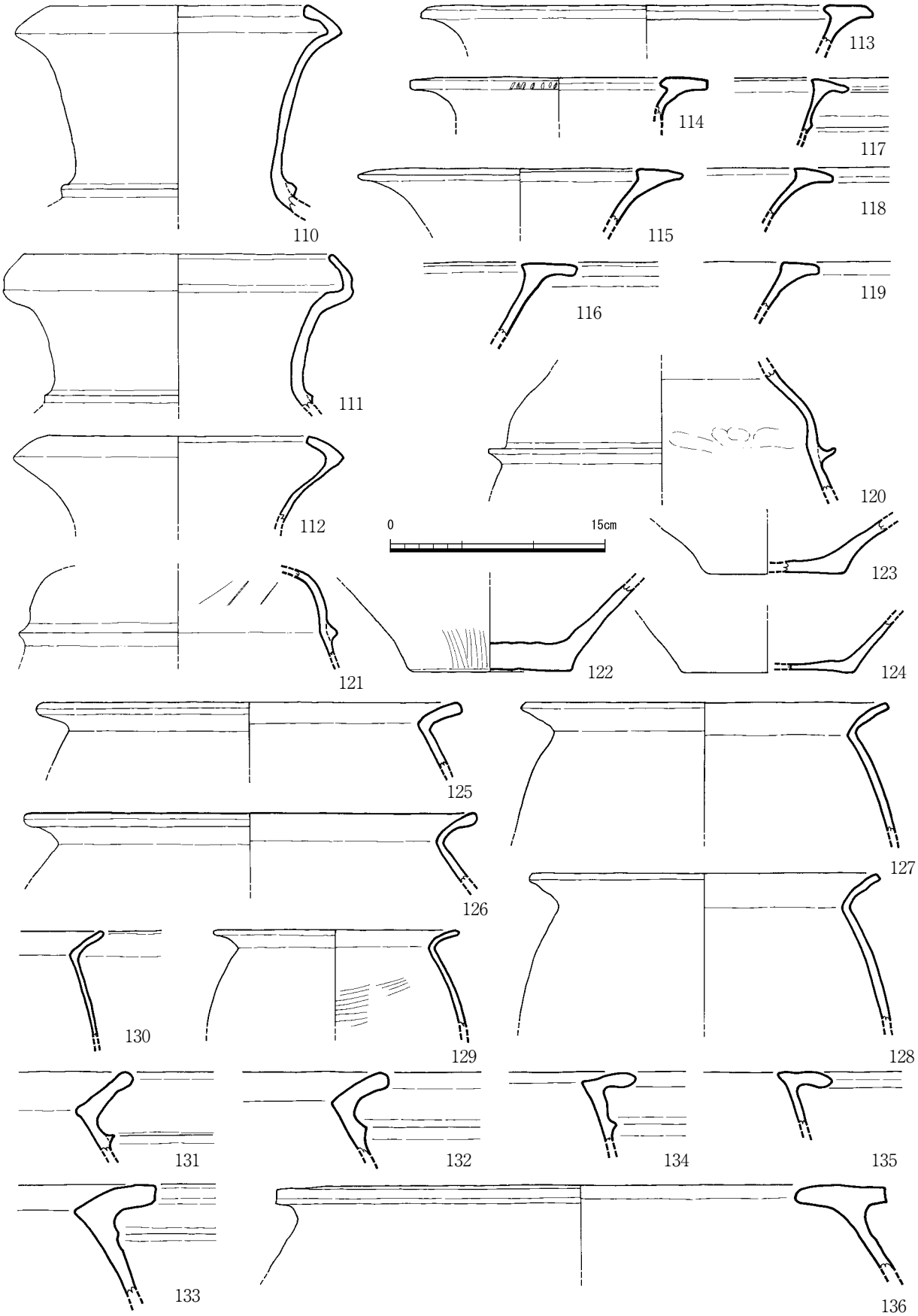
190 は壺の口縁部。内口縁は突出し、外口縁は短く、面を持つ。191 は器壁が厚い底部片。

Ｐ 12 出土土器（192）

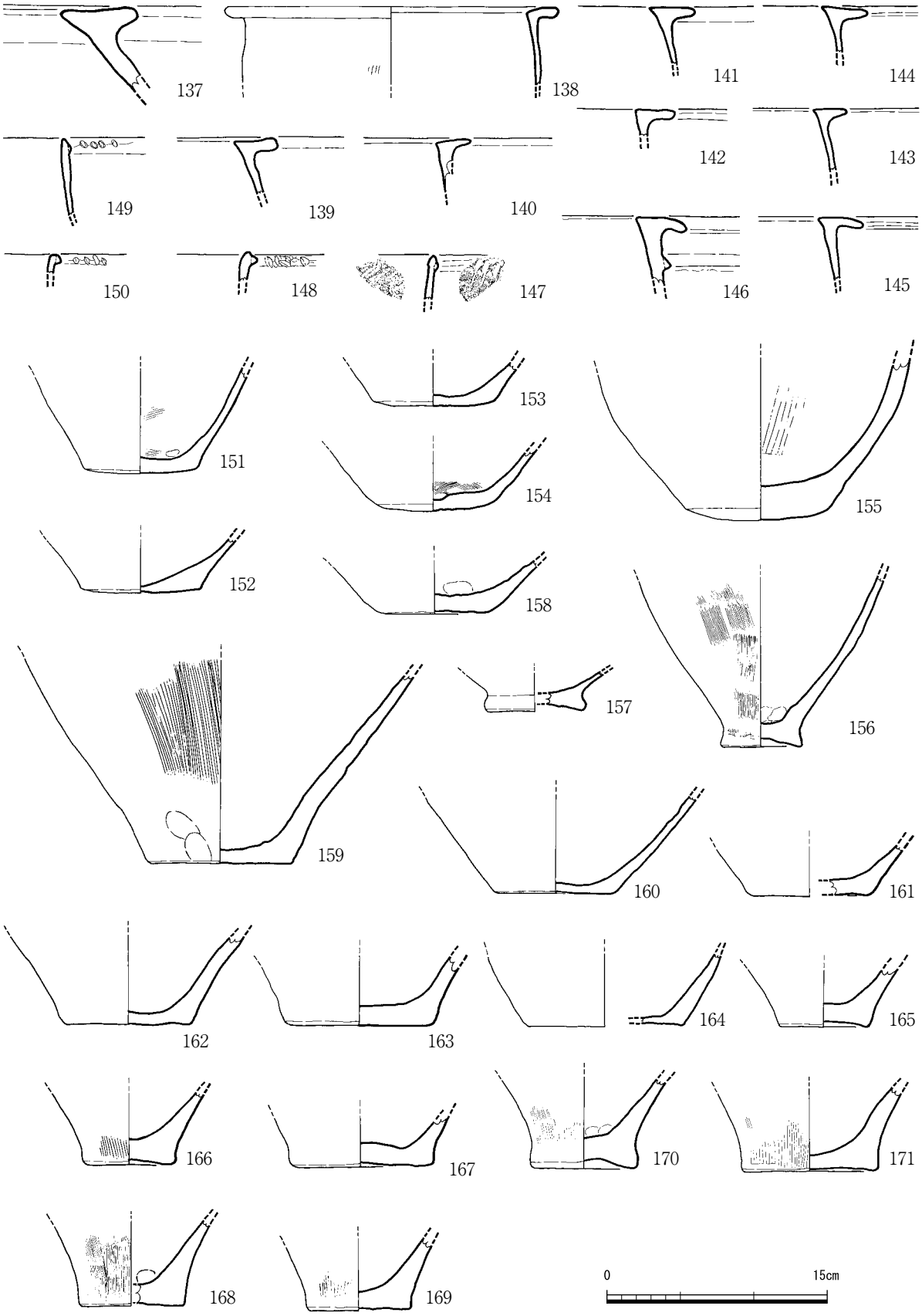
192 は甕の口縁部で、内口縁は尖り、上面は内傾する。

Ｐ 13 出土土器（193・194）

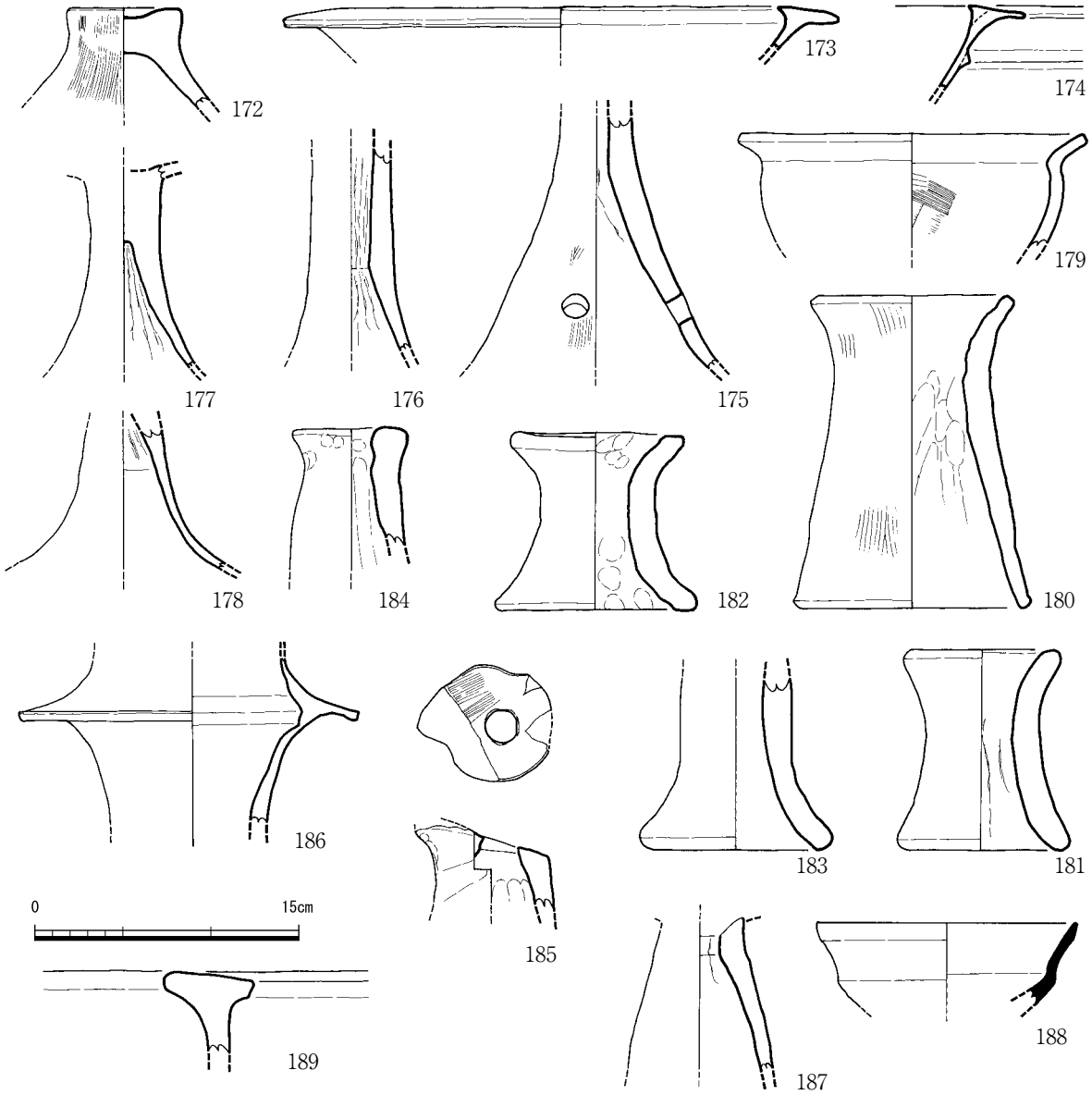
193 は壺の体部で、口唇状の突帯を最大径付近とその上部に貼り付ける。194 は甕の口縁部で、上面は外傾し窪む。突出度のない断面三角形の突帯を付す。



第 14 図　1 号溝出土土器実測図①（1/4）



第 15 図　1 号溝出土土器実測図②（1/4）



第 16 図　１号溝出土土器実測図③・５号溝出土土器実測図（1/4）

Ｐ 27 出土土器（195・196）

195 は壺の体部で、最大径の下に断面台形の突帯を付し、刻目を施す。196 は口縁部の破片資料で、壺の可能性がある。端部は面をなす。

Ｐ 28 出土土器（197）

197 は甕の口縁部。外端部は丸く成形し、上面は内傾する。

Ｐ 30 出土土器（198 ～ 202）

198・199 は壺。198 は口縁部で、上面は水平。199 はやや上底気味の底部。両者ともに外面はヘラミガキを施す。200 ～ 202 は甕。200 は口縁部で、外端部はやや肥厚し丸みを持つ。上面は内傾する。201 も口縁部で外端部は丸みを持ち、上面はやや内傾する。202 は甕の底部。底部が小さいために不安定な感がある。

Ｐ 41 出土土器（203・204）

203 は甕の胴部下半から底部が残存する資料。平底を呈し、器壁は薄い。204 は鉢の口縁部片。断面形が逆「Ｌ」字をなし、上面は水平。

Ｐ 45 出土土器（205）

205 は甕の口縁部。内口縁をやや突出させ、外端部は丸い。上面はやや内傾する。

Ｐ 55 出土土器（206・207）

206 は壺の底部であろう。凸レンズ状をなし、器壁は中央部が薄い。207 は甕の口縁部。外口縁は外側に摘み上げるように作り出される。

Ｐ 57 出土土器（208・209）

208・209 は甕の口縁部。208 は上面が内傾し、外端部は丸く成形する。断面三角形の突帯を付す。209 は断面形が逆「Ｌ」字をなす資料。

Ｐ 65 出土土器（210・211）

210・211 は甕の口縁部。210 は胴部から短く外反する口縁部を持つ。211 は断面逆「Ｌ」字状の資料。上面は内傾する。

Ｐ 78 出土土器（212 ～ 214）

212・213 は、断面形が逆「Ｌ」字を呈する甕の口縁部。両者ともに上面はやや内傾し、外口縁は外側に短く突出させ丸い。214 は甕の底部上底で、器壁は厚い。

Ｐ 84 出土土器（215）

215 は甕の口縁部片。上面は内傾し、内口縁は鋭く突出する。外口縁は上方へ摘み出すように成形し、端部は丸い。

Ｐ 87 出土土器（216）

216 は甕の底部。上底状を呈し、底部中央部の器壁が薄い。

Ｐ 88 出土土器（217）

217 は甕の口縁部片で、断面形は逆「Ｌ」字状を呈する。

Ｐ 89 出土土器（218 ～ 220）

218・219 は甕の口縁部。218 は上面が水平で、外口縁を突出させ、内口縁はやや短く突出させるため、断面形が「Ｔ」字に近いもの。219 は上面が内傾し、中ほどを窪ませる資料。220 は甕の底部で、上底。底部中央の器壁は薄い。

Ｐ 91 出土土器（221）

221 は断面形が逆「Ｌ」字を呈する甕の口縁部。

Ｐ 96 出土土器（222 ～ 227）

222 ～ 225 は甕の口縁部。222 ～ 224 は断面形が逆「Ｌ」字状のもので、口縁部上面はやや内傾する。222・224 は内側を突出させる。225 は大甕で、内側が大きく突出し、外側は若干突出させ端部に面を持つ。上面は外傾する。226・227 は高坏の口縁部。226 は内側の突出度に比べ、外側は小さい感がす

る。227 は内側を鋭く突出させ、外口縁端部には面を持つ。

Ｐ 99 出土土器（228）

228 は高坏の口縁部。227 と同様、内口縁は鋭く突出させ、外口縁の端部は面を持つ。

Ｐ 100 出土土器（229・230）

229・230 は甕の底部。229 は平底で、230 は若干上底。

Ｐ 103 出土土器（231）

231 は断面形が逆「Ｌ」字を呈する甕の口縁部。内側をやや突出させ、外口縁端部は丸く成形、上面は内傾する。

Ｐ 107 出土土器（232 ～ 234）

232 は断面形が逆「Ｌ」字を呈する甕の口縁部。外口縁端部を丸く成形し、上面は内傾する。233・234 は底部。233 は甕であろう。平底で２㎝ほど直立してから胴部へと外傾する。234 は凸レンズ状の底部片。

Ｐ 112 出土土器（235）

235 は器台。鼓形で、くびれ部は中位よりやや上にある。口径は脚部径に比べやや小さい。外面の調整はナデ。

Ｐ 117 出土土器（236）

236 は甕の口縁部で、上面は水平で、内外ともに突出する。

Ｐ 118 出土土器（237）

237 は壺の体部で、最大径よりも若干上に突帯を１条付す。突帯の断面形は三角形に近い台形。表面は磨滅するが、外面にはヘラミガキが残る。

Ｐ 131 出土土器（238・239）

238・239 は甕の口縁部。断面形が逆「Ｌ」字を呈し、内傾する。239 の上面は窪む。

Ｐ 134 出土土器（240）

240 は甕の口縁部の破片資料で、上面は丸みを持つ。

Ｐ 135 出土土器（241 ～ 243）

241・242 は断面が逆「Ｌ」字を呈する甕の口縁部。241 は内口縁がやや突出し、外口縁は長い。242 は外口縁に丸みを持つ資料で、上面は僅かに内傾する。243 は器台で、脚裾部を欠く。くびれ部は上位にあり、僅かに外反する口縁部へと続く。

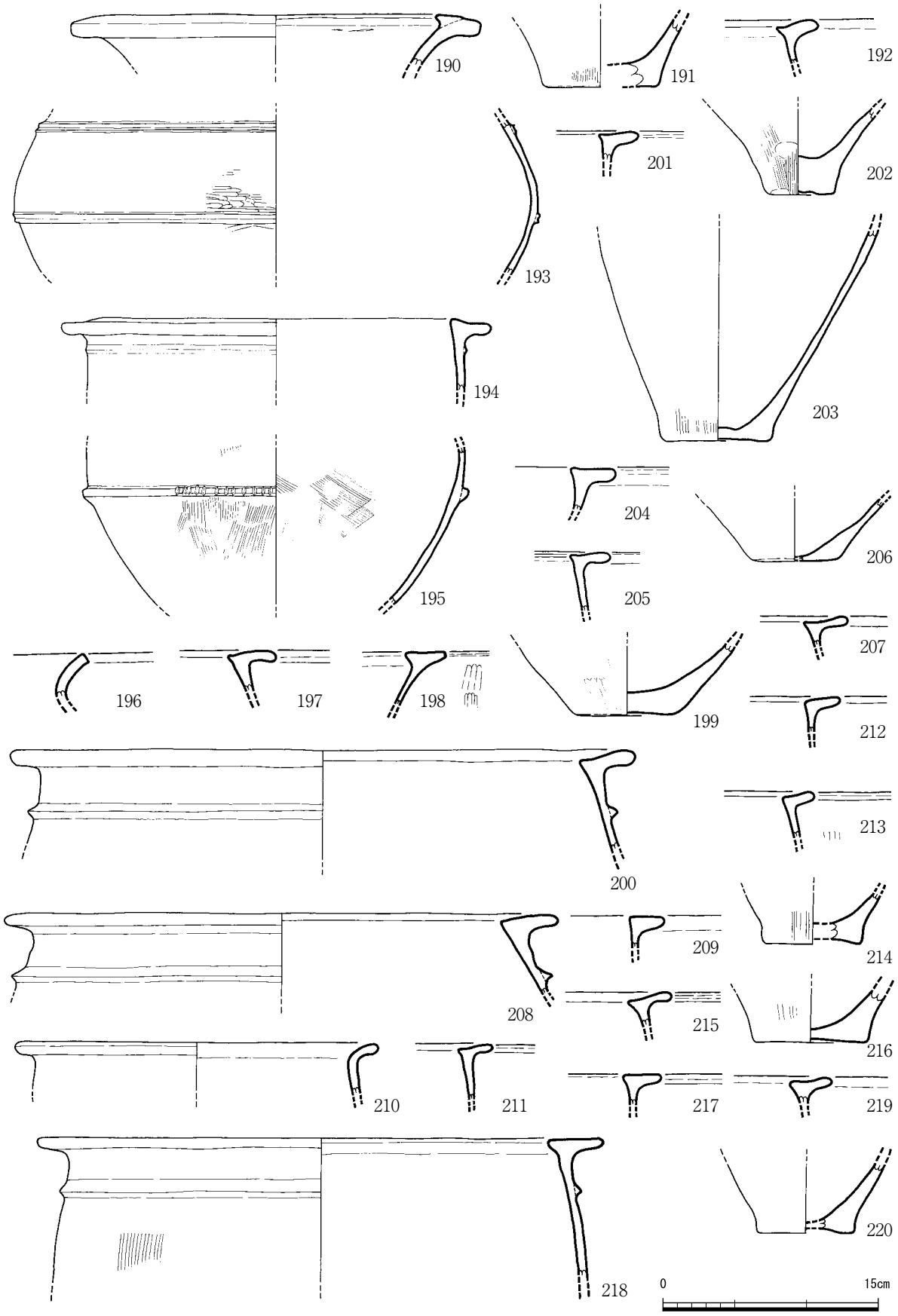
Ｐ 138 出土土器（244）

244 は壺の口縁部と考えた。口径に比して、内口縁、外口縁が小さいため、疑問も残るが頸部の傾きから壺とした。

Ｐ 140 出土土器（245）

245 は器台の脚裾部で、端部は下方に突出する。器壁は厚い。

Ｐ 151 出土土器（246）



第 17 図　ピット出土土器実測図①（1/4）

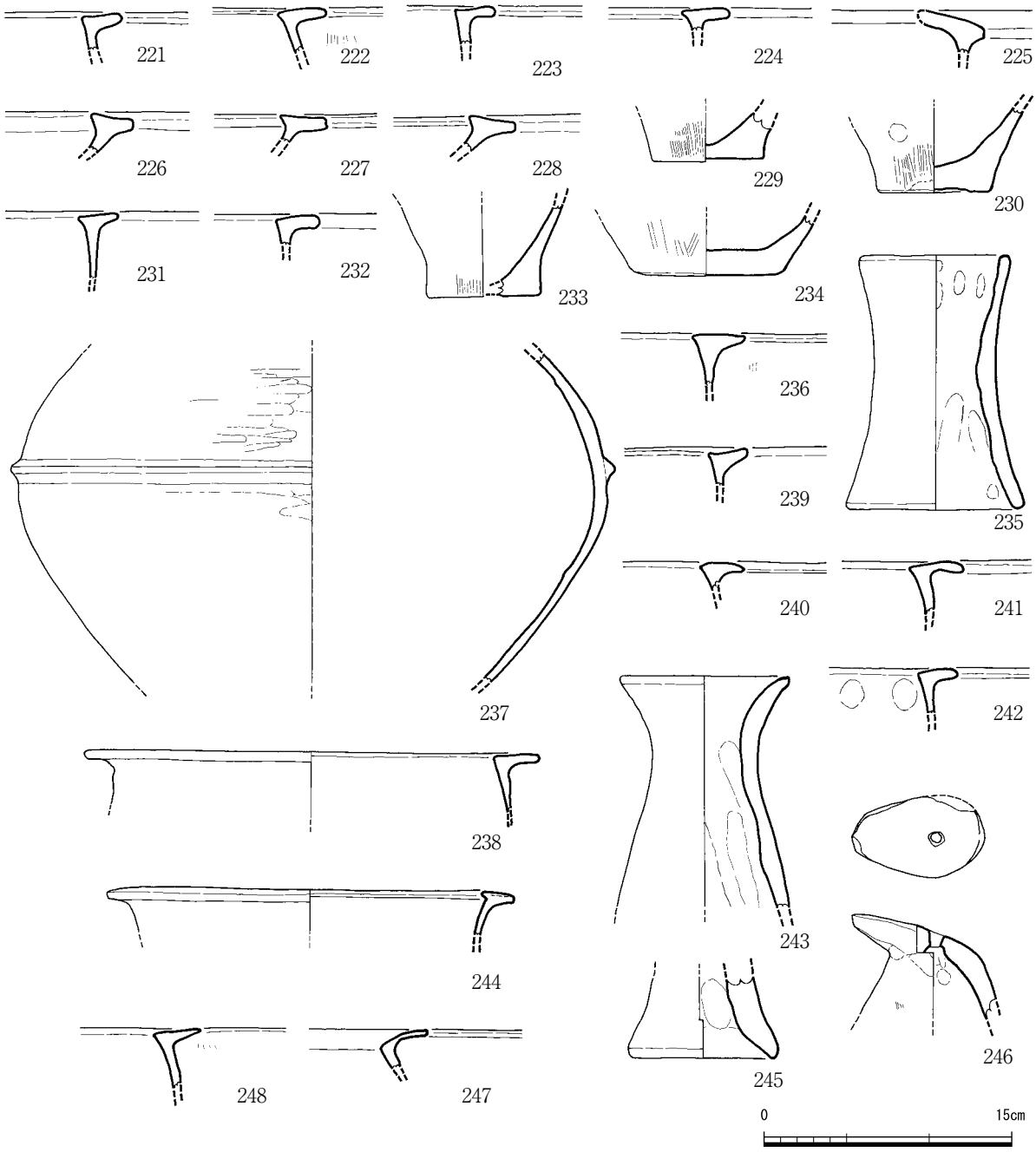
246 は沓形器台。上面に円形の穿孔を有す。

P 162 出土土器（247）

247 は甕の口縁部と考えたが、疑問もある。断面形は「く」字に近く、口縁部の上面はやや丸みを持ち、器壁は薄い。

P 167 出土土器（248）

248 は断面が逆「L」字を呈する甕の口縁部で、やや内傾する上面にはハケメが残存する。



第 18 図　ピット出土土器実測図②（1/4）

表１　１次調査出土土器観察表

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第９図 図版６	壺	１号土坑 最下層	① 10.5	口縁部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰茶褐色～橙褐色、内面灰茶褐色。	
2	第９図 図版６	壺	１号土坑	①（15.0）	口縁部 1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄色。	丹塗り
3	第９図 図版６	壺	１号土坑	① 10.25	口縁部 3/4	調整は外面不明、内面ヨコナデ・指頭痕。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗り
4	第９図	壺	１号土坑	―	口縁部片	調整は不明。 胎土は赤色粒・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面明茶色。	
5	第９図 図版６	壺	１号土坑 最下層	①（21.3）	口縁部 1/3	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目・ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
6	第９図 図版６	無頸壺	１号土坑 最下層	①（14.0）② 11.0 ③ 7.9	全体の 1/2	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
7	第９図 図版６	無頸壺	１号土坑 上層	①（18.0） 突帯部径（19.8）	口縁部 1/3	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒をやや少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶色、内面淡灰茶色～淡茶色。	丹塗り
8	第９図 図版６	壺	１号土坑	①（18.9）	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
9	第９図 図版６	壺	１号土坑 上層	①（19.8）	口縁部 1/5	調整は外面刻み目あり、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	丹塗り
10	第９図 図版６	壺	１号土坑 上層	―	口縁部片	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒・細砂粒を少量、雲母をやや少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰色～褐色。	
11	第９図	壺	１号土坑 上層	―	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒をやや多く、砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面橙褐色～暗灰色、内面橙褐色。	丹塗り
12	第９図	壺	１号土坑	―	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は雲母をやや多く、細砂粒･赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色～橙色、内面橙色。	丹塗り
13	第９図	壺	１号土坑 下層	①（24.0）	口縁部 1/8	調整は内外面ともヨコナデ。 胎土精良。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面明褐色～橙色、口縁部灰褐色。	丹塗り
14	第９図	壺	１号土坑 下層	―	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰褐色～暗褐色、内面淡灰褐色。	
15	第９図 図版６	壺	１号土坑	―	口縁部 1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
16	第９図	壺	１号土坑	―	口縁部片	調整は内外面ヨコナデ・ナデ。 胎土は雲母をやや多く、砂粒・赤色粒をやや少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに灰～暗灰色。	
17	第９図 図版６	壺	１号土坑 最下層	突帯部径（14.1）	頸部 1/2	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ハケ目。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
18	第９図 図版６	瓢型 土器	１号土坑 上層	突帯部径（28.2）	胴部 1/3	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面明褐色。	丹塗り
19	第９図 図版６	壺	１号土坑	③（11.9）	底部 1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く、赤色粒を少量、微細な雲母・角閃石をやや少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～淡橙色、内面淡黄橙色。	
20	第９図 図版６	壺	１号土坑 最下層	③（7.1）	底部 1/2	調整は外面ヘラミガキ・ナデ？、内面ナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色、内面赤褐色。	丹塗り
21	第９図	甕	１号土坑 下層	①（26.0）	口縁部 1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を少量、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶灰色、内面黒灰色。	
22	第９図 図版６	甕	１号土坑 最下層	①（26.0）	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	スス付着
23	第９図	甕	１号土坑	①（30.8）	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を多くを含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
24	第９図	甕	１号土坑 下層	―	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐灰色、内面淡橙色～淡褐灰色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
25	第9図	甕	1号土坑 最下層		—	口縁部片	調整は外面ハケ目後ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐灰色。	スス付着？
26	第9図	甕	1号土坑 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面暗灰褐色。	
27	第9図	甕	1号土坑 下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黒灰色～白灰色、内面白灰色。	
28	第9図	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
29	第9図	甕	1号土坑 最下層		①（16.2）	口縁部1/8	調整は外面ともにヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色～黄褐色。	
30	第10図	甕	1号土坑 最下層		—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡黄灰色～橙色～暗灰色、内面淡黄灰色。	
31	第10図 図版6	甕	1号土坑 下層		①（40.0） 突帯部径（39.7）	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目。 胎土は細砂粒･微細な金雲母を少量、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡茶灰褐色。	
32	第10図 図版6	甕	1号土坑 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
33	第10図 図版6	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を多く、砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明灰茶色～明橙茶色、内面明橙茶色。	
34	第10図	甕	1号土坑 最下層		—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒・微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～灰茶色、内面は灰褐色。	
35	第10図	甕	1号土坑 上層		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面白灰褐色～褐色、内面白灰色。	
36	第10図 図版6	甕	1号土坑 下層		①（39.5） 突帯部径（35.9）	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
37	第10図 図版7	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～淡橙灰白色。	
38	第10図	甕	1号土坑 下層		①（32.3） 突帯部径（28.8）	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
39	第10図	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～褐色。	
40	第10図 図版7	甕	1号土坑 下層		①（23.0） 突帯部径（20.6）	口縁部1/4	調整は不明。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗り
41	第10図	甕	1号土坑 最下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
42	第10図	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～褐色。	丹塗り
43	第10図	甕	1号土坑		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
44	第10図	甕	1号土坑 上層		①（26.1）	口縁部1/8	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面黄褐色、口縁部灰褐色。	
45	第10図	甕	1号土坑 下層		—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は微細な金雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色～淡桃褐色、内面淡黄灰色～淡灰色。	
46	第10図 図版7	甕	1号土坑 下層		—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
47	第10図 図版7	甕	1号土坑 最下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶灰褐色、内面灰褐色～茶灰褐色。	
48	第10図 図版7	甕	1号土坑 最下層		①（30.0）	口縁部1/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡赤橙色、内面赤橙色。	
49	第10図	甕	1号土坑 下層		①（27.5）	口縁部1/8	調整は外面不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
50	第10図 図版7	甕	1号土坑 下層	①（23.3）	口縁部1/5	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明褐色。	
51	第10図	甕	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～黒灰色、内面黒灰色。	
52	第10図	甕	1号土坑 最下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶色。	
53	第10図	甕	1号土坑	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は赤色粒･細砂粒を多く、微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙茶色。	
54	第10図	甕	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・微細な白雲母・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙灰色、内面灰色。	
55	第10図	甕	1号土坑 最下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰茶色。	
56	第10図 図版7	甕	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は赤色粒・砂粒を少量、雲母・角閃石をやや少量含む。 焼成は不良。 色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色～橙色。	
57	第10図	甕	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
58	第11図	甕	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒・赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～暗灰色、内面灰褐色～橙褐色。	
59	第11図	甕	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面明橙褐色。	
60	第11図 図版7	甕	1号土坑 最下層	①（35.0）	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒、金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明灰茶色。	
61	第11図 図版7	突帯文 土器	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は外面貝殻条痕、内面不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～黄灰褐色、内面灰茶褐色。	
62	第11図 図版7	甕	1号土坑 最下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ・貝殻条痕、内面指頭痕・ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
63	第11図	甕	1号土坑	—	突帯部片	調整は外面突帯部刻み目・貝殻条痕、内面貝殻条痕。 胎土は砂粒・細砂粒を少量、雲母・角閃石をやや少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面暗灰褐色～黒灰色、内面暗灰褐色。	
64	第11図	甕	1号土坑	—	突帯部片	調整は外面突帯部刻み目・ヨコナデ・貝殻条痕、内面ナデ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～暗褐色、内面灰褐色。	
65	第11図	甕	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は外面刻み目、内面不明、口縁部ナデ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石をやや少量含む。焼成は良好。 色調は内外面褐灰色～暗褐色。	
66	第12図 図版7	底部	1号土坑 上層	③（5.2）	底部3/4	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕あり。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面明褐色。	
67	第12図 図版7	底部	1号土坑 上層	—	底部1/2	調整は外面ナデ？、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、角閃石・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面暗褐色。	
68	第12図	底部	1号土坑 下層	③（7.4）	底部1/8	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面とも淡橙色～白灰色。	
69	第12図 図版7	底部	1号土坑 下層	③6.4	底部完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色～灰黒色、内面灰黒色。	
70	第12図 図版7	底部	1号土坑 上層	③（7.8）	底部1/2	調整は外面不明、内面指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～灰褐色、内面明灰褐色。	
71	第12図 図版7	底部	1号土坑	③（4.7）	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面指頭痕・ナデ。 胎土は細砂粒・雲母をやや少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
72	第12図	底部	1号土坑 上層	③（6.6）	底部1/2	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色～灰褐色、内面橙褐色。	
73	第12図	底部	1号土坑 下層	—	底部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を多く、微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面茶褐色～灰茶褐色～黒褐色。	
74	第12図 図版7	底部	1号土坑 上層	—	底部片1/3	調整は外面ハケ目、内面指頭痕あり。 胎土は砂粒を多く、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色～淡橙褐色、内面淡灰黄褐色～淡灰褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
75	第12図 図版7	底部	1号土坑	③（10.0）	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・赤色粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明橙色～橙褐色、内面明黄灰色。	
76	第12図 図版7	底部	1号土坑 下層	③7.2	底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は砂粒・赤色粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面とも褐灰色～淡橙色。	スス付着？
77	第12図 図版7	底部	1号土坑 下層	③（8.3）	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・工具痕・指頭痕あり。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
78	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③（5.8）	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～黄褐色、内面灰褐色～黒褐色。	
79	第12図	底部	1号土坑 下層	③（9.0）	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色～灰褐色、内面明灰褐色。	
80	第12図 図版8	底部	1号土坑 最下層	③（8.6）	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面黒橙色。	スス付着
81	第12図	底部	1号土坑	③（6.0）	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面白灰色～灰色、内面白灰色。	
82	第12図	底部	1号土坑 最下層	③（10.2）	底部1/4	調整は外面工具痕ナデ？、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色、内面暗灰色。	
83	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③（6.6）	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・指頭痕・ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
84	第12図	底部	1号土坑 上層	③（14.2）	底部1/3	調整は不明、底部穿孔あり。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面灰褐色～橙褐色、灰褐色～暗褐色。	穿孔あり
85	第12図	底部	1号土坑	③（8.8）	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を多く、粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
86	第12図	底部	1号土坑 下層	③（8.3）	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面黒灰色、内面黄灰色。	
87	第12図 図版8	底部	1号土坑	③8.65	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を少量、砂粒・角閃石を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄橙色、内面灰黄褐色。	
88	第12図 図版8	底部	1号土坑	③（7.6）	底部1/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面灰褐色～黒褐色。	
89	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③（10.0）	底部3/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く、細砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～褐色、内面暗褐色。	
90	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③（7.0）	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄橙色～褐色、内面黄灰色。	
91	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③（7.0）	底部3/4	調整は外面ナデ・指頭痕？、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粒を多く、角閃石をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色。	
92	第12図	底部	1号土坑 下層	③7.4	底部完存	調整は外面ハケ目・ヨコナデ？・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄灰色～橙褐色、内面黄灰色～灰褐色。	
93	第12図	底部	1号土坑 上層	③（5.4）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色、内面明灰褐色～橙褐色。	
94	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③7.4	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	
95	第12図	底部	1号土坑 最下層	③（6.9）	底部1/4	調整は外面工具痕？・ナデ、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面灰黒色、内面黄褐色。	
96	第13図 図版8	蓋	1号土坑 最下層	ツマミ部径3.45	ツマミ部 のみ完存	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面丹塗り、内面橙黄色。	丹塗り
97	第13図 図版8	蓋	1号土坑 上層	ツマミ部径4.8	ツマミ部 3/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
98	第13図 図版8	蓋	1号土坑 上層	ツマミ部径4.3	ツマミ部 のみ完存	調整は外面ナデ、内面ナデ・シボリ痕・アタリ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色～灰褐色、内面明黄褐色。	
99	第13図	鉢	1号土坑	―	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面暗褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
100	第13図	鉢	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐灰色。	
101	第13図	鉢	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰色、内面灰褐色。	
102	第13図	鉢	1号土坑	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
103	第13図	高坏	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒を少量、赤色粒・微細な雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面黒色～白灰色～淡橙色、内面淡橙色。	
104	第13図	高坏	1号土坑 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は赤色粒・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色～橙褐色。	
105	第13図 図版8	高坏	1号土坑 下層	①（14.0）	坏部1/5	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明橙褐色。	
106	第13図	器台	1号土坑 下層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐灰色～橙色。	
107	第13図	器台	1号土坑 最下層	③（10.9）	脚裾部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄灰色、内面淡橙色。	
108	第13図 図版8	器台	1号土坑 上層	③（12.2）	脚裾部1/3	調整は外面板状工具によるナデ・指頭痕、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡茶灰色～橙褐色、内面明茶灰色。	
109	第13図 図版8	脚台部	1号土坑 最下層	⑤10.1	脚台部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・ハケ目・指頭痕。 胎土精良。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰黒色～茶褐色。	
110	第14図 図版8	壺	1号土坑 最下層	①（18.30） 突帯部径（16.7）	口縁部1/3	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
111	第14図 図版8	壺	1号溝	①（21.8）	突帯部1/8	調整は外面ナデ？、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐灰色～淡褐灰色。	
112	第14図 図版8	壺	1号溝 下層	①（23.4）	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面橙色～灰色～黒灰色、内面橙色。	
113	第14図	壺	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面灰色～黄橙色、内面褐灰色。	
114	第14図 図版9	壺	1号溝 下層	①（21.0）	口縁部1/8	調整は外面刻み目、内面ヨコナデ。 胎土精良。焼成は良好。 色調は外面赤灰色、内面赤褐色。	
115	第14図 図版9	壺	1号溝	①（23.0）	口縁部1/4	調整は不明。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒・粗砂粒を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面白黄褐色、内面淡黄褐色。	
116	第14図 図版9	壺	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
117	第14図	壺	1号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色、口縁部明橙褐色。	
118	第14図 図版9	壺	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～褐色。	
119	第14図	壺	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ナデ？、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色～褐色。	
120	第14図	瓢形 土器	1号溝 上層	突帯部径（24.5）	体部1/8	調整は外面突帯部ヨコナデ、内面ナデ？・指頭痕。 胎土は砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色、内面浅黄橙色。	丹塗り？
121	第14図	瓢形 土器	1号溝	突帯部径（22.5）	肩部1/8	調整は外面不明、内面板状ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色～灰褐色、内面灰褐色～橙茶褐色。	
122	第14図 図版9	底部	1号溝 上層	③11.7	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面黄褐色。	
123	第14図	壺	1号溝	—	底部片	調整は不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面灰茶褐色。	
124	第14図 図版9	壺	1号溝 下層	—	底部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は赤色粒を少量、細砂粒・雲母を含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～褐色、内面褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
125	第 14 図 図版 9	甕	1 号溝 上層	①（30.2）	口縁部 1/6	調整は不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤橙色、内面黄褐色。	
126	第 14 図	甕	1 号溝 上層	①（32.0）	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗橙褐色、内面淡橙褐色～暗橙褐色。	
127	第 14 図 図版 9	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面橙色。	
128	第 14 図 図版 9	甕	1 号溝 下層	①（24.2）	口縁部 1/5	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤橙色。	
129	第 14 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は砂粒･赤色粒をやや多く、角閃石を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに灰色～暗灰色。	
130	第 14 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整不明。 胎土は砂粒・細砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに浅黄橙色。	
131	第 14 図 図版 9	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
132	第 14 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
133	第 14 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面黄灰色～橙色～暗灰色、内面黄灰色。	
134	第 14 図	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な黒雲母・金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色、内面茶褐色、口縁部暗茶褐色。	
135	第 14 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母をやや含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
136	第 14 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤橙色。	
137	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ？、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに褐色。	
138	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面浅黄橙色～橙色、内面浅黄橙色。	
139	第 15 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～褐色。	
140	第 15 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒を多く、赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色～褐色。	
141	第 15 図	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・粗砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面黄灰色～橙色、内面橙色。	
142	第 15 図	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄灰色～橙色。	
143	第 15 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	
144	第 15 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量、赤色粒をごく少量、雲母を含む。 焼成は不良。 色調は外面黄灰色～褐灰色、内面黄灰色。	
145	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明橙褐色、内面灰褐色、口縁部暗灰褐色。	
146	第 15 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤橙色。	
147	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面刻み目・条痕、内面条痕。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色。	
148	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面刻み目、内面不明。 胎土は砂粒を少量、赤色粒をごく少量含む。焼成は不良。 色調は外面灰褐色、内面白灰色。	
149	第 15 図 図版 9	甕	1 号溝	—	口縁部片	調整は外面板状ナデ・突帯文、内面ナデ、ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～暗灰褐色、内面灰黄褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
150	第15図 図版9	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は外面刻み目・条痕、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒を少量、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～暗灰色、内面灰褐色。	
151	第15図 図版9	底部	1号溝 最下層	③（7.6）	底部3/4	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ・指頭痕、底部ハケ目。 胎土は砂粒を少量、角閃石を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色、内面黄褐色。	
152	第15図 図版9	底部	1号溝 下層	③（8.2）	底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色、内面暗灰褐色～褐灰色。	
153	第15図	底部	1号溝	③（8.2）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面明茶褐色。	
154	第15図 図版10	底部	1号溝 最下層	③7.9	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ？ハケ目・指頭痕？。 胎土は粗砂粒を多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐灰色～灰色、内面淡褐灰色。	
155	第15図 図版10	底部	1号溝	③10.1	底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄色。	
156	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③5.6	底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ヨコナデ？底部指頭痕、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒を多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙褐色、内面暗橙褐色～淡褐色。	
157	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③（7.0）	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色～淡黄橙色、内面淡灰褐色。	
158	第15図 図版10	底部	1号溝 最下層	③（7.4）	底部2/3	調整は外面不明、内面指頭痕あり。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色～淡灰色～灰色。	
159	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③10.1	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤橙色。	
160	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③（8.1）	底部3/4	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに浅黄橙色～橙色。	スス付着
161	第15図	底部	1号溝	—	底部片	調整は不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明橙褐色、内面橙褐色。	
162	第15図 図版10	底部	1号溝	③（8.75）	底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面白褐色、内面白褐色。	丹塗り
163	第15図 図版10	底部	1号溝 上層	③（10.4）	底部3/4	調整は不明。 胎土精良。焼成は良好。 色調は内外面とも黄灰褐色～灰黒色。	
164	第15図 図版10	底部	1号溝	—	底部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は微細な金雲母・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明橙褐色、内面橙褐色。	
165	第15図 図版10	底部	1号溝 上層	③（6.25）	底部3/4	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土精良。焼成は良好。 色調は外面淡赤橙色、内面赤橙色。	
166	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③6.3	底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面灰色～橙色、内面浅黄橙色。	
167	第15図	底部	1号溝 上層	③（10.0）	底部2/3	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒・赤色粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面灰色、内面橙色。	
168	第15図	底部	1号溝 上層	③（7.2）	底部2/3	調整は外面ハケ目・ナデ・指頭痕？、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～淡橙色、内面暗褐灰色～淡褐灰白色。	
169	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③（7.3）	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭痕？。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	
170	第15図 図版10	底部	1号溝 下層	③（7.4）	底部1/2	調整は外面ハケ目後一部ナデ消し？、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐灰白色～淡橙色。	
171	第15図 図版10	底部	1号溝 上層	③（9.4）	底部2/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土精良。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	
172	第16図 図版10	蓋	1号溝	ツマミ径6.6	ツマミ部 のみ 完存	調整は外面ハケ目・ナデ？、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗橙色～暗橙褐色、内面は橙色。	
173	第16図	高坏	1号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色、口縁部明橙褐色。	
174	第16図	高坏	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面浅黄橙色～橙色、内面浅黄橙色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
175	第16図 図版10	高坏	1号溝 下層	—	脚部片	調整は外面ハケ目、内面シボリ痕。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰褐色、内面灰白色。	スカシ孔あり
176	第16図	高坏	1号溝 上層	—	脚部片	調整は外面不明、内面シボリ痕。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色～浅黄橙色、内面橙色～浅黄橙褐色。	
177	第16図	高坏	1号溝 下層	—	脚部片	調整は外面不明、内面シボリ痕。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙白色、内面淡橙褐白色。	
178	第16図	高坏？ 台付鉢？	1号溝 下層	—	脚部片	調整は外面不明、内面シボリ痕・工具痕？。 胎土は砂粒を少量、赤色粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面黄橙色、内面橙色。	
179	第16図	鉢	1号溝 下層	①（20.0）	口縁部1/5	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は角閃石を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄橙褐色、内面暗黄褐色。	
180	第16図 図版10	器台	1号溝 最下層	①（11.7）②17.95 ⑤（13.6）	全体の1/3	調整は外面不明、内面指頭痕・ナデ？。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～赤橙色、内面黄橙褐色。	
181	第16図 図版10	器台	1号溝 上層	①9.0 ②11.48 ⑤（9.9）	全体の2/3	調整は外面不明、内面シボリ痕。 胎土は細砂粒・粗砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
182	第16図 図版10	器台	1号溝 上層	①10.0 ②10.2 ⑤10.6	ほぼ 完存	調整は外面不明、内面指頭痕。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
183	第16図 図版11	器台	1号溝 最下層	③11.2	下半部のみ 1/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに褐色。	
184	第16図 図版11	器台	1号溝	①（6.1）	口縁部1/3	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面茶灰褐色。	
185	第16図 図版11	器台	1号溝	①（7.6）	口縁部3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面白橙色。	
186	第16図 図版11	筒形 器台	1号溝 上層	突帯部径（19.5）	頸部3/4	調整は不明。 胎土精良。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤橙色。	丹塗り？
187	第16図 図版11	土師器 高坏	1号溝 上層	①（15.0）	口縁部1/5	調整は外面回転ナデ、内面回転ナデ？。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面灰色～青灰色。	
188	第16図 図版11	陶質土器 器台	1号溝 上層	—	脚部片	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕？。 胎土は砂粒やや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～褐色、内面褐色。	
189	第16図	甕	5号溝	—	口縁部片	調整不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～褐色、内面淡褐色。	
190	第17図 図版11	壺	P3	①（29.0）	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色～橙色、内面橙褐色。	
191	第17図	底部	P3	③（7.8）	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面橙白灰色～暗灰色、内面灰褐色。	
192	第17図	甕	P12	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄橙色～橙色。	
193	第17図	壺	P13	突帯部径（37.2）	胴部1/5	調整は外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量、細砂粒・赤色粒を多く、雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面黄灰色～暗灰色、内面黄灰色。	
194	第17図 図版11	甕	P13	①（30.4）	口縁部1/4	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を多く含む。焼成は不良。 色調は外面灰色～黄褐色、内面灰色～灰褐色。	
195	第17図	壺	P27	突帯部径（27.3）	胴部1/4	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・突帯部刻み目、内面ハケ目。 胎土は雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙黄灰色。	
196	第17図	壺？	P27	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面黄灰色、内面橙褐色～黄灰色。	
197	第17図	甕	P28	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、角閃石を含む。焼成は不良。 色調は外面褐色～橙色、内面白灰色～橙色。	
198	第17図 図版11	壺	P30	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ミガキ・ナデ？、内面不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く、赤色粒・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰色～褐色。	
199	第17図 図版11	壺	P30	③（7.2）	底部1/2	調整は外面ミガキ、内面不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒灰色、内面橙黄灰色。	

（　　）は復元値

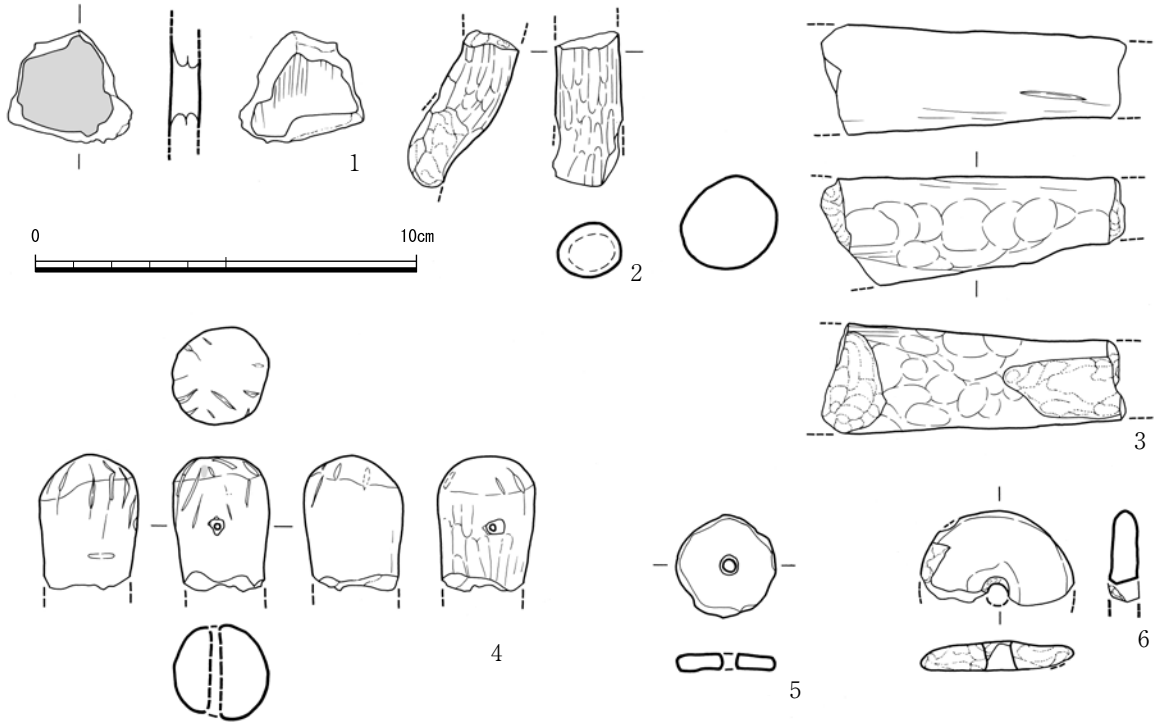
番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm) ①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
200	第 17 図 図版 11	甕	P 30	①（44.0） 突帯部径（41.6）	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒をやや多く、赤色粒を少量、雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面黄橙色～橙褐色、内面灰色～黒灰色。	
201	第 17 図	甕	P 30	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を少量、雲母含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～黒灰色～赤灰色、内面灰褐色～黒灰色。	
202	第 17 図 図版 11	底部	P 30	③ 5.0	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙灰色。	
203	第 17 図 図版 11	甕	P 41	③（7.4）	底部 1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙灰色、内面黄灰色。	
204	第 17 図 図版 11	鉢	P 41	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰色～橙褐色、内面黄橙色。	
205	第 17 図	甕	P 45	—	口縁部片	調整は内外面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、細砂粒･赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄灰色～橙褐色、内面橙褐色。	
206	第 17 図	壺	P 55	③（7.4）	底部 1/4	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色、内面白灰色～黒灰色。	
207	第 17 図	甕	P 55	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、細砂粒を少量、雲母を含む。 焼成はやや不良。 色調は外面黄灰色～灰色、内面黄灰色～赤褐色。	
208	第 17 図 図版 11	甕	P 57	①（39.1）	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ？、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒をやや多く、雲母を含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰色～黄橙色～橙色、内面灰白色～暗灰色。	
209	第 17 図	甕	P 57	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
210	第 17 図	甕	P 65	①（25.8）	口縁部 1/8	調整は内外面ともに不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は細砂粒・雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄灰色。	
211	第 17 図 図版 11	甕	P 65	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、赤色粒を少量、雲母を含む。 焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
212	第 17 図	甕	P 78	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色～白褐色。	
213	第 17 図 図版 11	甕	P 78	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を多く、砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
214	第 17 図	甕	P 78	—	底部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙茶褐色、内面灰茶褐色。	
215	第 17 図	甕	P 84	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶褐色。	
216	第 17 図 図版 11	甕	P 87	—	底部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～橙褐色、内面橙茶褐色。	
217	第 17 図	甕	P 88	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面明橙褐色。	
218	第 17 図 図版 12	甕	P 89	①（39.8） 突帯部径（36.8）	口縁部 1/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色～茶褐色、内面灰褐色～灰茶褐色。	
219	第 17 図	甕	P 89	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面明茶褐色。	
220	第 17 図	甕	P 89	—	底部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面橙茶褐色、内面灰茶褐色。	
221	第 18 図	甕	P 91	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く、微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰茶褐色、内面明灰茶褐色。	
222	第 18 図 図版 12	甕	P 96	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ？ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～黄灰褐色、内面橙褐色～白灰褐色。	
223	第 18 図	甕	P 96	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面明橙褐色。	
224	第 18 図	甕	P 96	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
225	第 18 図	甕	P 96		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～黒灰褐色、内面黒灰褐色。	
226	第 18 図	高坏	P 96		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く、微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙褐色、内面橙褐色。	
227	第 18 図	高坏	P 96		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色、内面明黄灰褐色。	丹塗り
228	第 18 図	高坏	P 99		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明橙褐色。	
229	第 18 図	甕	P 100		③（6.9）	底部 3/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面明茶褐色～茶褐色。	
230	第 18 図 図版 12	甕	P 100		③ 6.8	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は精良。焼成は良好。 色調は外面黄灰色、内面灰黄色。	
231	第 18 図	甕	P 103		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙茶褐色。	
232	第 18 図	甕	P 107		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明黄橙褐色～茶褐色、内面明黄橙褐色。	
233	第 18 図	甕	P 107		—	底部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は微細な金雲母を少量、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙色、内面明橙褐色～明茶褐色。	
234	第 18 図 図版 12	底部	P 107		③（9.2）	底部 1/3	調整は外面ハケ目、内面指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面明茶褐色、内面黒灰褐色。	
235	第 18 図 図版 12	器台	P 112		①（9.1）② 15.5 ⑤（10.9）	全体の 1/2	調整は外面ナデ、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～淡橙褐色、内面灰褐色～橙褐色。	
236	第 18 図 図版 12	甕	P 117		—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ヨコナデ？、内面ヨコナデ？。 胎土は砂粒・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面黄灰褐色。	
237	第 18 図 図版 12	壺	P 118		突帯部径（37.0）	胴部 1/5	調整は外面ヘラミガキ・ヨコナデ、内面不明。 胎土は赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
238	第 18 図 図版 12	甕	P 131		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
239	第 18 図	甕	P 131		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明橙茶色、内面明茶色。	
240	第 18 図	甕	P 134		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色～明橙褐色、内面明橙褐色。	
241	第 18 図	甕	P 135		—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面橙色～暗茶褐色、内面橙色～明橙褐色。	
242	第 18 図	甕	P 135		—	口縁部片	調整は外面不明、内面指頭痕あり。 胎土は細砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙灰褐色、内面茶褐色。	
243	第 18 図 図版 12	器台	P 135		①（10.2）	全体の 1/2	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～淡橙褐色、内面淡茶灰褐色。	
244	第 18 図	壺	P 138		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙色～灰茶褐色、内面橙褐色。	
245	第 18 図 図版 12	器台	P 140		⑤（9.2）	全体の 1/3	調整は外面不明、内面指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面灰褐色～橙褐色。	
246	第 18 図 図版 12	沓形 器台	P 151		—	全体の 2/3	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～赤橙色、内面黄灰褐色～赤橙色。	穿孔あり
247	第 18 図	甕	P 162		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明黄灰色。	
248	第 18 図	甕	P 167		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明灰褐色。	

（２） 土製品等（図版 12 －(2)、第 19 図、表２）

１・２・３は１号土坑、４・６は１号溝、５はＰ 52 の出土品。１は、内面に水銀朱が付く朱付着土器の小片で、傾きは不明。通常の土器との区別がつかず、所謂、朱鍋かどうかは分からない。２は土製品とするよりも、土器の把手とした方が良いかもしれない。外面は丁寧に磨かれ、赤色顔料が塗布される。断面観察では、芯の周りに粘土を巻き付けて成形した様子が観察できる。３も把手。円錐状にも復元できるために、細形銅矛か中細形銅矛の中型の可能性を考えたが、外面にハケメや指頭痕が残ること、直径が３cmあるため、細形銅矛・中細形銅矛の中型としては大きすぎることから、土製品などの把手と判断した。胎土は精製で雲母を含み、丹塗土器に近い。



第 19 図　土製品等実測図（1/2）

表２　１次調査出土土製品等観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量（cm）			残存状態	色調	調整及び特徴	備考
				長さ	幅	厚さ				
1	第 19 図 図版 12	朱付着 土器	１号土坑	3.0	3.3	0.8	小片	内外面ともに暗灰 褐色	調整はハケ目後ナデ、指頭痕。 胎土は精良、雲母含む。焼成は良好。	内面に 朱付着
2	第 19 図 図版 12	把手	１号土坑	4.1	1.9	1.5	把手部 1/3	淡褐色 （丹は暗赤色）	調整はヘラミガキ。 胎土は細砂粒･赤色粒子含み、雲母が目立つ。焼成は良好。	丹塗り
3	第 19 図 図版 12	把手	１号土坑	8.05	2.95	2.45	把手部 3/4	白褐色	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒含む。焼成は良好。	
4	第 19 図 図版 12	土製 勾玉？	１号溝	3.55	2.6	2.55	1/2 ？	淡褐色～灰褐色	調整はヘラミガキ。 胎土は細砂粒含む。焼成は良好。	線刻 丹塗り？
5	第 19 図 図版 12	紡錘車	P52	外径 2.7	孔径 0.3	0.5	完形	表面黄褐色、裏面 淡赤褐色	調整は不明。 胎土は細砂粒含む。焼成は良好。	土器片を 再加工
6	第 19 図 図版 12	紡錘車	１号溝	外径 (4.1)	孔径 (0.6)	0.8	1/2	表裏ともに灰褐色	調整は外面ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒含む。焼成は良好。	

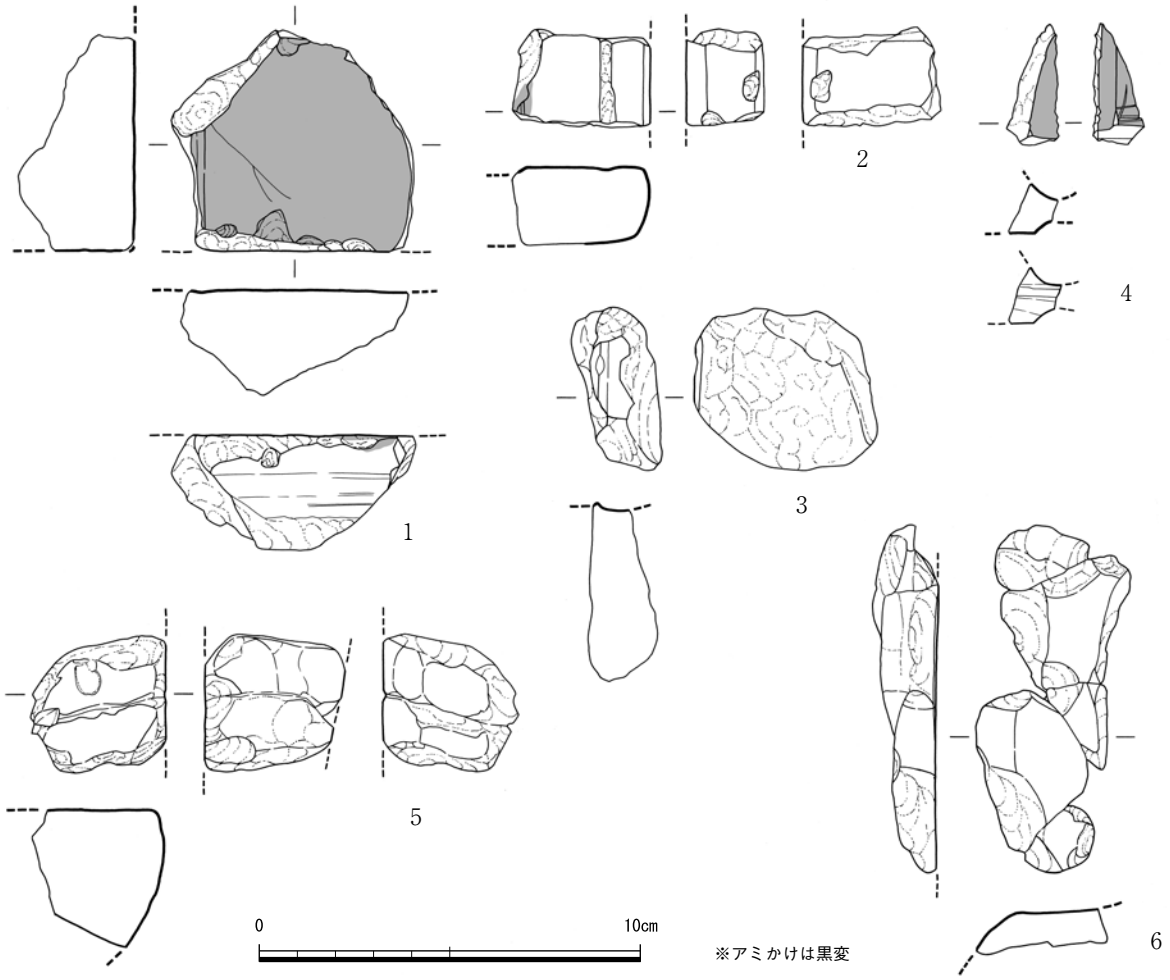
４は円柱状を呈する土製品で、焼成前穿孔を有す。外面はヘラミガキ、先端部は丸く仕上げ、雑に線刻が施される。土製勾玉の可能性を考えれば、線刻は丁字頭を表現したものか。５・６は紡錘車。５は小型品で土器を打ち欠き再加工したもの。６は復元径 4.1 ㎝の資料で、穿孔は棒状工具により実測図下方から上方に施したと考えられる。

（３） 青銅器生産関連遺物

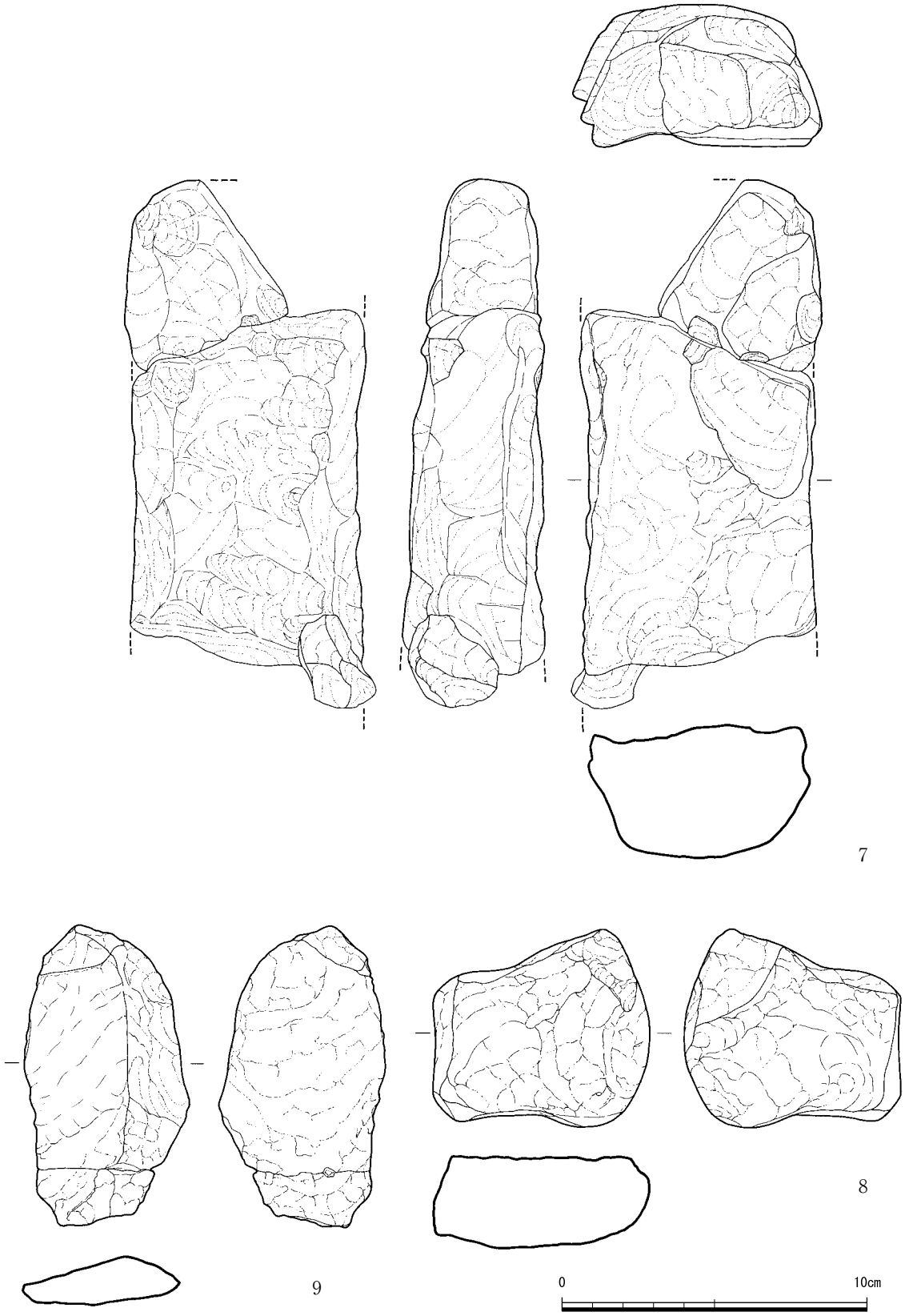
① 石製鋳型類（図版 13・14、第 20 ～ 22 図、表３）

鋳型や鋳型の製作過程を示す剥片 22 点を報告する。なお、４を除く 21 点は北部九州で通有の石英長石斑岩製である。１～３は１号土坑、４・５・10 は１号溝、６上半部はＰ３、６下半部・９・12・21 はＰ８、14 ～ 16 はＰ 27、17・18・19・20 はＰ 61、７・８・13 はＰ 62、11 は表土、22 は攪乱出土。製品と考えられないものは、殆どがピット出土である。

１～４は破片ながら、型や黒変が確認できるために鋳型と分かるもの。１は銅矛ないし銅戈鋳型の鋒下と考えられる資料。実測図左に鎬と考えられる直線的な彫り込みが確認でき､黒変する。下面は、



第 20 図　石製鋳型類実測図①（1/2）



第 21 図　石製鋳型類実測図②（1/2）

鋳型面と直角で、平滑に調整するため、連結式鋳型の可能性がある。２は、左側縁部に、僅かながら型と黒変が残存する資料。厚さ2.1㎝で、本来の横断面形は逆台形に近いと考えられる。厚みなどから考えると古式の武器型の可能性があり、刃部と考えられる。３は、樋部と脊部と考えられる型が残存し、黒変が認められる。銅矛鋳型の可能性があろう。４は武器型の両面鋳型で、滑石系の石材を使用する。表面は銅矛袋部、裏面は銅剣の可能性があり、脊部と翼部が残存する。裏面には刻線があるが鋳出した製品の文様になるかは不明。表・裏面ともに黒変する。下面は表・裏面からの擦切りにより切断される。他の鋳型か、他の製品に転用しようとしたのであろう。

５・６は型や黒変は見られないが、本来は鋳型であった可能性が強い資料。５は横断面が蒲鉾形に復元できるため鋳型と考えた。側面は打割による調整。下面を砥石として再利用するため、鋳型が破損後に砥石に転用したのであろう。６は、４片が接合し、上２片はＰ３、下２片はＰ８から出土した。面が確認できるために鋳型の未製品か、欠損したものであろう。

７・８は鋳型の未製品であろう。７は３片が接合したが、左下端に接合した剥片は、形を整えるための粗割により剥がれた剥片と考えられる。すべての面が粗割のままで、研がれて平滑にされた面はない。長さに対して幅が狭いことや、横断面形が蒲鉾形か逆台形を呈することから、銅剣等の武器型の鋳型を製作しようとしたと考えられる。鋳型の製作途中で破損したために廃棄されたのであろう。８は厚みのある破片資料で、７と同様平滑な面は持たない。７と８はＰ62から出土し、表面の雰囲気などは非常に類似する。このため７と８は接合しないが、同一個体の可能性がある。

10は大形であるが、青銅器の型や黒変等は見られない。本来の鋳型の裏面と一方の側面が残存すると考えた。厚みがあるため広形銅矛か広形銅戈の鋳型であったと考えられる。割れた表面の一部や裏面には、敲打痕があるため再加工を試みたと考えられる。

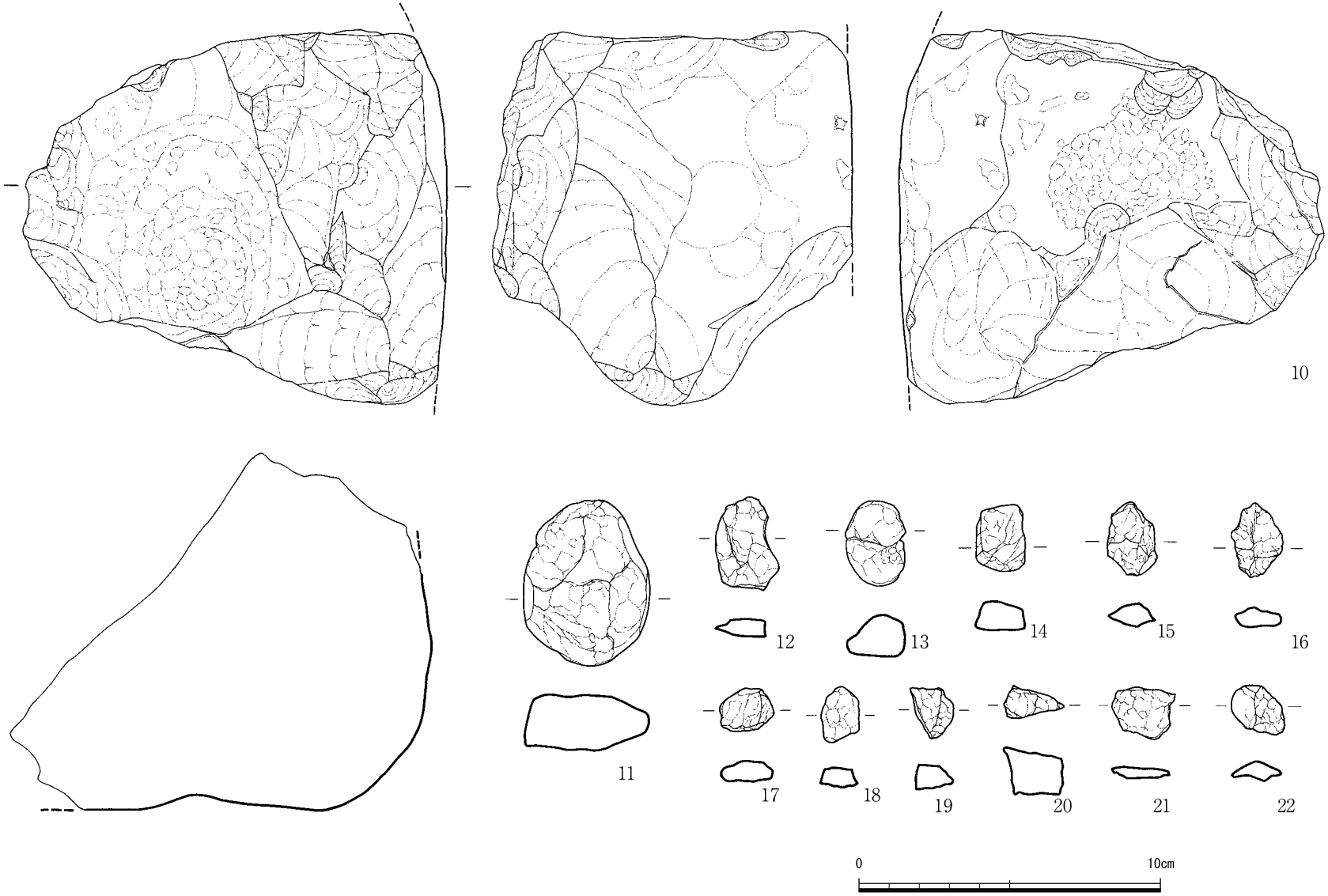
９・11～22は石英長石斑岩の剥片。９は大ぶりの剥片で、３片が接合した。11はやや大ぶりの剥片。表土から出たため著しく風化する。左側面は残存する可能性がある。12～22は小形の剥片で、13のように２片が接合したものもある。これら以外にもＰ27からは小片４点が出土する。

② **中型**（図版15、第23図、表４）

中型は、所謂鋳物砂と呼ばれる粒子の細かい砂を胎土とし、雲母を含むことがある。出土遺構は、１～４・７・10は１号土坑、５・６・８・９・11・13は１号溝、12はＰ62である。

１～12は銅矛中型。１・２のように鋒側に近いものから、11・12のような湯口部もある。その他は中間であろう。横断面形が丸いものが多く、これらは細形銅矛か中細形銅矛の中型である可能性が高い[(1)]。一方、10のように横断面形が凸レンズ状をなす個体は、中広形銅矛か広形銅矛の中型であろう。湯口部の資料は、11が「Ｘ」字形を呈するのに対して、12は「十」字形を呈する。11は下面の中央に窪みを持つ[(2)]。12は細形銅矛等の古式の型式の中型と考えられる。

13は小銅鐸の中型。上面の型持ちは欠損するが、舞部は半分程残存する可能性がある。横断面形は凸レンズ状に復元できる。



第 22 図　石製鋳型類実測図③（1/2）

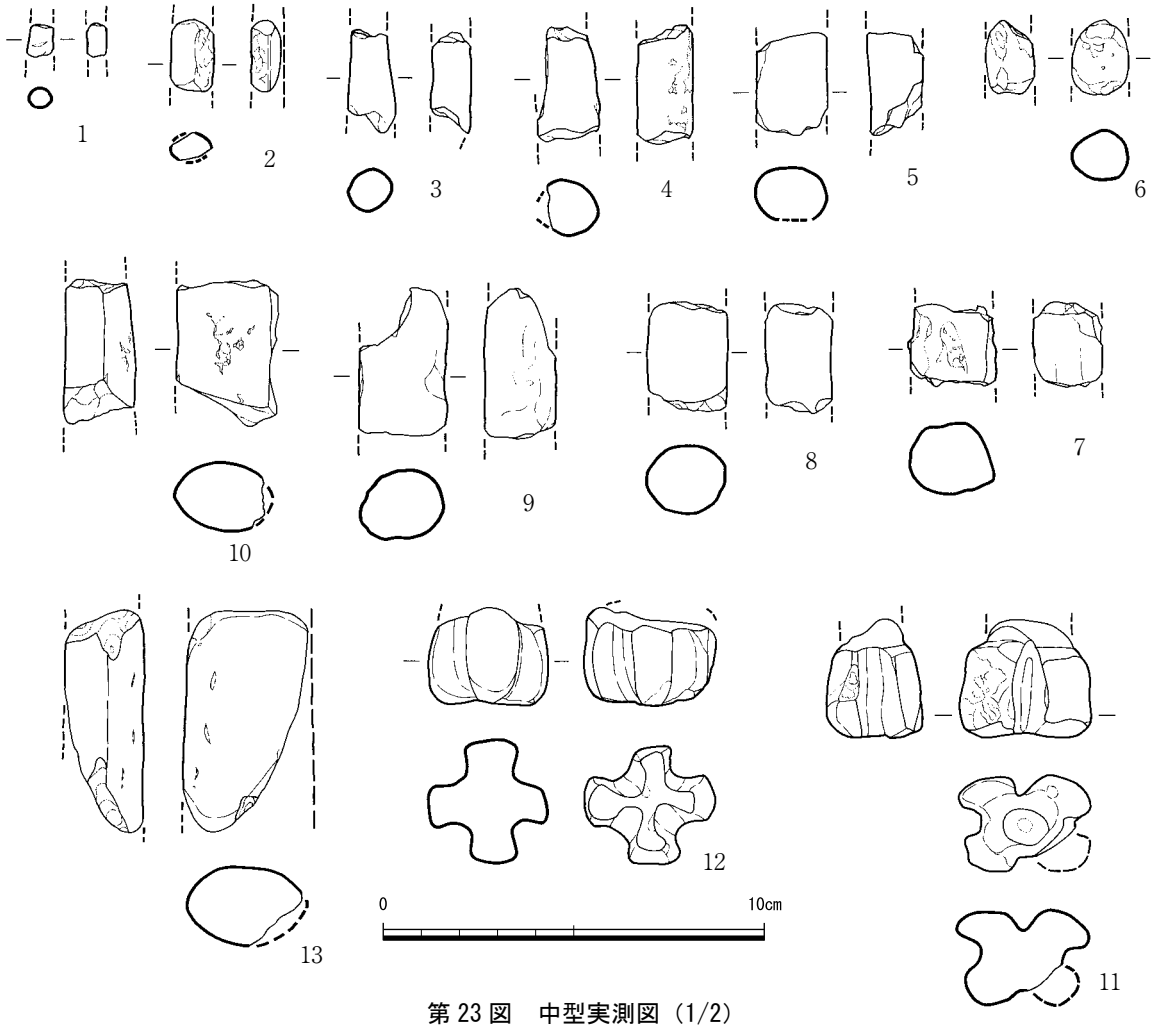
表３　１次調査出土石製鋳型類観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量（cm）			石材	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	第 20 図 図版 13	銅矛鋳型？	1 号土坑	5.85	6.4	3.05	石英長石斑岩	黒変、連結鋳型？
2	第 20 図 図版 13	武器形鋳型？	1 号土坑	2.6	3.7	2.05	石英長石斑岩	黒変
3	第 20 図 図版 13	銅矛鋳型？	1 号土坑	5.85	6.4	3.05	石英長石斑岩	黒変
4	第 20 図 図版 13	銅矛鋳型 銅剣鋳型	1 号溝	3.2	1.35	1.5	滑石系	黒変
5	第 20 図 図版 14	—	1 号溝	3.6	3.6	3.65	石英長石斑岩	砥石に転用
6	第 20 図 図版 14	—	P3・P8	9.2	4.1	1.75	石英長石斑岩	P3 の 2 片と P8 の 2 片が接合
7	第 21 図 図版 13	未製品	P62	17.45	8.3	4.7	石英長石斑岩	3 片が接合
8	第 21 図 図版 14	未製品	P62	6.5	7.2	3.1	石英長石斑岩	7 の同一個体？
9	第 21 図 図版 14	剥片	P8	10.0	5.5	1.65	石英長石斑岩	3 片が接合
10	第 22 図 図版 13	未製品	1 号溝	12.5	14.25	12.1	石英長石斑岩	敲打痕あり
11	第 22 図 図版 14	剥片	表土	5.6	4.2	1.8	石英長石斑岩	
12	第 22 図 図版 14	剥片	P8	3.2	2.15	0.6	石英長石斑岩	
13	第 22 図 図版 14	剥片	P62	2.9	2.05	1.45	石英長石斑岩	2 片が接合
14	第 22 図 図版 14	剥片	P27	2.2	1.7	1.0	石英長石斑岩	P27 には他に 4 小片あり
15	第 22 図 図版 14	剥片	P27	2.45	1.7	0.8	石英長石斑岩	P27 には他に 4 小片あり
16	第 22 図 図版 14	剥片	P27	2.5	1.75	0.7	石英長石斑岩	P27 には他に 4 小片あり
17	第 22 図 図版 14	剥片	P61	1.5	1.8	0.7	石英長石斑岩	
18	第 22 図 図版 14	剥片	P61	1.9	1.3	0.7	石英長石斑岩	
19	第 22 図 図版 14	剥片	P61	1.7	1.45	0.9	石英長石斑岩	
20	第 22 図 図版 14	剥片	P61	1.15	2.05	1.6	石英長石斑岩	
21	第 22 図 図版 14	剥片	P8	1.8	2.15	0.4	石英長石斑岩	
22	第 22 図 図版 14	剥片	攪乱	1.65	1.8	0.7	石英長石斑岩	

③　**坩堝／取瓶**（図版 16、第 24 図、表５）

７点を図化したが、この他にも小片や可能性のある資料がある。１・３～６は１号溝、２・７は１号土坑から出土した。

１・２は口縁部。１は小片のため傾きには疑問がある。端部の内外面に真土が確認できるが、特に内面が顕著である。２も口縁部の内外に真土を貼る資料。傾きは不確かである。３は胴部の破片資料で、上部の器壁が薄くなることから口縁下の可能性がある。内面には真土を貼るが、被熱のためかヒビがある。４・５は胴部の破片で、内面には真土を貼る。３と同様、上部の器壁が薄いため、口縁部下の可能性がある。６は外面が外反するため、脚台部直上の破片と考えられる。内面には厚く真土を貼り付ける。調査者は、５と近接して出土するため、同一個体の可能性を考えたが、両者ともに小片であり断定はできない。７は坩堝／取瓶から剥落した銅滓で、裏面には、僅かに坩堝／取瓶内面の器面が残存する。傾きや天地は不明だが、厚みのある銅滓の付着を考えれば、内底部であろう。



第 23 図　中型実測図（1/2）

（４）　青銅器（図版 17 －(1)、第 25 図）

２点の青銅器が１号土坑から出土した。青銅器の原料や加工具の可能性もあり、青銅器生産関連遺物かもしれないが、青銅器として報告する。

１は貨泉で、右周縁部等を欠く。外縁外径 22.7 ㎜、外縁内径 19.9 ㎜、内郭外径 9.5 ㎜、内郭内径 6.9 ㎜、外縁厚 1.7 ㎜、文字面厚 1.25 ㎜。色調は灰緑色。左下も欠くが鋳造欠陥の可能性があり、一部に巣が確認できる。１点だけの出土であるため断定できないが、当遺跡から多数の青銅器生産関連遺物が出ることを考慮すれば、青銅器の原材料の可能性もあろう。

２は武器形青銅器を転用した小形工具と考えた[(3)]。鉈の可能性も考えたが、横断面形が三日月型にならず、表・裏面の形状に差が見られないことから鑿と考えた。最大長 3.2 ㎝、最大幅 0.65 ㎝、最大厚 0.38 ㎝。色調は淡緑褐色。片刃の刃部を作り出す。実測図右側縁に本来の青銅器の刃部が確認でき、左側縁には細かい沈線を有する。この沈線は表裏の同じ場所に確認できるため、本来の武器形青銅器の樋に関するものか、再生時に切断するための擦切りなのかは分からない。青銅器鋳型の彫り込みか、

表４　１次調査出土中型類観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値（cm，g）				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	0.9	0.7	0.55	0.2	灰白色	無	硬化	
2	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	1.9	1.15	0.75	1.5	灰白色	有 赤黒褐色	やや硬化	
3	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	2.7	1.2	1.2	3.4	暗茶灰色	無	軟質	
4	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	3.05	1.4	1.5	7.4	淡茶灰色	無	軟質	
5	第23図 図版15	銅矛	１号溝	2.7	1.9	1.45	8.0	黄褐色	有 赤褐色	軟質	
6	第23図 図版15	銅矛	１号溝	1.95	1.5	1.35	2.9	淡灰色～黄灰色	無	やや軟質	
7	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	2.3	2.3	1.9	8.5	黄白色～茶褐色	無	軟質	
8	第23図 図版15	銅矛	１号溝	2.85	2.1	1.9	12.0	黄灰色	無	軟質	
9	第23図 図版15	銅矛	１号溝	3.9	2.25	1.9	15.4	黄灰色	無	やや軟質	
10	第23図 図版15	銅矛	１号土坑	3.35	2.4	1.9	17.6	黄褐色～橙褐色	有 暗緑色	やや軟質	
11	第23図 図版15	銅矛	１号溝	3.15	3.5	2.55	19.8	淡灰色～黄灰色	無	やや硬化	湯口部
12	第23図 図版15	銅矛	P62	2.6	3.55	3.2	19.0	灰褐色	無	やや軟質	湯口部
13	第23図 図版15	小銅鐸	１号溝	5.9	3.35	2.15	29.4	橙灰色	無	軟質	舞部は1/2 残存？

青銅器の細かい仕上げに使用されたのであろうか。

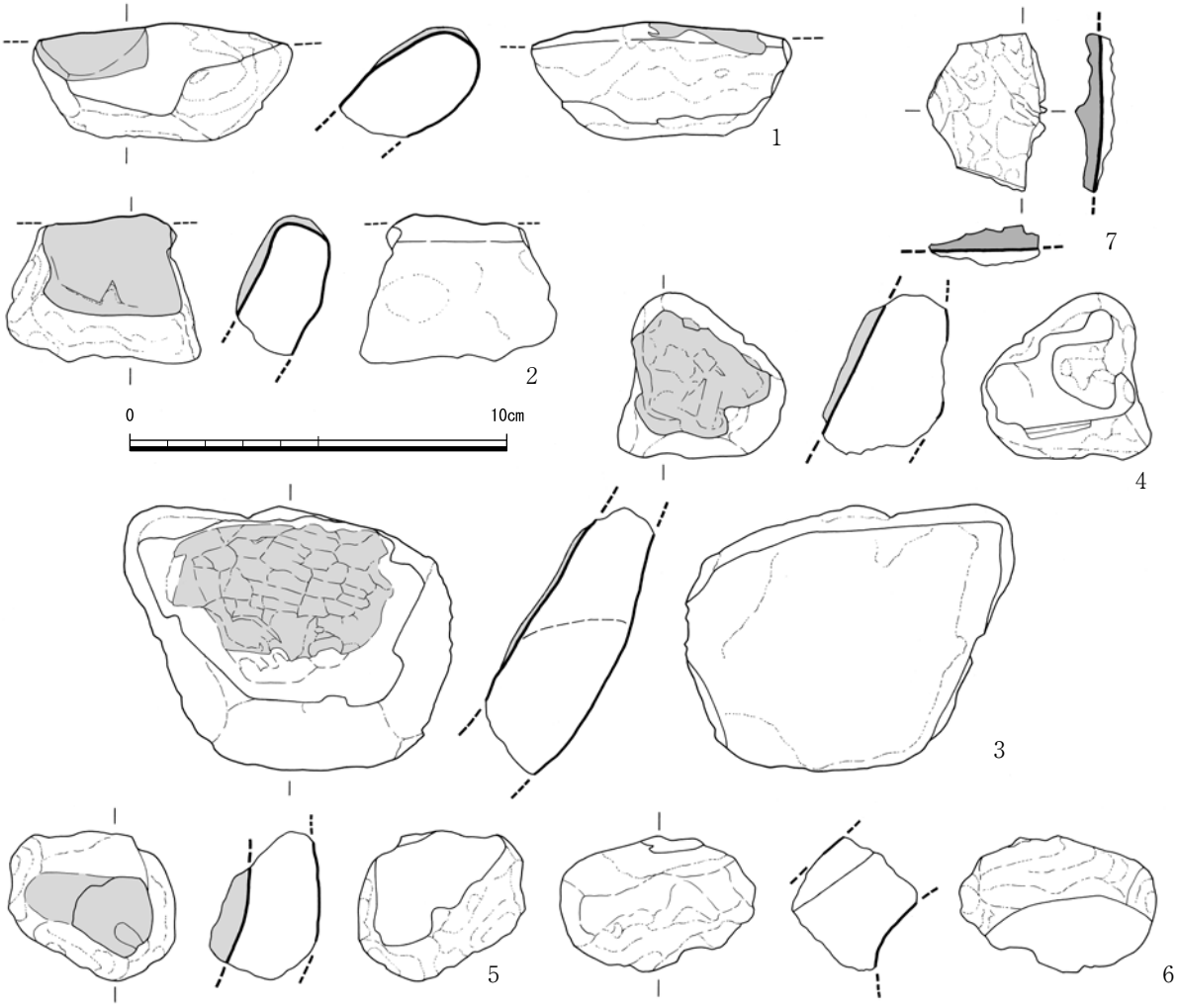
（５）　鉄器（図版17－(3)、第26図）

１はＰ66から出土した小ぶりの刀子。２片は接合しないが出土状況から同一個体である。１－１は最大長4.48㎝、最大幅0.82㎝、最大厚0.2㎝。１－２は最大長2.79㎝、最大幅0.68㎝、最大厚0.2㎝。下方に向かって、幅と厚みを減じる。

２はＰ65から出土した鋳造鉄斧の再加工品で、側面を利用したものか。鋳造鉄斧袋部にある２条の突帯が残存し、片刃の刃部を作り出す。

（６）　玉類（図版17－(2)、第27図）

１は１号溝から出土した緑灰色の石製の管玉で、緑色凝灰岩製か。最大長0.84㎝、最大幅0.4㎝、最大厚0.38㎝、孔径0.15㎝。外面は面取りが施されるため、横断面形は十角形を呈する。２はＰ30から出土した青緑色のガラス管玉。最大長0.87㎝、最大幅0.5㎝、最大厚0.4㎝、孔径0.2㎝。



第 24 図　坩堝／取瓶実測図（1/2）　※アミかけは真土

表５　１次調査出土坩堝／取瓶観察表

番号	挿図 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎　土	焼 成	備考
			外　面	内　面			
1	第 24 図 図版 16	１号溝	調整はナデか、色調は淡褐色～黒褐色	調整は不明､色調は淡橙色～黒褐色、真土あり	粗砂粒を多く含む、スサあり	良好	口縁部
2	第 24 図 図版 16	１号土坑	調整は真土のため不明、色調は明灰色	調整は真土のため不明、色調は明灰色	砂粒を含む	良好	口縁部
3	第 24 図 図版 16	１号溝	調整はナデか、色調は黒褐色～黄褐色	調整は不明、色調は黄褐色、白灰色～灰色の真土あり、比熱によるヒビ	粗砂粒を多く含む	良好	
4	第 24 図 図版 16	１号溝	調整はナデ、色調は淡褐色	調整は真土のため不明、色調は黄灰色	砂粒を多く含む	良好	
5	第 24 図 図版 16	１号溝	調整はナデ、色調は赤褐色	調整は真土のため不明、色調は黄褐色	粗砂粒を多く含む	良好	口縁部直下？ 6 と同一？
6	第 24 図 図版 16	１号溝	調整は不明、色調は赤褐色	調整は不明、色調は淡赤褐色～黄褐色	粗砂粒を含む	良好	脚台部直上？ 5 と同一？
7	第 24 図 図版 16	１号土坑	剥離のため不明	調整は不明、赤褐色～黄褐色	砂粒を含む	良好	内面に青銅が付着

（７）　木製品（図版 17 －(4)・18 －(1)、第 28 図）

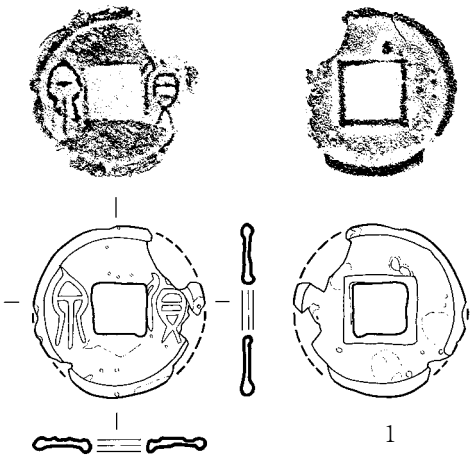
今回、１号土坑から出土した３点の木製品[(4)]を報告するが、調査時の写真や図面を確認すると他

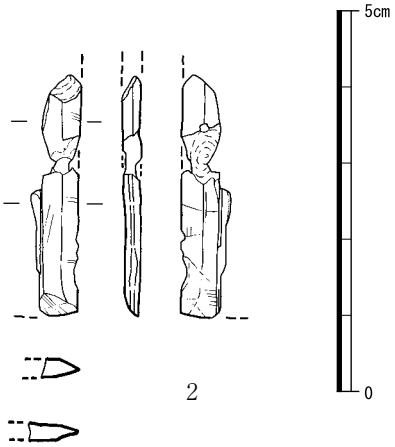
にも木製品と考えられる個体がある。調査から時間が経っており、保管場所を見つけることができなかった。これらの資料については、明らかになれば後日報告したい。

１は壁材である木舞の可能性が考えられる直線的な木製品で、杉製。最大長 203.3 cm、幅 0.9 ～ 2.8 cm、厚さ 2.8 cm。下方は細くなり曲がるが、出土時は直線的であった。表面は面取りされるため、横断面形は多角形状。

２は背負子の枠の下部と考えられる資料で、爪がある。最大長 29.6 cm、最大幅 14.9 cm、厚さ 1.5 ～ 3.2 cm。全体的に削りで加工し、下端部の外側は丸く仕上げる。上端部が短く尖るのは、再加工をして別のものに転用しようとした結果か。材質は不明。

３は火鑽臼で、３箇所に表面が炭化する火鑽孔が確認でき、孔は裏面まで貫通する。最大長 4.4 cm、最大幅 2.1 cm、最大厚 1.4 cm、火鑽孔径は 1.0 ～ 1.15 cmで、本来の形状は、長いと考えられるが復元できない。木材は不明。

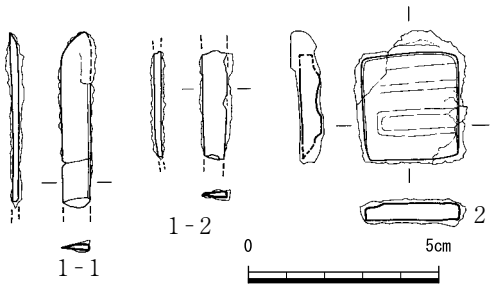




第 25 図　青銅器実測図（1/1）

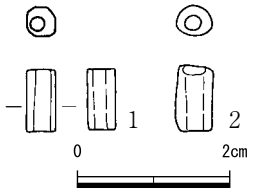
（８）　石器（図版 18 －(2) ～ 20、第 29 ～ 33 図、表６）

打製石器 16 点、磨製石器 14 点、砥石 12 点、その他２点を報告する。法量や出土地点については一覧表を参照していただきたい。



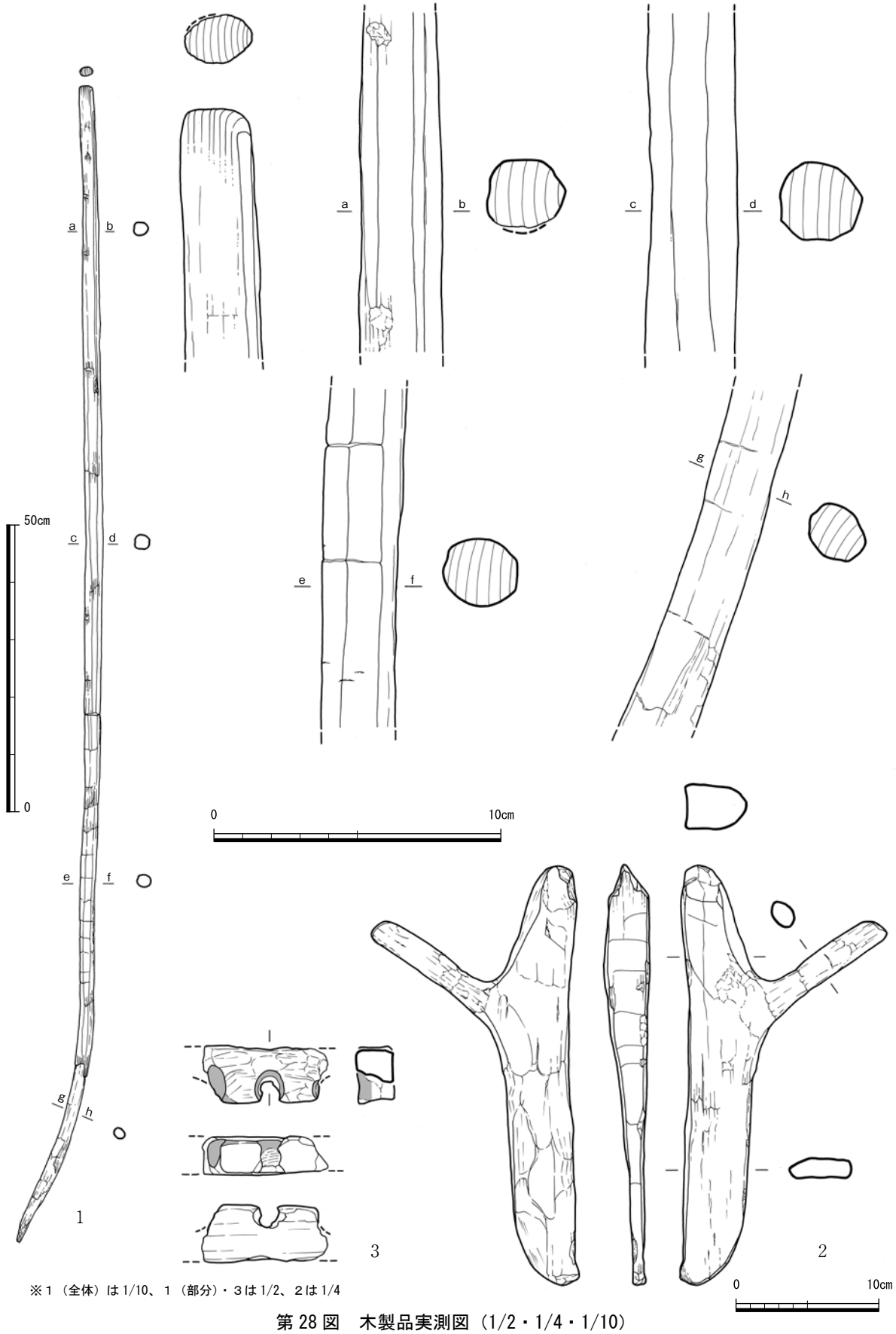
第 26 図　鉄器実測図（1/2）

１～ 16 は打製石器。１～ 12 は石鏃。１は先端と脚を欠くが、長脚になろう。２は裏面の剥離がやや雑な資料。３は下半を欠くが、細身の鏃身を持つ資料。細かい剥離が施される。４・５は平面形が五角形に近いもの。４は表裏ともに剥離が雑なもので、裏面は主要剥離面を残す。５は先端が突出するため石錐の可能性も考えたが厚みや抉りから石鏃とした。６～９は脚部の抉りが浅い資料。10 ～ 12 は平面形が丸みを帯びる石鏃で、脚部の抉りは小さい。特に、11・12 は三角形に近い形状を呈する小型品。



第 27 図　玉類実測図(1/1)

13 は小型の石槍か。周縁からの剥離により成形されており、厚みがあるため横断面形は菱形を呈する。14 は台形様石器で、右側縁と下部を欠損する。左側縁には主要剥離面からの剥離が施される。15 は上方が尖る桃実形を呈するスクレイパー。表面は左側に比べ、右側の剥離が大きく粗雑な印象がある。裏面は周縁部には剥離を施すが、中央部は主要剥離面を残す。16 は打面を有す石核で、表



※１（全体）は 1/10、１（部分）・３は 1/2、２は 1/4

第 28 図　木製品実測図（1/2・1/4・1/10）

面の下部には自然面を残す。裏面には主要剥離面が残る。

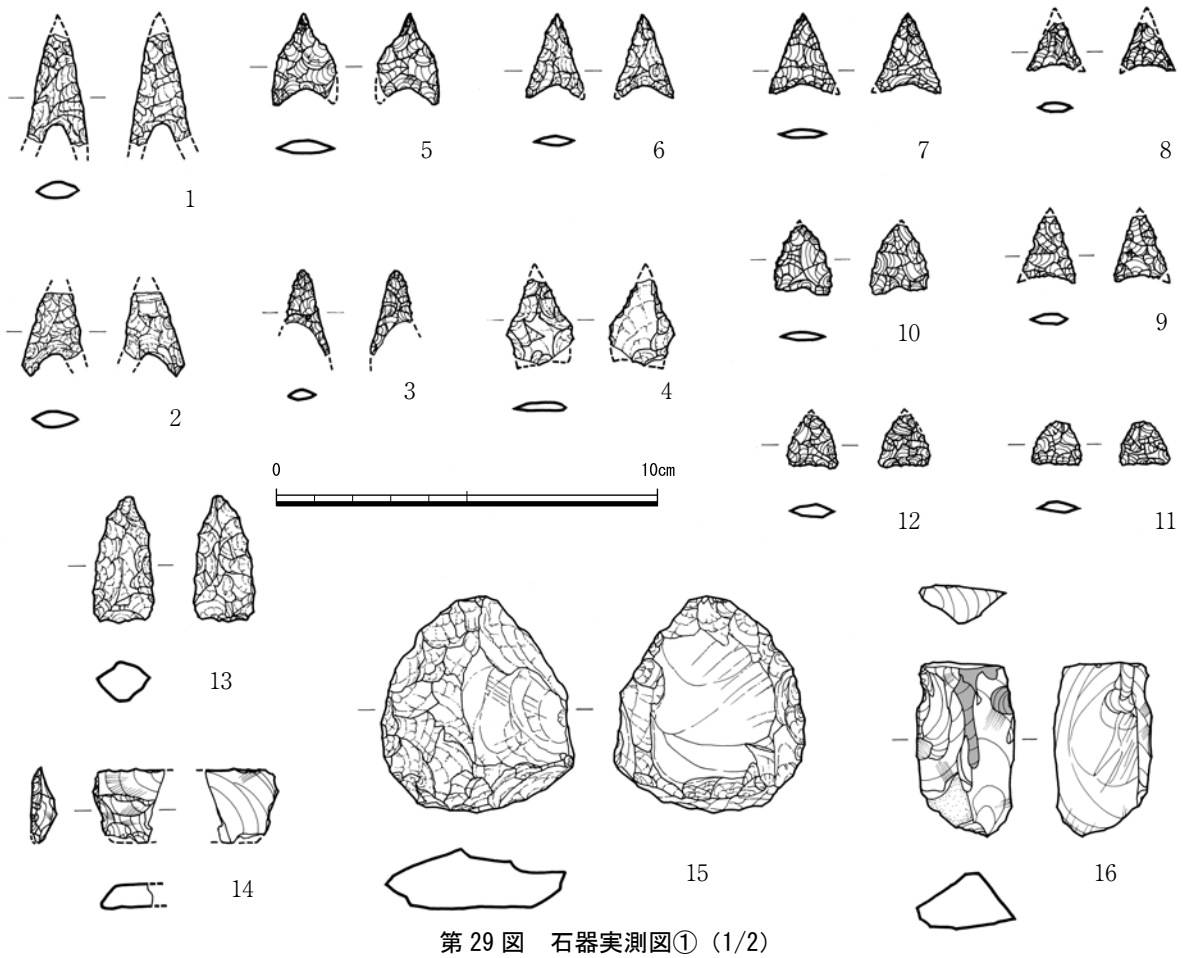
17～30は磨製石器。17は柳葉形磨製石鏃で、丁寧な研ぎを施す。18は下辺に調整痕があることから、扁平な磨製石鏃と考えた。鋒は丸みを帯びるために磨滅している可能性がある。

19～21は石剣。19は扁平な石剣の鋒部で、鎬はない。石材にもよるのか磨滅しており丸みを帯びる。20は剣身の破片資料で、表裏には鎬を有する。このため横断面形は菱形。21は大形品の鋒下部で、両面に鎬がある。厚みがあり、断面は菱形。

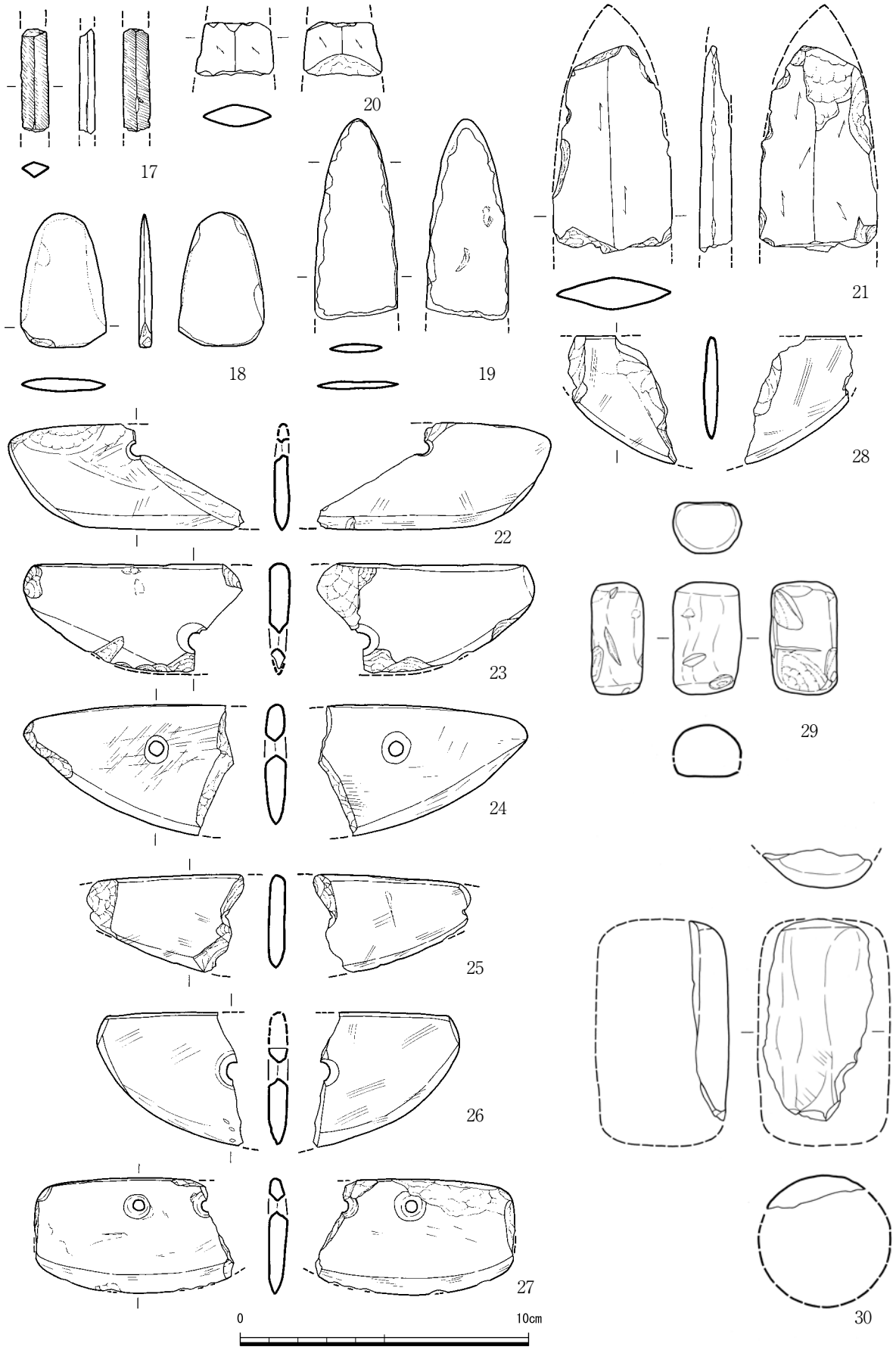
22～28は石庖丁。何れも破片資料であるが、背部と刃部の間隔が短く扁平なものや、刃が直線的なもの、孔と刃部の間隔が狭いものが多いことから、使い込まれ研ぎ直しが行われたことが分かる。27は平面形が半月状ではなく、長方形に近い資料。

29・30は権と考えられる資料[(5)]。29はほぼ完形品で、横断面形は蒲鉾形を呈する。石材は淡赤褐色の滑石系の石。30は大形の権の破片資料。石材は緑灰色の滑石系の石。円柱状に復元すれば、復元径は4.6㎝程度になる。

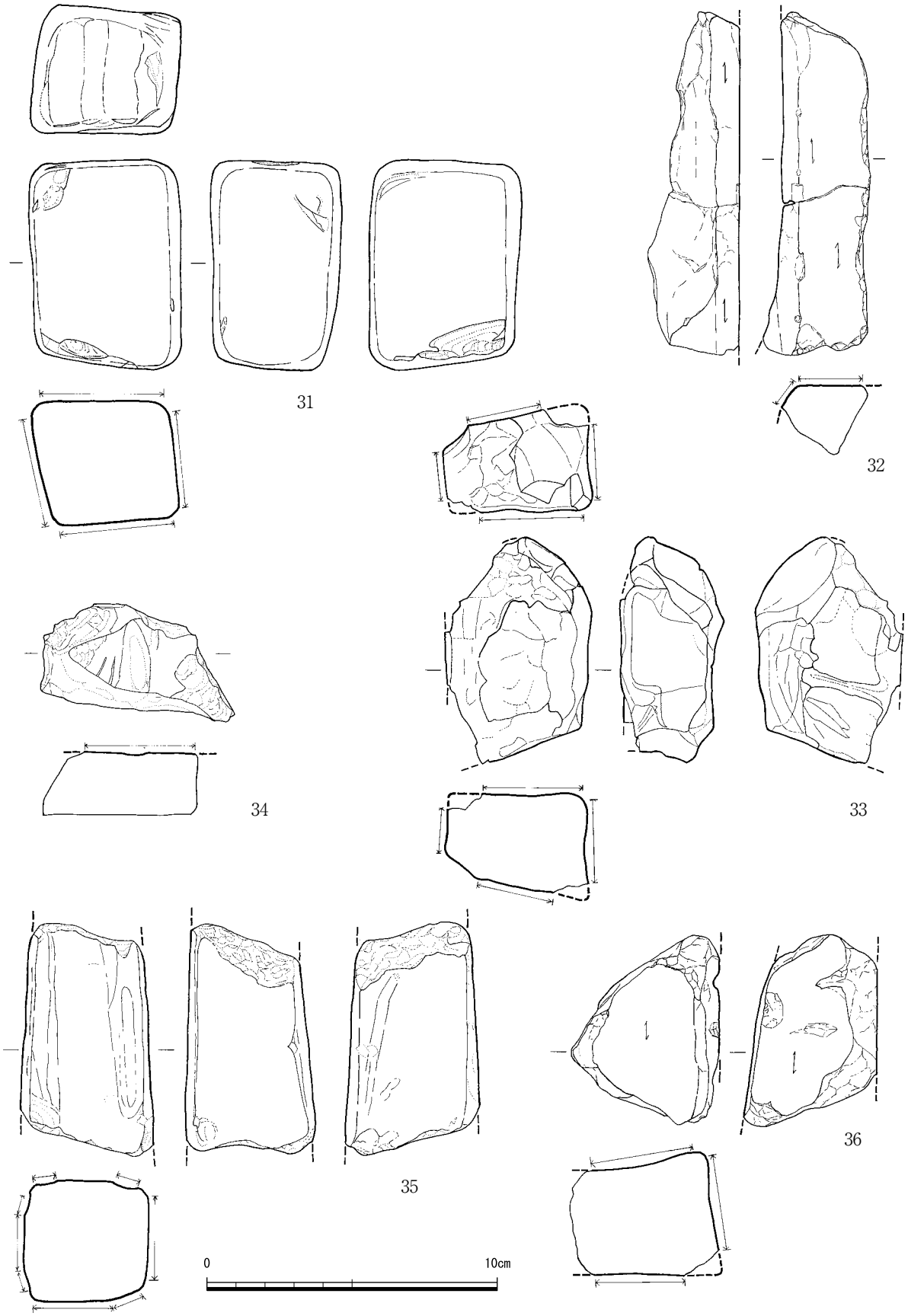
31～42は砥石。31は固い印象を受ける石材で完形品。6面すべてを砥石として使用する。上面には金属による痕跡か、平行する線が見られる。32は下半部が欠損する資料で、手持ち砥石か。33はほぼ完形品で、全面を砥石として使用するが、石材がもろいために剥落し欠損部がある。裏面には、



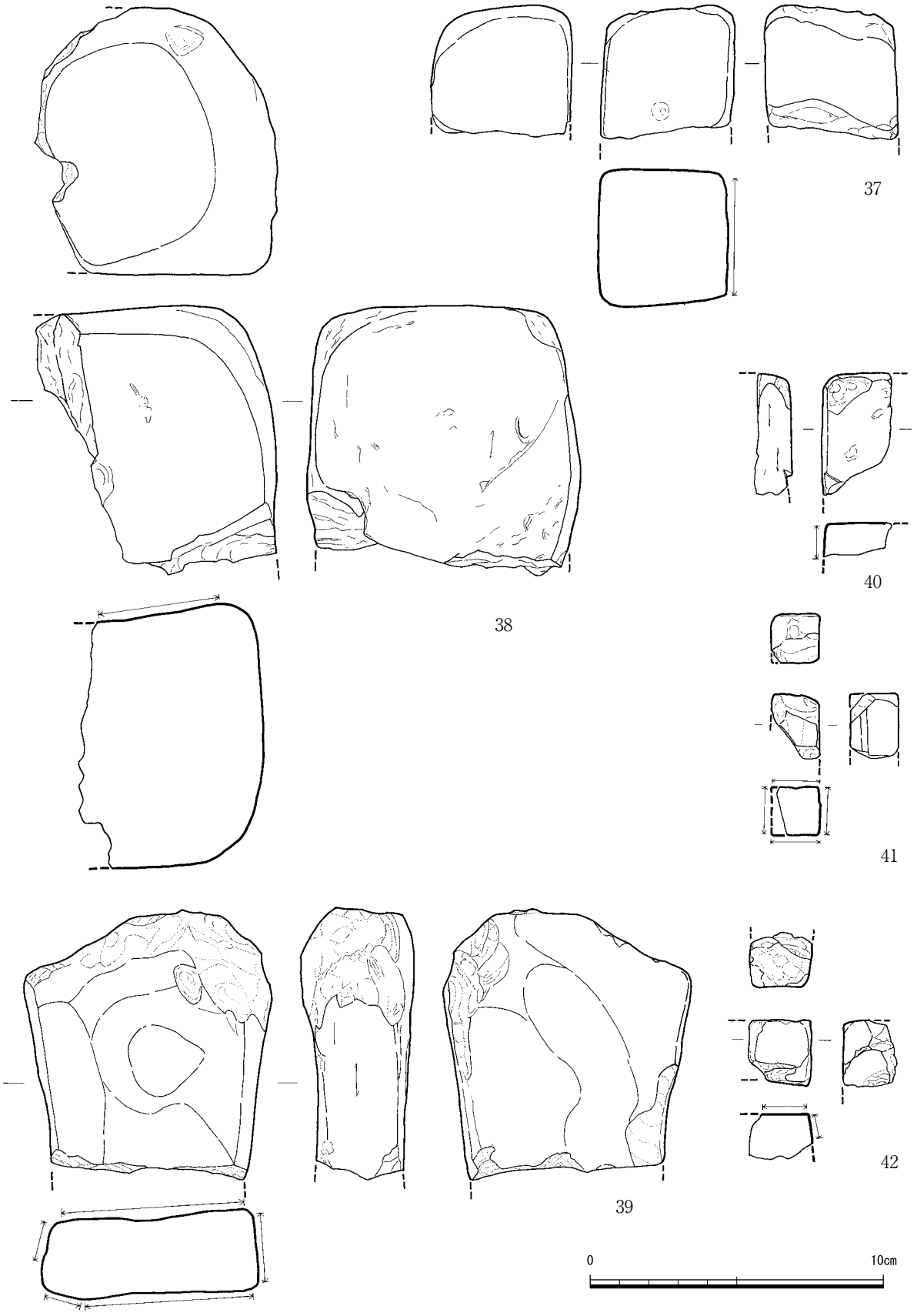
第29図　石器実測図①（1/2）



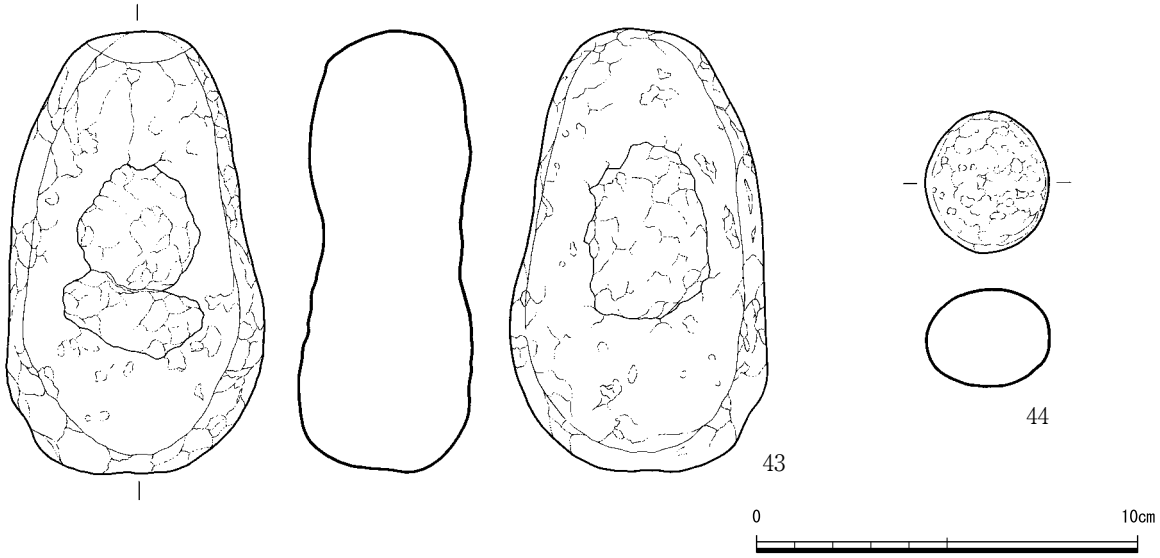
第 30 図　石器実測図②（1/2）



第 31 図　石器実測図③（1/2）



第 32 図　石器実測図④（1/2）



第 33 図　石器実測図⑤（1/2）

溝状の研ぎ跡がある。34 は１面のみに使用が確認できる資料。浅い溝状の窪みや、刻線状の金属による痕跡がある。35 は４面を砥石として使用する。上面と左側面の両側縁側は玉などを研いだのであろうか、溝状の研ぎ跡が確認できる。36 は３面を使用するもの。37 は３面を使用するが、下半部を欠損すると思われる資料。38 は花崗岩製のために固い。表面は窪むために、砥石として利用されたことが分かるが、上面や右側面も僅かながら使用された可能性がある。39 は４面を使用する砥石で下部は欠損する可能性がある。表面は丸く窪む。40 は表面、上面、左側面が残存する資料で、これらの面は砥石として使用される。41 は四角柱状に復元できる小型の砥石。３面を使用する。42 も小型品で、２面を砥石として使用する。

43 はくぼみ石で、表面、裏面ともに窪みが確認できる。44 は扁球状を呈する礫で、小型の磨石の可能性を考えた。

註

(1) 中型の横断面形について下記の報告書で検討を行った結果、断面形は、丸から凸レンズ状へと変遷することが分かった。これは、製品である細形銅矛から広形銅矛への袋部の断面形態と概ね一致する。
井上義也 2012「Ｖ考察　１青銅器生産関連遺物」『須玖岡本遺跡５－坂本地区５・６次調査の報告及び考察－』春日市文化財調査報告書第 66 集 春日市教育委員会

(2) 中型の湯口部端面の窪みについては、上記文献で検討したことがある。

(3) 青銅器については武末純一氏（福岡大学）、村松洋介氏（佐賀県立名護屋城博物館）から貴重な御意見をいただいた。

(4) 木製品の器種や樹種については、山口譲治氏（福岡市経済観光文化局）、小林義彦氏（福岡市経済観光文化局）から御教示をいただいた。

(5) 権については武末純一氏（福岡大学）から御教示をいただいた。

表６　１次調査出土石器観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量				石材	残存
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
1	第 29 図 図版 18	石鏃	溝 1	2.9	1.6	0.5	1.9	安山岩	一部欠損
2	第 29 図 図版 18	石鏃	P40	2.2	1.6	0.5	1.4	安山岩	一部欠損
3	第 29 図 図版 18	石鏃	溝 1	2.3	1.2	0.3	0.4	黒曜石	脚部欠損
4	第 29 図 図版 18	石鏃	土坑 1	2.3	1.75	0.25	1.5	安山岩	一部欠損
5	第 29 図 図版 18	石鏃	溝 1	2.45	1.65	0.4	1.0	黒曜石	一部欠損
6	第 29 図 図版 18	石鏃	土坑 1	2.25	1.55	0.3	0.6	安山岩	完形
7	第 29 図 図版 18	石鏃	遺構検出時	2.1	1.7	0.25	0.6	黒曜石	一部欠損
8	第 29 図 図版 18	石鏃	溝 1	1.25	1.45	0.25	0.6	黒曜石	一部欠損
9	第 29 図 図版 18	石鏃	土坑 1	1.8	1.4	0.3	0.6	黒曜石	一部欠損
10	第 29 図 図版 18	石鏃	土坑 1	1.9	1.6	0.25	0.7	黒曜石	一部欠損
11	第 29 図 図版 18	石鏃	溝 1	1.2	1.3	0.3	0.4	黒曜石	完形
12	第 29 図 図版 18	石鏃	土坑 1	1.45	1.35	0.35	0.6	黒曜石	一部欠損
13	第 29 図 図版 18	石槍？	土坑 1	3.3	1.65	1.1	6.1	安山岩	完形
14	第 29 図 図版 18	台形様石器	P27	2.0	1.95	1.65	2.4	黒曜石	一部欠損
15	第 29 図 図版 18	石器	溝 1	5.7	5.1	1.6	55.2	安山岩	完形
16	第 29 図 図版 18	石核	P96	4.6	2.6	1.5	17.2	黒曜石	完形
17	第 30 図 図版 19	石鏃	溝 1	3.6	9.5	0.55	2.8	泥岩	一部欠損
18	第 30 図 図版 19	磨製石剣	土坑 1	4.7	3.0	0.5	9.8	砂岩	一部欠損
19	第 30 図 図版 19	磨製石剣	P65	7.0	2.9	0.35	9.0	砂岩	欠損
20	第 30 図 図版 19	磨製石剣	土坑 1	1.9	2.2	0.8	5.2	泥岩	欠損
21	第 30 図 図版 19	磨製石剣	土坑 1	7.2	4.1	1.15	43.3	蛇紋岩	欠損
22	第 30 図 図版 19	石包丁	溝 1	8.2	3.75	0.7	19.2	泥岩	1/2 程度
23	第 30 図 図版 19	石包丁	土坑 1	7.7	3.8	0.8	28.9	砂岩	2/3 程度
24	第 30 図 図版 19	石包丁	土坑 1	7.3	4.55	0.75	34.6	凝灰岩	2/3 程度
25	第 30 図 図版 19	石包丁	溝 1	5.5	3.3	0.6	17.8	凝灰岩	1/3 程度
26	第 30 図 図版 19	石包丁	溝 1	5.1	4.7	0.7	23.0	凝灰岩	1/3 程度
27	第 30 図 図版 19	石包丁	溝 1	4.1	6.9	0.7	35.8	カクセン石片岩	2/3 程度
28	第 30 図 図版 19	石包丁	溝 1	3.8	4.5	0.5	8.7	凝灰岩	1/4 程度
29	第 30 図 図版 19	石権	土坑 1	3.9	2.4	1.8	35.2	滑石	一部欠損
30	第 30 図 図版 19	石権	溝 1	7.9	4.6	4.6	37.8	滑石	1/4 程度
31	第 31 図 図版 20	砥石	溝 1	7.3	5.3	4.4	342.8	アプライト	完形
32	第 31 図 図版 20	砥石	溝 1	11.9	3.6	2.4	125.7	泥岩	欠損
33	第 31 図 図版 20	砥石	土坑 1	7.8	5.0	3.6	148.7	砂岩	一部欠損
34	第 31 図 図版 20	砥石	溝 1	4.05	6.75	2.2	67.5	砂岩	一部欠損
35	第 31 図 図版 20	砥石	溝 1	8.1	4.65	4.25	254.9	砂岩	欠損
36	第 31 図 図版 20	砥石	溝 1	6.6	5.1	3.6 ～ 4	148.9	砂岩	欠損
37	第 32 図 図版 20	砥石	溝 1	4.6	4.6	4.9	16.73	砂岩	欠損
38	第 32 図 図版 20	砥石	土坑 1	9.3	8.3	9.1	943.8	花崗岩	欠損
39	第 32 図 図版 20	砥石	P74	9.3	8.5	3.1	388.5	砂岩	欠損
40	第 32 図 図版 20	砥石	溝 1	4.2	2.4	1.1	13.2	砂岩	欠損
41	第 32 図 図版 20	砥石	溝 1	2.35	1.7	1.7	7.3	砂岩	一部欠損
42	第 32 図 図版 20	砥石	溝 1	2.3	2.2	1.6	12.1	砂岩	欠損
43	第 33 図 図版 20	くぼみ石	P41	11.7	6.8	3.7 ～ 4.6	632.1	花崗岩	完形
44	第 33 図 図版 20	磨石？	表土	3.7	3.3	2.6	46.5	火山岩	完形

Ⅳ　４次調査の内容

１　調査の概要

１次調査の西に接する。調査区の北部は小学校のグラウンドとして整備され、南部は植栽のためグラウンドよりも数十cm高くなっている。客土など20～90㎝程度除去すると褐色粘質土を基本とする地山を検出し、黒褐色系の土で埋まった遺構を検出した。１次で見られた側溝が調査区の中央から南部に確認でき、１次調査同様、植樹や工事のためと考えられる攪乱がある。

発掘調査の結果、溝４条とピットを検出した。１号溝とそれに重複する２号溝は、１次調査でも確認している。また４号溝も１号溝と重複するが、気づくのが遅れたために殆ど検出できなかった。１号溝は完掘していない。床面は緩やかに西に下がり、ところどころに段を持つ。特に、西隅では床面に木器などが残るため、１次調査の１号土坑と同様の性格を持つかもしれない。また、調査区壁面Ｂ－Ｂ′では北側から土砂が流入するのが観察できる。人為的に埋めたのか、土塁があったことを示すものであろう。３号溝は他の遺構と重複する可能性があるが、一部しか掘っていないために詳細は分からない。ピットは全体的に少なく、１つだけ柱痕を確認することができたが、削平された掘立柱建物の柱穴の１つかどうかは分からない。

１号溝を中心に弥生時代中・後期の土器や石器とともに青銅器鋳型や銅矛中型が出土する。青銅器鋳型は古い型式のもので、鞴送風管は残存度が高く特筆される。

２　遺構

（１）　溝

１号溝（図版21～24、第34～36図）

１号溝は、調査区中央部やや南よりに24ｍ程度を検出した。東西方向に延びる溝で、１次調査１号溝と同一である。開発内容が遺構に与える影響が少なかったために、2/3程度しか調査していない。東部と南西部は現代の排水溝により破壊されており、２・４号溝も１号溝の中を並走する。幅は4.5～5.2ｍだが、南側の上端は、重複する４号溝の上端の可能性もある。平面形でも南壁には幅0.8ｍ程度のテラスが見られるが、これが４号溝の可能性もある。検出面からの深さは40～90㎝で、床面は、所々に窪みを持ちながら、西に向かい緩やかな傾斜を持ち、西隅で20㎝程度下がり段をなす。ここからは、木器や木片が大量に出土した。なお、土層Ｂ－Ｂ′では、北側からブロック混じりの埋土が流入することが分かるため、人為的に埋められた可能性がある。東隅部は、１次調査の結果から張出状になると思われ、痕跡もある。ただし、２号溝（４号溝？）や攪乱などによって破壊されているこ

とや未掘であることから、詳細は不明。

出土遺物は、多くの弥生土器と共に、石器、青銅器鋳型、青銅器中型、坩堝／取瓶、鞴送風管等が出土する。

２号溝（第 34 図）

２号溝は、１次調査２号溝と同一で、１号溝と重複する。東西方向に 15.2 m程度を確認した。遺構検出時には平面で認識できず、１号溝と同時に下げてしまった。このため、１号溝をある程度下げた段階で検出した。幅は 1.8 m前後と考えられるが、上述したように不確かである。深さは 35 ㎝前後であろう。

出土遺物は、多くの弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器が出るが、弥生土器は１号溝に帰属するものであろう。

３号溝（第 34 図）

３号溝は､調査区南部で 18 m検出し､やや弧を描く。一部を除き平面での確認のみにとどめたため、東部で幅が広くなる部分があるが、他の遺構と重複する可能性がある。ここを除けば、幅は 1.0 ～ 1.9 m程度、深さは 35 ㎝前後であろう。

図化できる遺物は出土してないが、中世の溝の可能性がある。

４号溝（第 34 図）

調査区南西部にある。２号溝と同様、１号溝と重複するために、当溝の存在に気付くのが遅れてしまい 1.6 m程しか調査できなかった。また､南壁は現代の排水溝に切られるため､幅は明らかではない。深さは 15 ㎝程度。

図化できる遺物は出土してないが、中世の溝の可能性がある。

（２） ピット

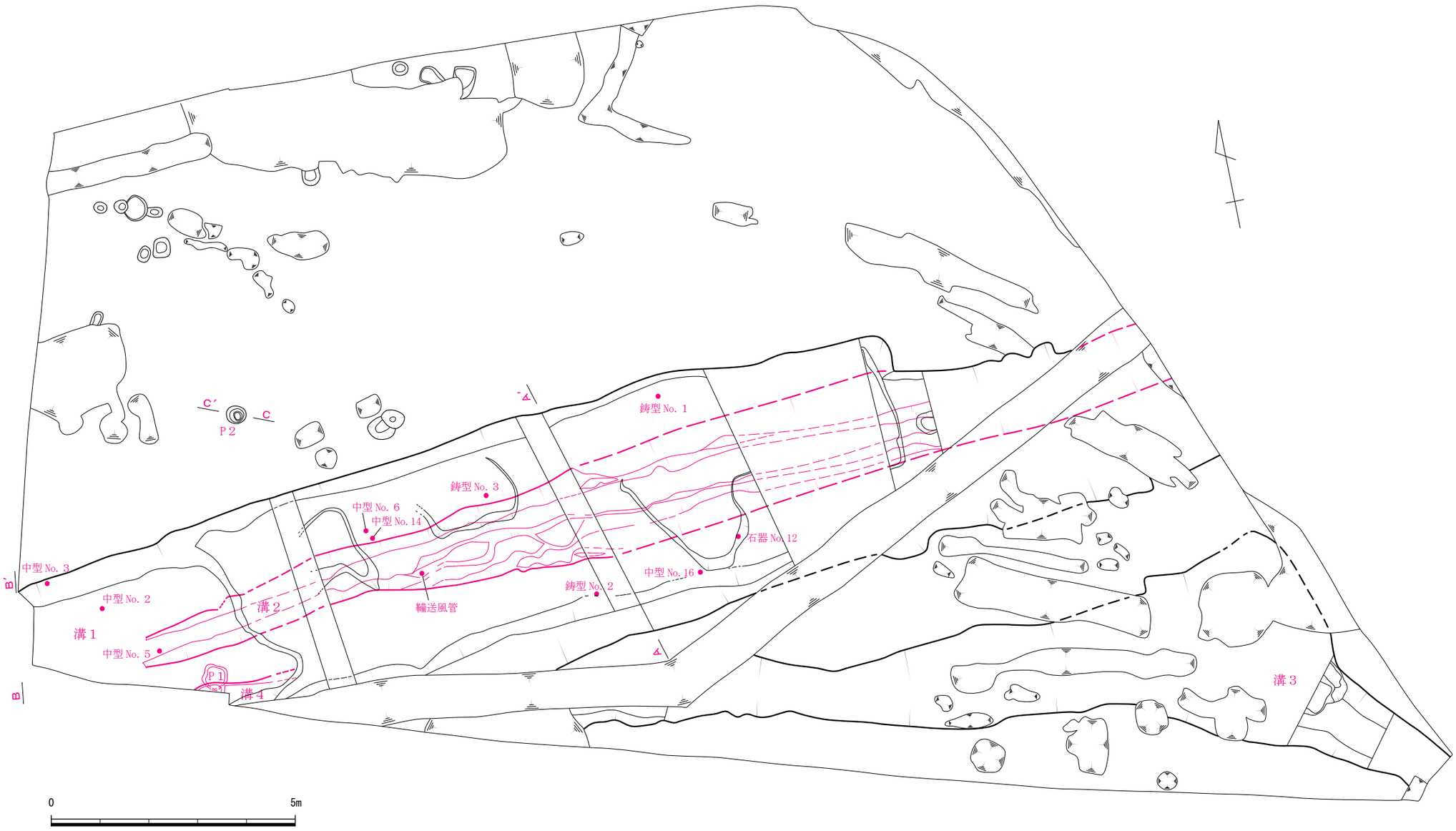
ピットは、１次同様に調査区北部を中心にあり、数えるほどしかない。Ｐ２は柱痕が検出されるため、建物の柱穴の可能性があるが、深さ 20 ㎝のため少なくとも数十㎝は削平を受ける。南側には唯一Ｐ１があるが、古墳時代の土師器が出土する。弥生時代の１号溝が大きく削平を受けている可能性があるので、Ｐ１が残存することは１号溝の削平は古墳時代に行われたと推測できる。

３ 遺物

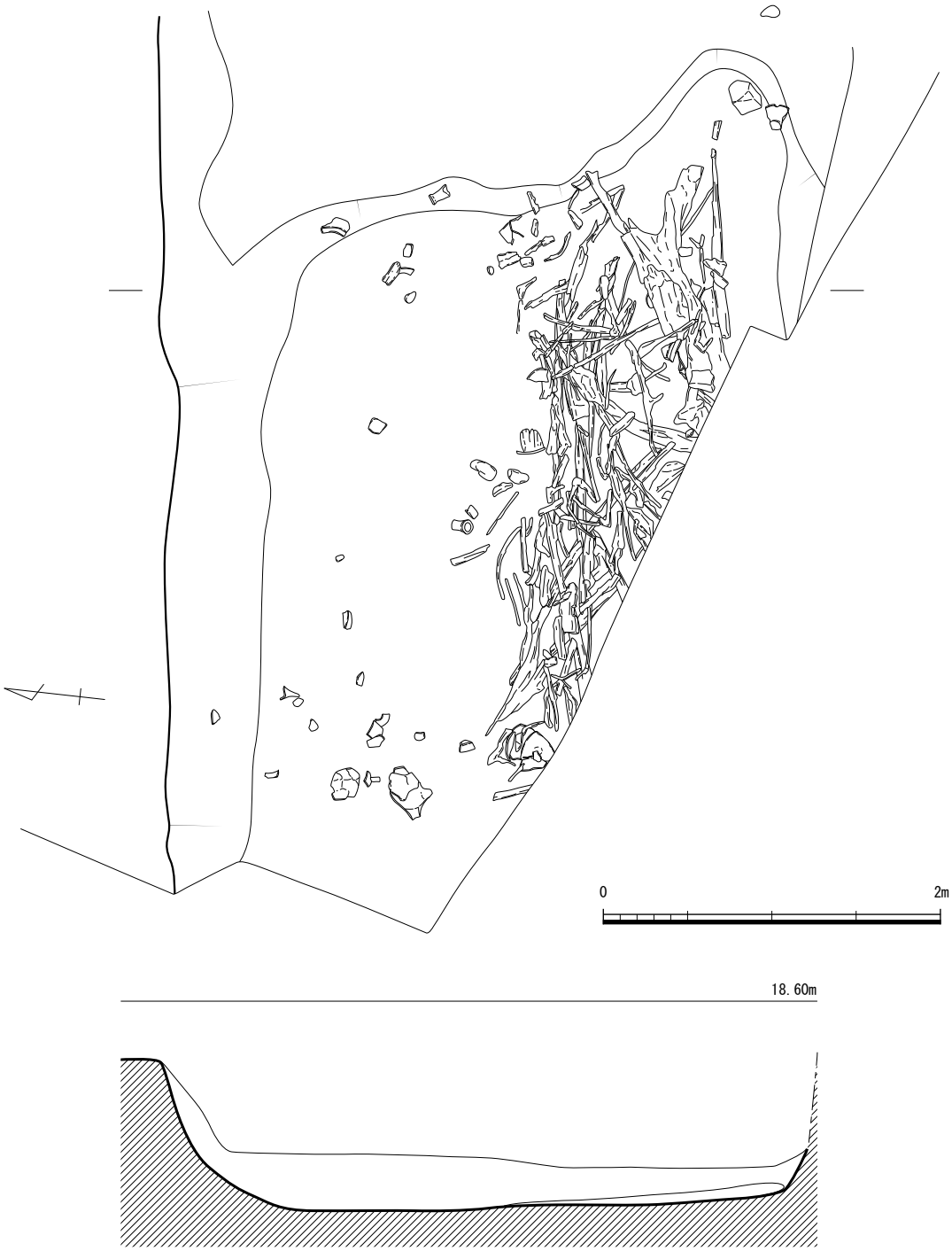
（１） 土器（図版 26 ～ 32 －(1)、第 37 ～ 45 図、表７）

１号溝出土土器（1 ～ 192）

1 ～ 37 は壺。１は袋状口縁をなす壺の口縁部であるが、複合口縁に近い形状を呈する。頸部は短

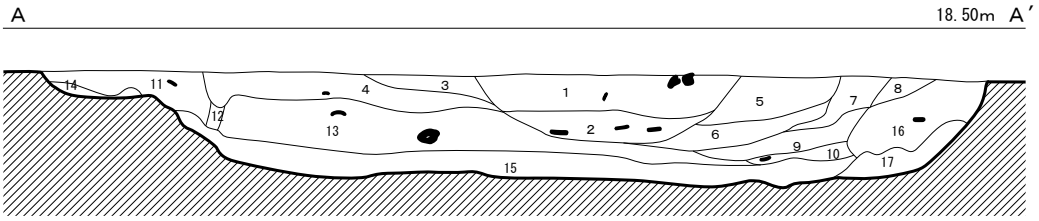


第 34 図　須玖坂本Ｂ遺跡４次調査遺構配置図（1/100）

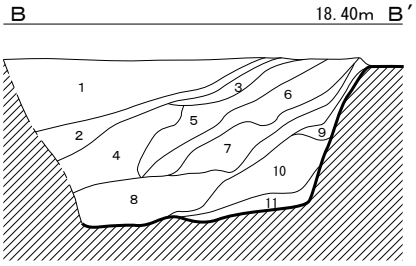


第 35 図　１号溝木製品等出土状態実測図（1/40）

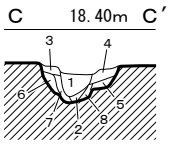
く締まらない。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。２は扁球形の体部に直立気味の短い口縁部が付く資料で、底部は凸レンズ状をなす。口縁部の端部はやや欠損するが、丸みを持つと考えた。３・４は直口壺で、頸部と肩部の境には断面が三角形の突帯を付す。倒卵形の体部が復元できる。５は直立気味に外反する壺の口縁部。端部は肥厚し、外側へ摘み出す。６は口縁部から肩部まで残存する資料。口縁部は鋤先口縁で、外側にやや垂下する。頸部と肩部の境に１条の突帯を付すが、稜は鈍い。



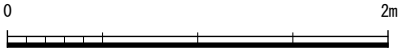
1　灰白色砂礫土（白色砂礫土を多く含む）
2　白灰色砂礫土（1と同質。底部にかけて白色細砂礫、及び底部には茶褐色の砂礫・土器を多く含む）
3　淡灰色砂土（白色の砂礫を若干含む）
4　灰色砂土（白色砂礫及び、11～15層に見られる粘質土を若干含む）
5　灰褐色砂土（3層と似る。白色の砂礫・弥生土器片を多く含む）
6　暗褐色土（やや粘性あり・弥生土器片を若干含む）
7　褐灰色土（白色砂礫を若干含む）
8　暗褐色土（やや粘性あり・黄橙色の地山ブロック若干含む）
9　暗灰色粘質砂土
10　暗灰褐色粘質砂土（地山由来の淡黄色土ブロック・弥生土器片を多く含む）
11　灰褐色砂土（白色砂礫・黄褐色の地山ブロック含む）
12　暗茶色粘質土（樹根による掘り込み）
13　黒褐色粘質土（黄褐色ブロック若干含む・中央にかけて単色で粘質強くなる）
14　暗黄褐色土（地山ブロック若干含む）
15　黒褐色粘質土（13と同質。黄橙色の地山ブロック・土器片やや含む）粘性強い
16　黒褐色粘質砂土（地山由来の暗茶色ブロック・橙黄色ブロック含む）
17　黄褐色土（粘性あり・かなり早い段階での堆積であるため、ほぼ地山に同じだが、やや暗い）



1　褐灰色砂礫土
2　黒茶色土（褐色粘質土ブロック・白色礫を若干含む）
3　灰褐色砂土（白色砂礫を若干含む）
4　淡灰褐色土（やや粘性あり・黒褐色土・黄灰色砂土ブロックを含む）
5　橙灰褐色砂礫土（黄橙色土ブロック・黒褐色土ブロック・灰褐色砂・白色礫を含む）
6　黒褐色土（やや粘性あり・橙褐色土ブロック若干含む）
7　褐色粘質土（黒褐色土ブロック・暗灰色シルトブロック若干含む）
8　黒褐色土（粘性あり・暗褐色の粘質土ブロックを多く含む）
9　暗褐色土（粘性強し・10層と同質であるが黒褐色を多く含む）
10　暗黄褐色粘質土（地山由来の橙褐色土を若干含む）
11　淡褐色粘質砂土（地山由来の橙褐色土を若干含む）

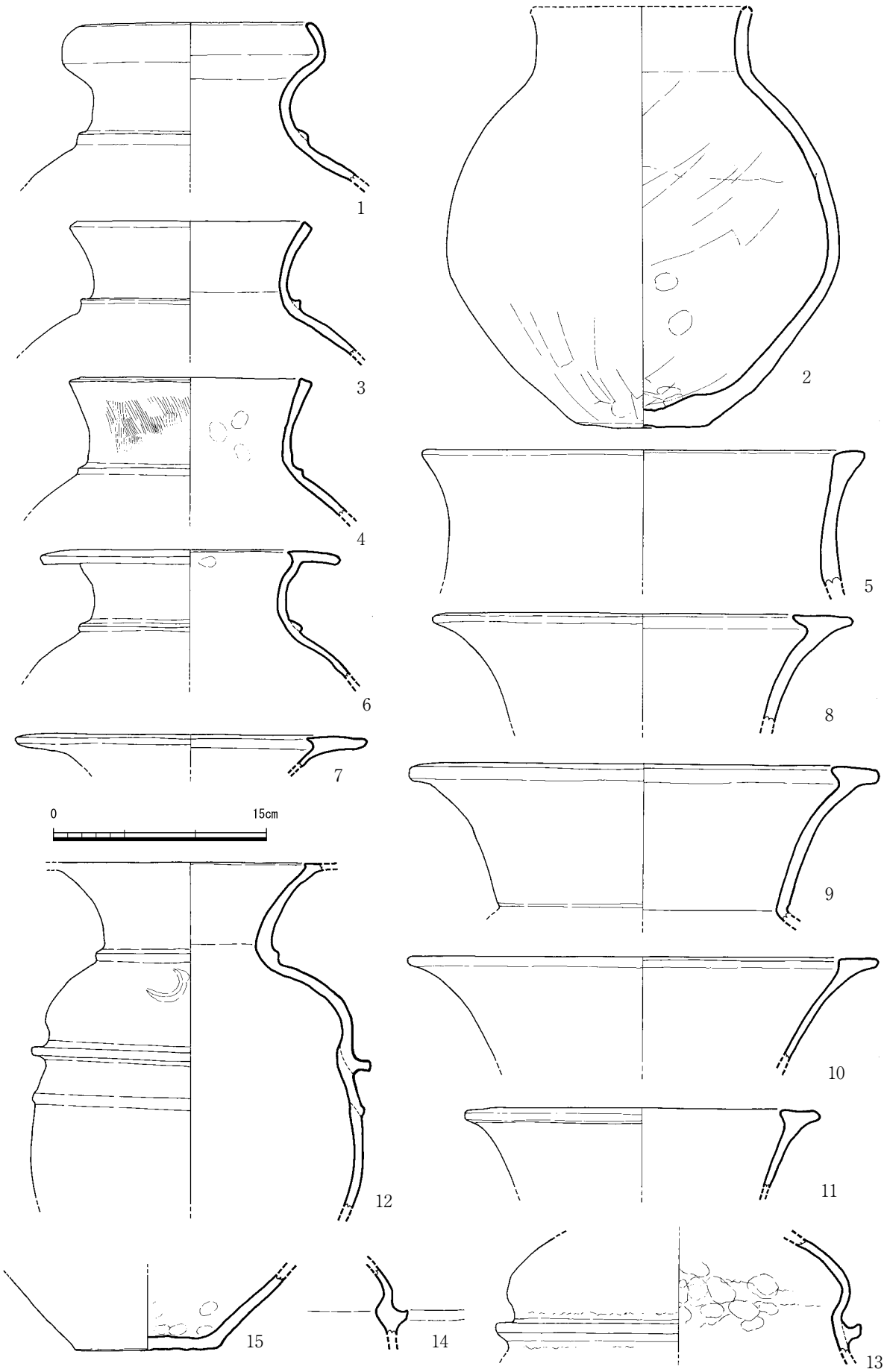


1　暗褐色土（柱痕・やや粘性あり）
2　黄褐色土（ややしまりあり）
3　黄灰色土（黄褐色フロック若干含む）
4　黄灰色土（1層と同質）
5　暗黄褐色土（ややしまりあり）
6　黄褐色土（白色の礫を若干含む・茶色ブロック若干含む）
7　黄灰色土（1・2層とほぼ同質であるがややしまりあり）
8　茶褐色土（白色の礫を若干含む）

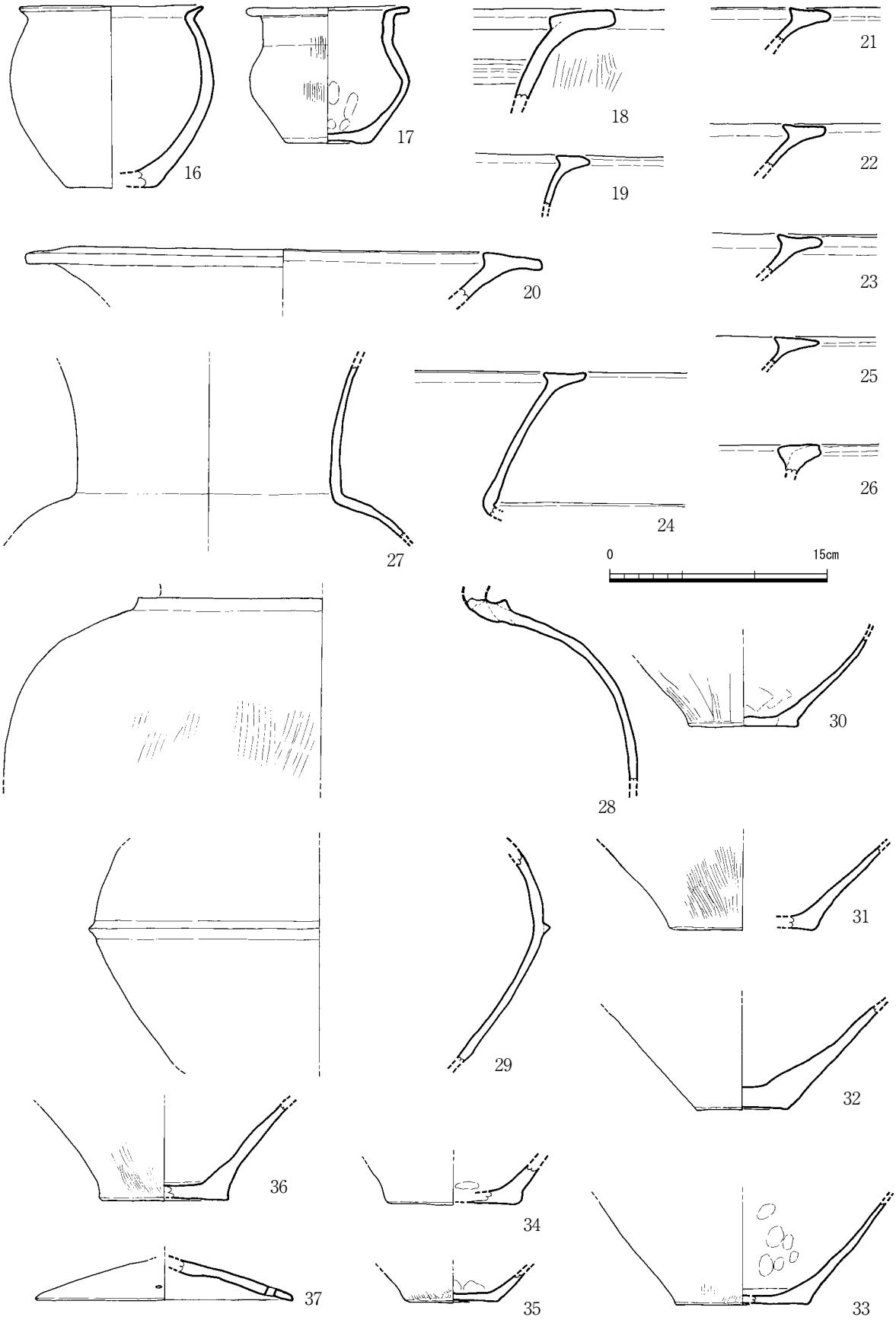


第36図　1号溝断面土層実測図（1/40）

瓢形土器の可能性がある。7は鋤先口縁の破片資料で、上面は水平に近い。8・9も口縁部が鋤先状を呈する壺。8は上面をやや外傾させ、内側の突出度が高い。9は上面が外傾し、内口縁、外口縁ともに丸みをもつもの。10は上面がほぼ水平で、内側には殆ど突出しない口縁部。11は上面に窪みを持ち、内口縁、外口縁ともに丸みを持つ資料。12～14は瓢形土器。12は外口縁端部を欠く上半部の資料。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯、肩部下には鍔状の突帯、その下にはシャープさに欠ける断面台形の突帯を付す。肩部に鈎状の浮文が確認できる。13・14は鍔状突帯の周辺部。両者ともに上辺を摘み上げる。15は接合しないが、12の底部の可能性が高い資料で、平底。16・17は小型品。16は体部から口縁部が短く屈曲する無形壺で最大径は体部の上位にある。17はほぼ完形品。体部から頸部が直立し、逆「L」字の口縁部にいたる。底部はやや上底。18～26は口縁部。18は上面に粘土帯を貼り付け、肥厚させた資料。やや粗い印象がある。19は内口縁も外口縁もさほど発達しない



第 37 図　1 号溝出土土器実測図①（1/4）



第 38 図　1 号溝出土土器実測図②（1/4）

もの。20 は外側へやや垂下する口縁部。内側をやや尖らせる。21 ～ 24 は内口縁をシャープに仕上げ、上面を窪ませる資料。24 は頸部の残存度が良く、直下には肩部が接続する。25 は内口縁、外口縁ともに厚みがなく、やや鋭い印象をもつもの。26 は内外にさほど突出せず、丸みを持つ資料。

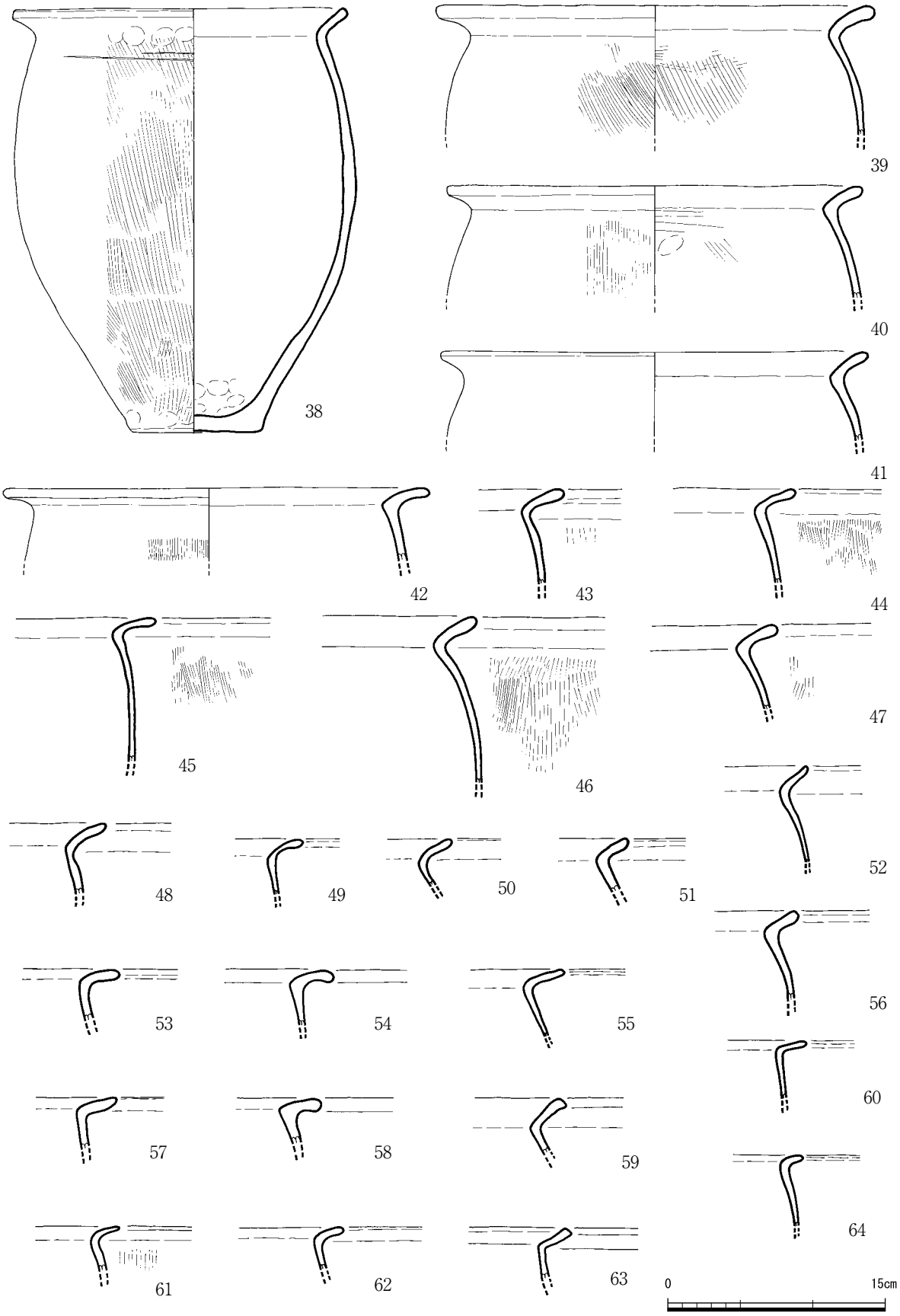
27 は頸部から肩部が残存する資料。28 は肩部で、丸みを持つ。頸部の接合が外れた痕跡があり、その下には断面三角形の突帯が確認できる。29 は体部。最大径に断面三角形の突帯を付す。30 ～ 36 は平底か、上底気味の底部。32 はやや厚みがあり、底部が小さいため不安定な感がある。37 は無形壺の蓋。円孔が確認できる。

38 ～ 169 は甕。38 は半分程が残存し、口縁部～底部までを復元した資料。口縁部は断面形が「く」字状をなし、胴部最大径はやや上位にあり口径よりもやや大きい。底部は平底。頸部下に沈線上の線刻が２条ある。39 ～ 128 口縁部片。39 ～ 64 は断面形が「く」字状を呈するか、それに近い口縁部。上面は丸みを帯びるものが多いが、43・44・50・51・55・56・59・60 のように直線的なもの、52・63 のように内湾し端部を摘み上げるものがある。65 ～ 73 は口縁下に突帯を持つ資料で、やや大ぶりの感じがする。65 は口縁部が短く上面の丸みが強い資料。胴部最大径は口径よりも大きいと考えられる。66 は断面形が逆「Ｌ」状のもの。67 は上面が内傾し、外端部に面を持つ資料。68 ～ 70 は上面が匙面状をなす口縁部。68 は内口縁を僅かに突出させる。69 はシャープさに欠ける。70 は口縁部の厚みが薄く、内口縁が突出するもの。71 は内口縁が鋭く突出し、外口縁が僅かに垂下し、刻目を施す資料。口縁下には口唇状の突帯を持ち、口縁部と突帯の間には波状の暗文を施す。72 は上面が水平な資料。73 は上面が外傾し、外口縁の厚みが薄い資料。74 ～ 118 は断面形が逆「Ｌ」状の口縁部が主体を占める。74 ～ 77 は上面が外傾し､外口縁が下がる資料。77 は内外の突出度が比較的高い。78 ～ 80 は外口縁がやや伸びるもので、端部は丸く仕上げる。81 ～ 89 は上面がほぼ水平な資料。85 ～ 87・89 は内側を突出させる。88 は端部が肥厚し、中央に強いナデを施す。90 ～ 115 は上面が内傾する資料で、90・95・96・107・114・115 はやや窪む。90・105・106・113 は口縁下に断面三角形の突帯を１条、107 は２条付す。外口縁の端部は丸みを持つものが多いが、101 はやや尖る。116 ～ 118 は上面が丸みを持つ口縁部片。

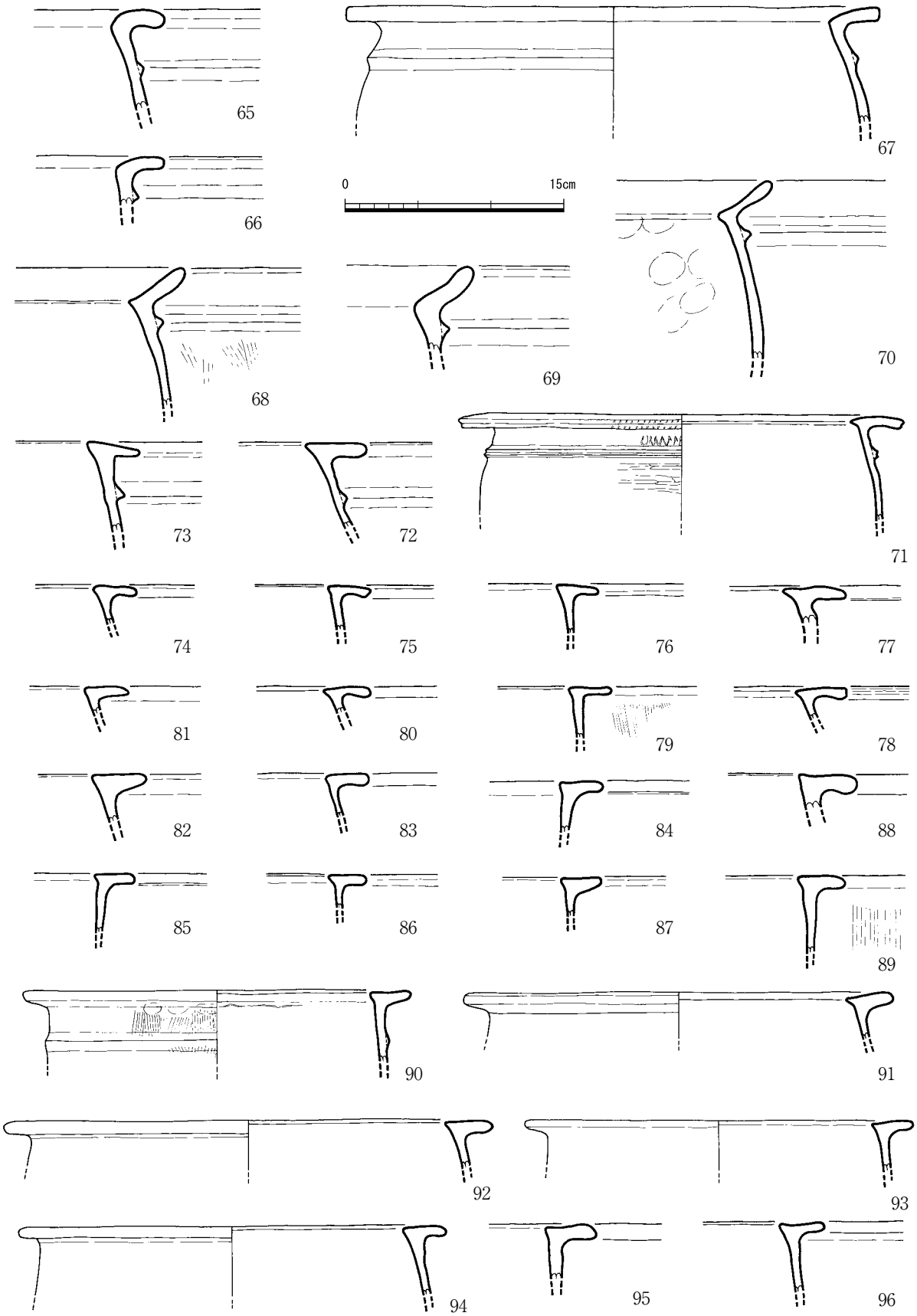
119 ～ 129 は大甕。128 までが口縁部で、123 を除き胴部が丸みを持つタイプであろう。119・120 は断面形が「く」字に近く、119 は口縁下に断面三角形の突帯を付す。121 ～ 128 は外口縁に比べ内口縁の突出度が高い資料で、内口縁の端部は、121 ～ 123・125 が丸みを帯び、124 は面を持ち、126 ～ 128 は尖り気味である。129 は胴部片。断面台形で突出度の高い突帯が２条巡る。

130 ～ 169 は底部。一部は壺の底部かもしれない。130 ～ 136 は凸レンズ状、または凸レンズ気味の底部を持つ資料。130 は、器壁の厚みが一定でない。131・132 は小型品。137 ～ 145・154 ～ 158 は平底で、139 ～ 141・155 は厚みがある。146 ～ 153 はやや上底を呈する資料。159・160 は底端部の内側を窪ませるもの。161 ～ 169 は底部の器壁に厚みがあり、上底を呈する資料。163・164・169 は特に厚い。

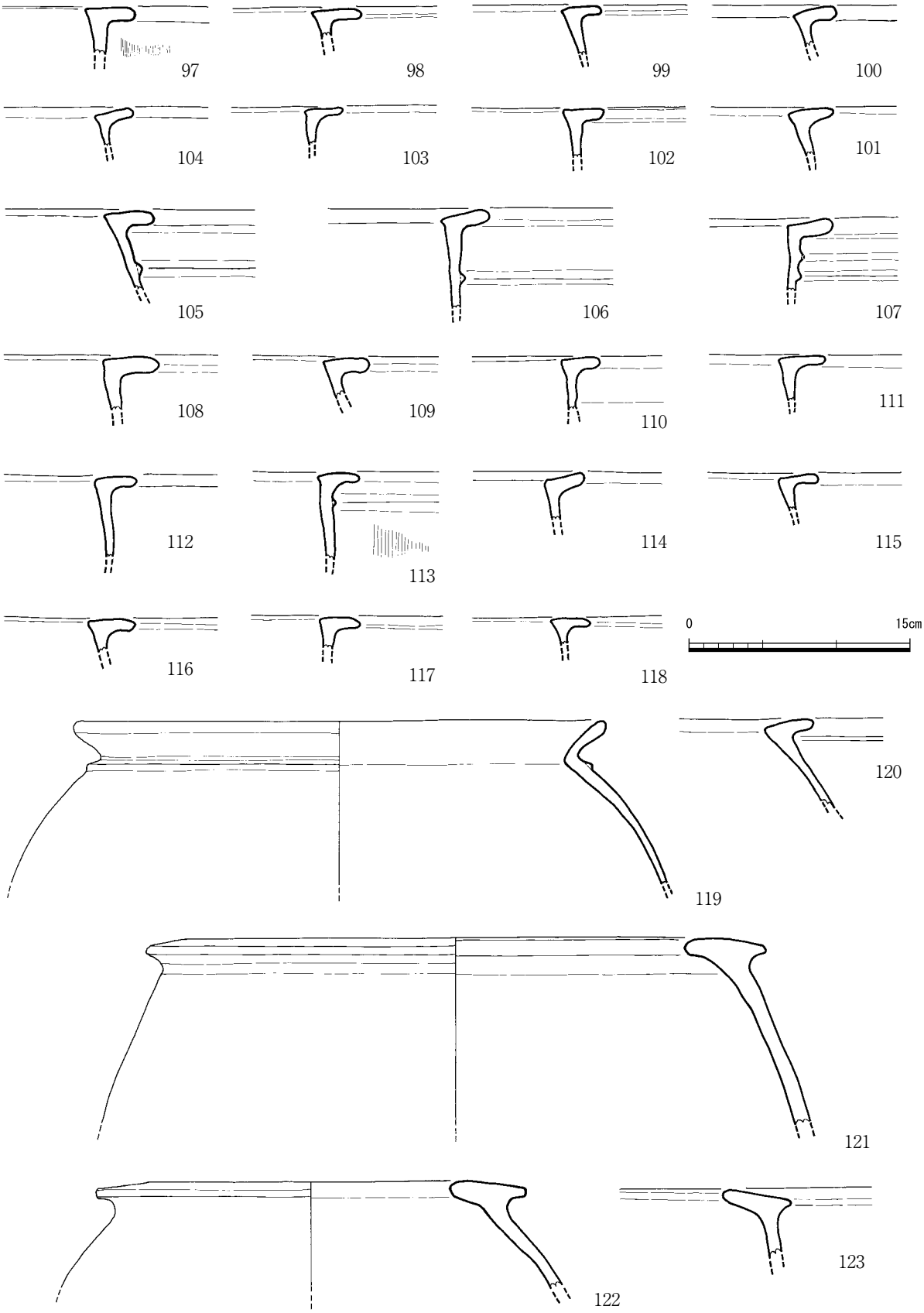
170・171 は甕の蓋。170 は上面が窪み、器壁が厚いもの。171 は上面をツマミ状に成形する資料で、



第 39 図　1 号溝出土土器実測図③（1/4）



第 40 図　1 号溝出土土器実測図④（1/4）

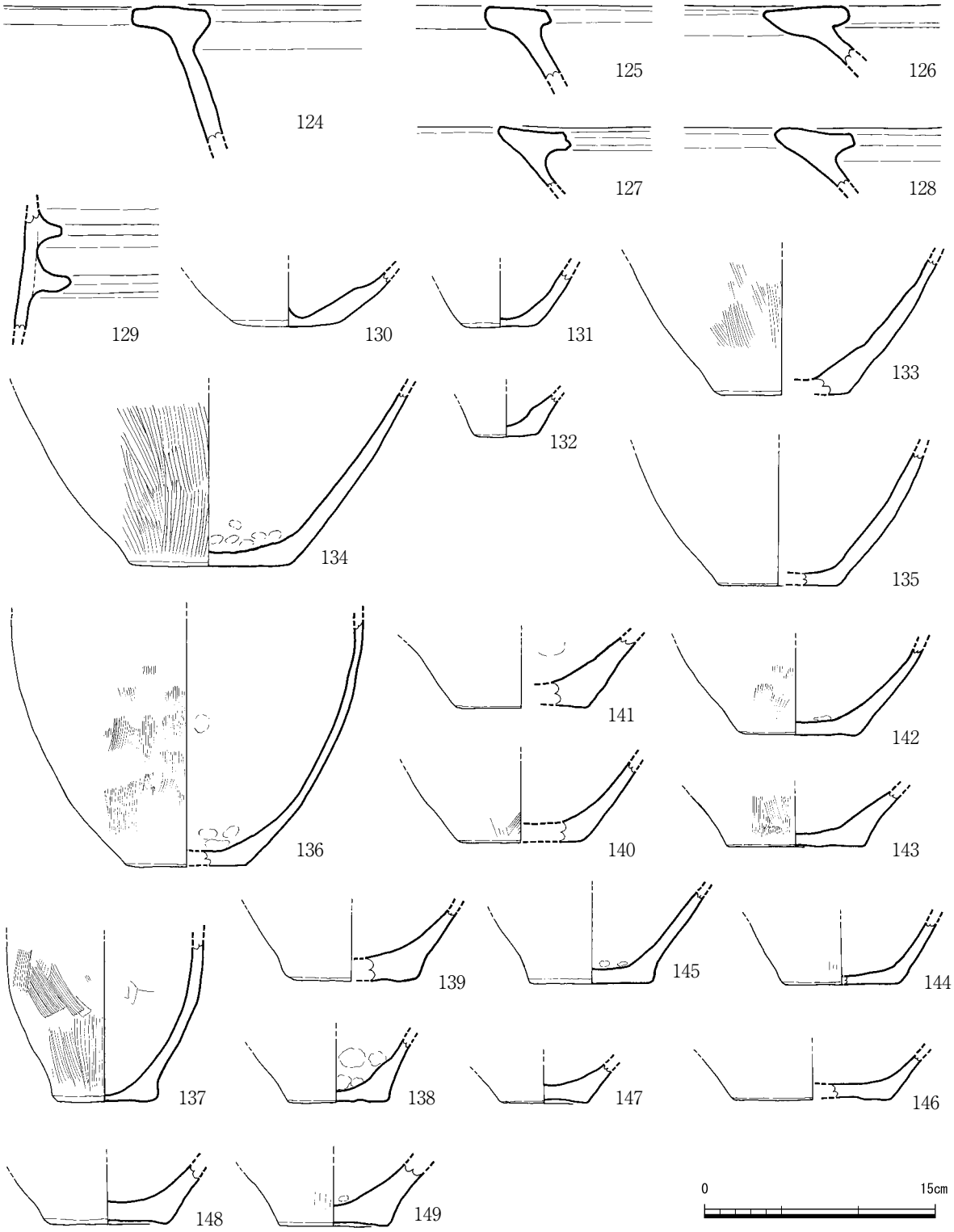


第 41 図　1 号溝出土土器実測図⑤（1/4）

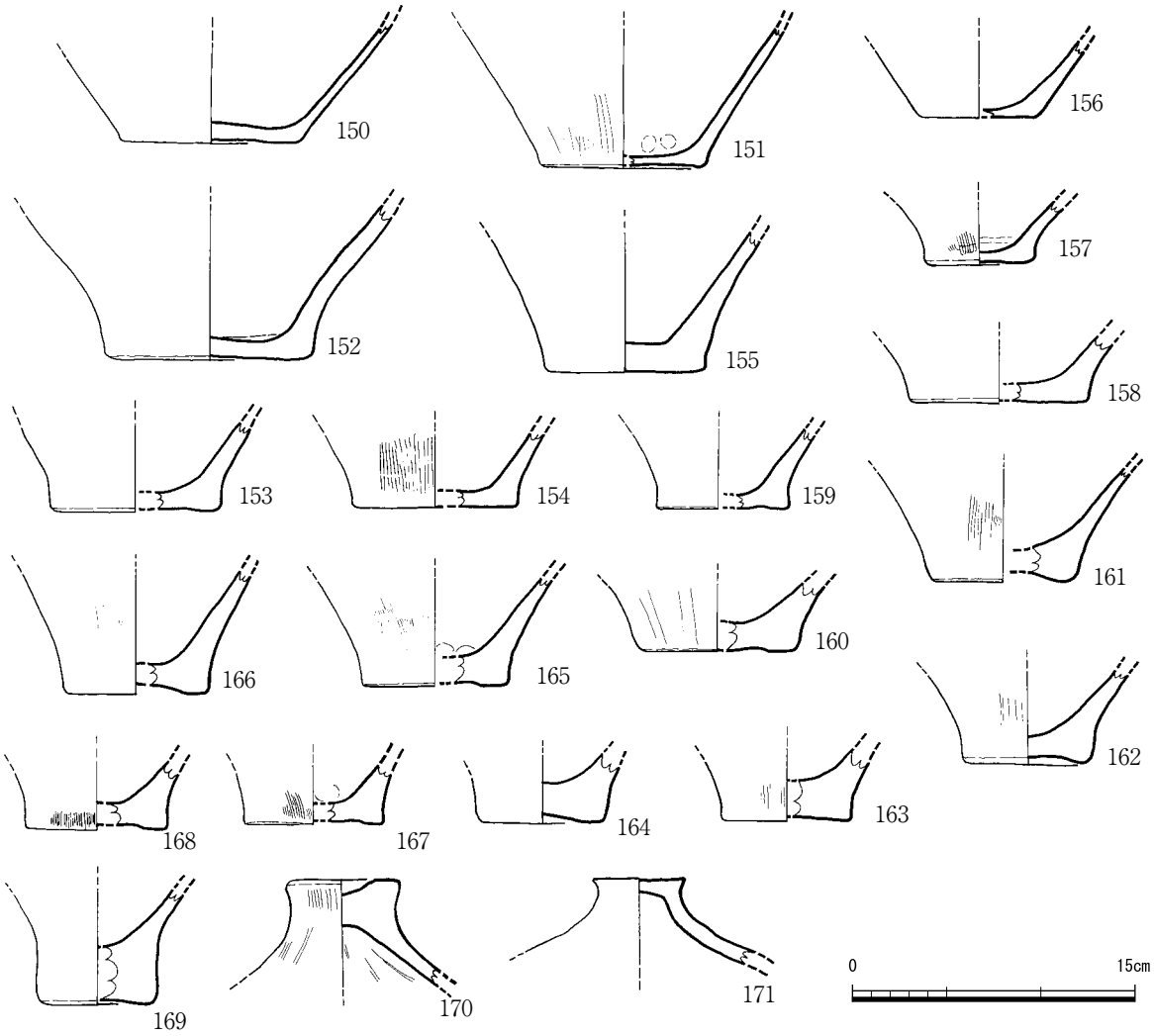
器壁は薄い。

172・173 は鉢。172 は最大径が胴部の中位にあり、そこからやや内傾して口縁部にいたる資料。口縁端部は尖り気味。173 は口径に比して器高が低いもの。

174 ～ 185 は高坏。174 ～ 180 は口縁部。174 は内外の端部が小さく突出し上面が窪む。175 は上面



第 42 図　1 号溝出土土器実測図⑥（1/4）

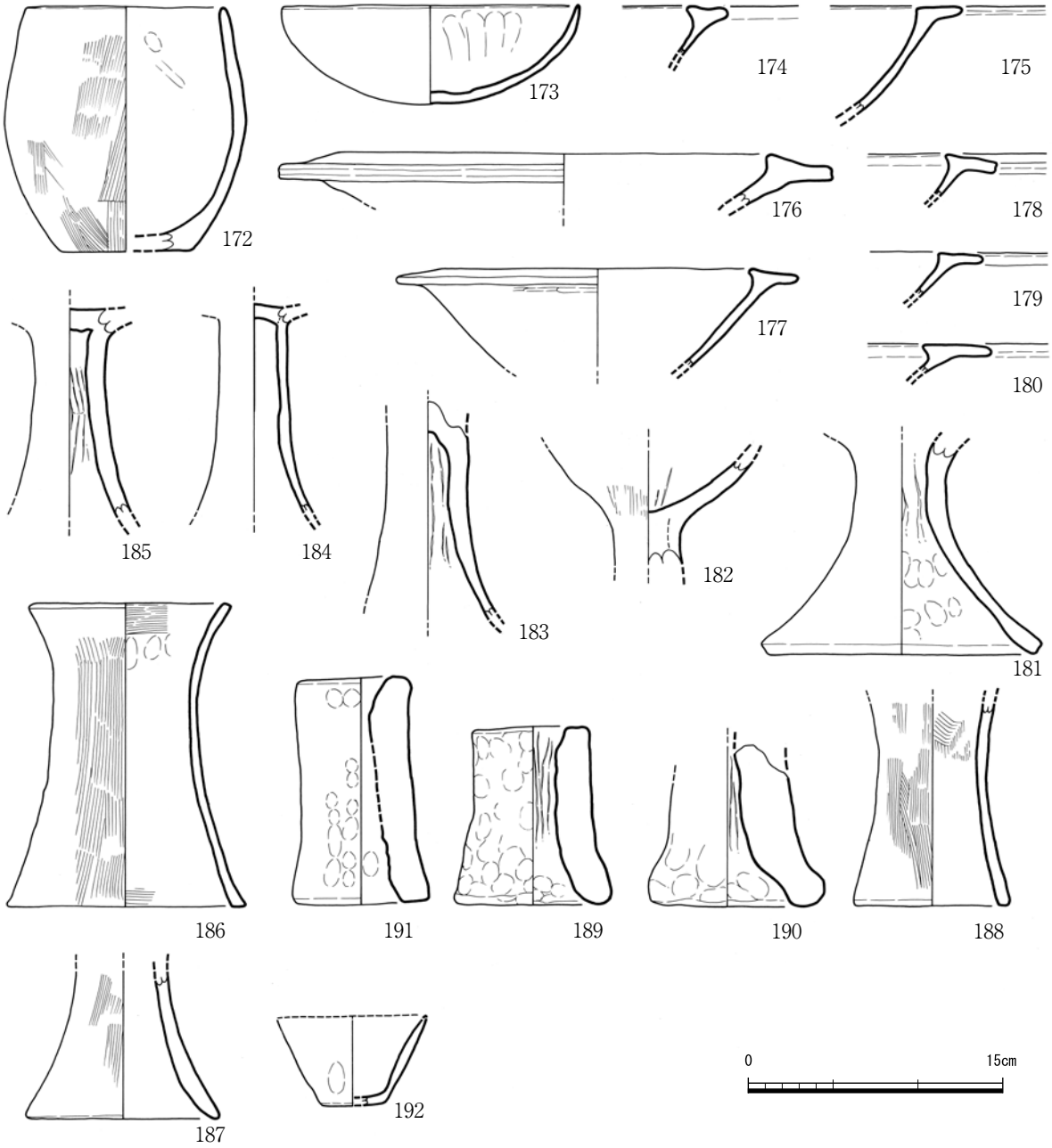


第 43 図　1 号溝出土土器実測図⑦（1/4）

がほぼ水平で、外側のみに突出する資料。176 は上面が窪み、外傾する。外端部には面を持つ。177 は口径に比して坏部がやや深い資料。178 は内口縁がやや突出し、外口縁が下がり、端部に面を持つ資料。179 は外口縁がやや外傾し端部に丸みを持つもの。180 は内口縁を突出させ、外口縁をやや長く成形し端部に丸みを持つ資料。181 ～ 185 は脚部。181 は脚部の全形を復元できる資料。短い脚柱部に「ハ」字に広がる裾部が付く。端部はやや面を持つ。182 は坏部から脚部にかけての資料で、確認できる範囲の脚柱部は中実。183 ～ 185 は脚柱部。183・185 は内面にシボリ痕がある。

186 ～ 191 は器台。186 ～ 188 は鼓形の器台で、器壁が薄く、外面の調整はハケメを主体とする。186 はくびれ部が中位よりもやや上にある関係に復元できる資料。187 は下半部の資料。188 は口縁部を欠く資料で、くびれ部は中位にあろう。189 ～ 191 は器壁が厚く、調整を指押さえ主体で行うもの。189 は完形品で、器高が 10.6 ㎝と短小なもの。「ハ」字に広がる裾部から直立し受部にいたる。190 は脚裾部で、短く「ハ」字形に広がる。調整は粗雑な印象を受ける。191 は完形品で、受部と脚裾部の形に差があまりないため、筒状をなす。内面は受部、脚裾部ともに外側にやや広がる。

192 は鉢形の手捏土器。底部は凸レンズ状である。



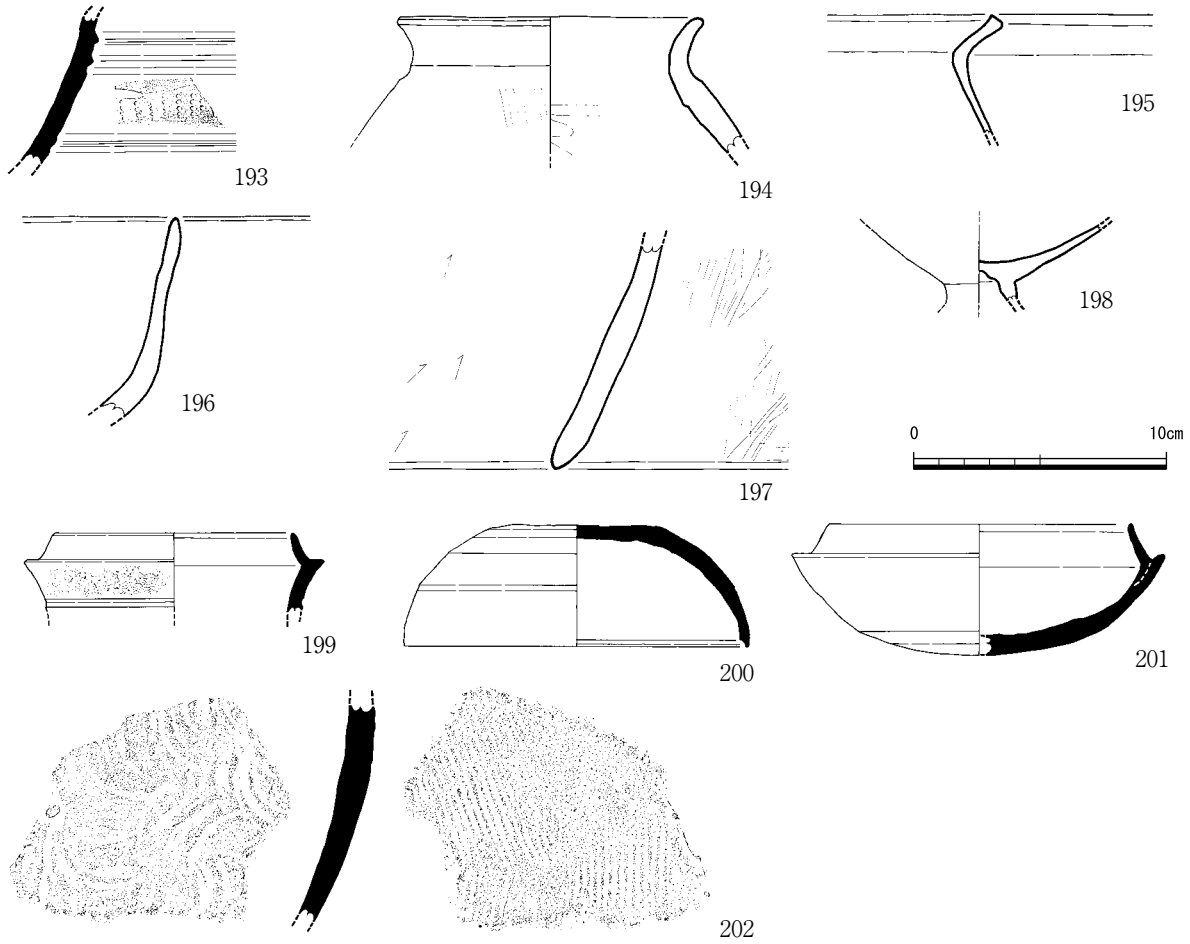
第 44 図　１号溝出土土器実測図⑧（1/4）

193 は２号溝などからの混入品と考えられる陶質土器の高坏形の器台。上部に２条、下部に１条の小さな突帯があり、その間には刺突文を施す。

２号溝出土土器（194 ～ 238）

194 ～ 198 は土師器。194 は甕の口縁部。胴部の器壁が厚く、短く外反する口縁部は端部を丸く成形する。磨滅が著しいが、胴部内面は削りであろう。195 は古式土師器の甕の口縁部片。傾きはやや疑問がある。196 は鉢。体部は底部から外傾し、口縁部にいたる。197 は甑の底部。磨滅するが内面は下から上に削りを施す。198 は古式土師器の器台のくびれ部付近の資料。

199 ～ 202 は須恵器。199 は有蓋壺の口縁部。受部下には波状文を施す。200 は坏蓋。外面に不明

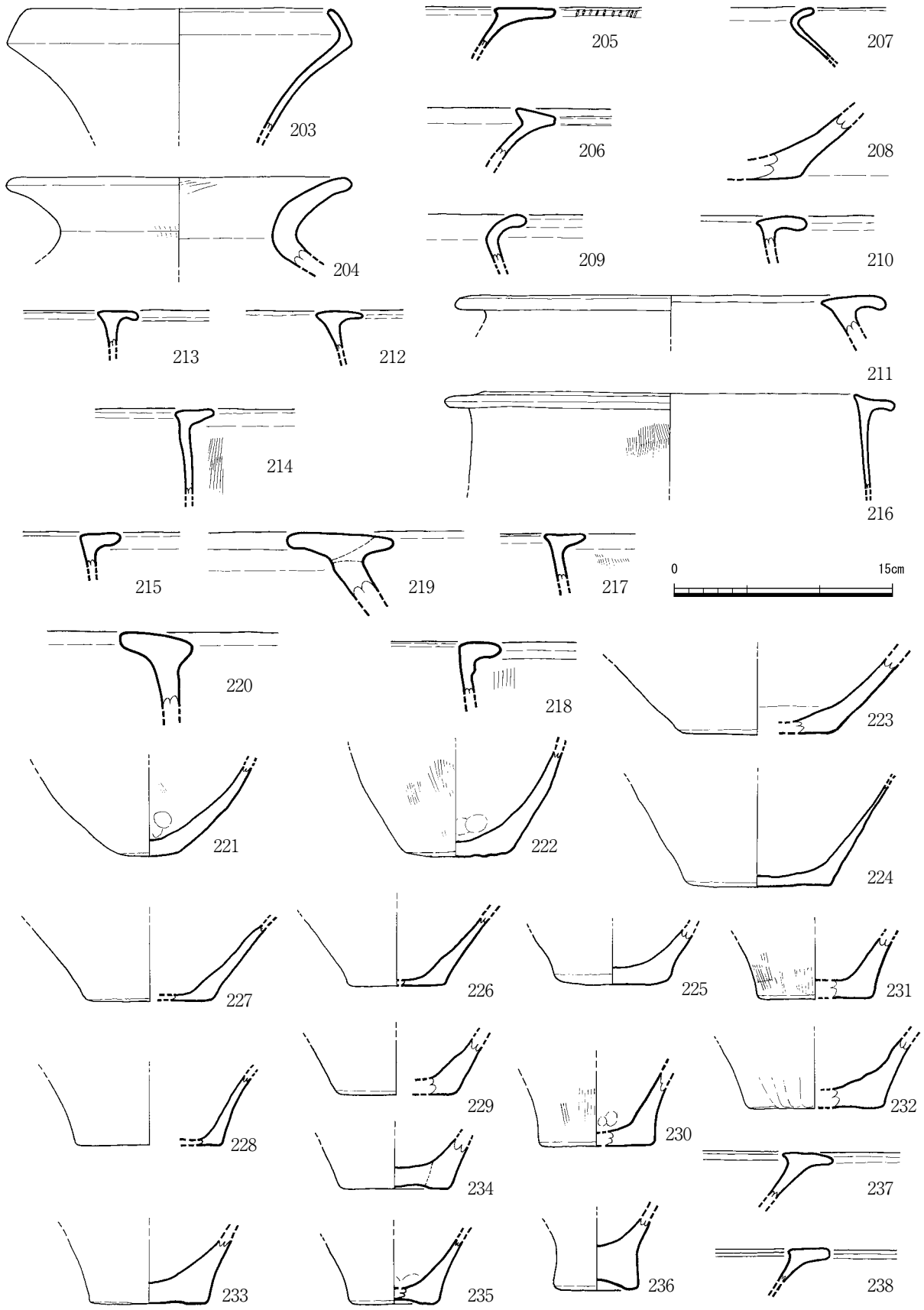


第 45 図　1 号溝出土土器実測図⑨・2 号溝出土土器実測図①（1/3）

瞭な沈線を施し、口縁部内面に段がある。201 は坏身。内傾する口縁部はやや長い。体部から底部はやや丸みを帯びる。202 は赤焼け須恵器の甕で、胎土に粗砂粒がやや目立つ。外面には煤が付くため煮炊きに使用されたと推測できる。胎土が粗いことなどから考えても土師器工人が須恵器を製作した可能性が考えられる。

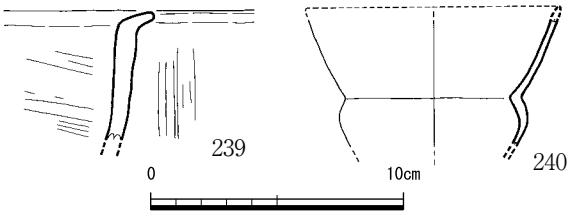
203 ～ 238 は弥生土器で、1 号溝などからの混入品と考えられる。203 ～ 208 は壺。203 は複合口縁壺の口縁部で、屈曲部の稜は鋭い。204 は広口壺の口縁部で、頸部から短く外反する。205 は鋤先口縁を呈する資料。上面はほぼ水平で、外端部に刻目を施す。206 は上面が外傾するもの。内口縁の突出度はやや高い。207 は小型の無頸壺であろう。208 は壺の底部。凸レンズ状をなす。

209 ～ 218 は甕の口縁部。209 は断面が「く」字に近い資料。端部は丸みを持つ。210・211 は内口縁が尖り、外口縁はやや発達し端部が丸いもの。212 も内口縁が尖る資料で、外口縁も尖る。213 は上面が水平で、外口縁が垂下するもの。214・215 は上面が内傾する資料。外口縁の断面形は三角形に近い。216 は内口縁が鋭く突出し、上面が外傾し端部に面を持つもの。217 は上面が水平で断面が三角形に近い口縁部。218 は上面や外端部が丸みを持つ資料。



第 46 図　２号溝出土土器実測図②（1/4）

219・220 は大型の甕。219 は内口縁、外口縁が突出し、端部を丸く成形する。上面はやや外傾する。220 は突出する内口縁の端部が面を持ち、外口縁は断面台形状に張り出す。



第 47 図　ピット出土土器実測図（1/3）

221 ～ 236 は底部。221 ～ 225 は凸レンズ状を呈するもの。221・222・225 はやや厚みがある。221 は底部が小さいため、丸底に近い。226 ～ 231 は平底で、229 ～ 231 は底部の器壁がやや厚い。232 ～ 234 は底端部の内側が窪むもの。235・236 は上底で、236 の底部の器壁は非常に厚い。

237・238 は鋤先口縁部の高坏。237 は上面が外傾し、端部は尖り気味。238 は上面が水平な資料。

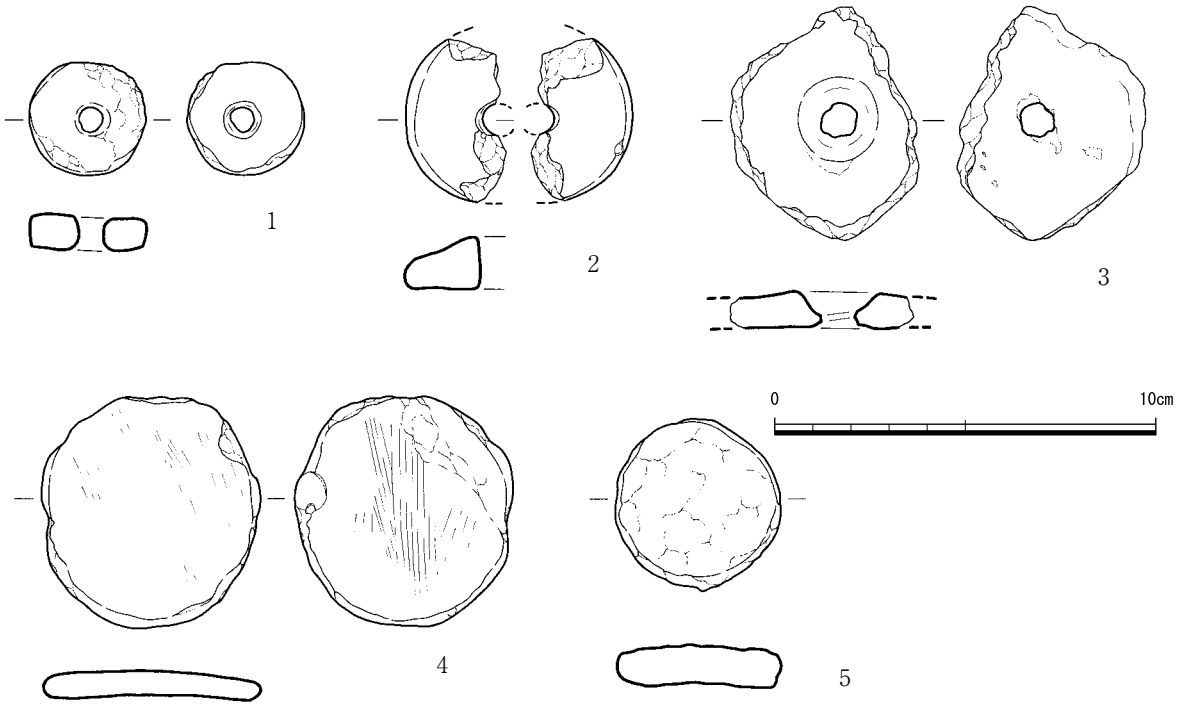
Ｐ１出土土器（239・240）

239 は弥生土器の鉢。口縁部はやや外傾する胴部の上端を外に摘み出し成形する。屈曲部はやや不明瞭で、端部は丸く仕上げる。240 は古式土師器の小型丸底坩。口縁端部と底部を欠くが、口径は明らかに体部径よりも大きい。口縁部は内湾しながら広がる。

（２）　土製品（図版 32 －(2)、第 48 図、表８）

１・３～５は１号溝、２は２号溝から出土した。

１は小形の紡錘車の完形品。円盤形を呈し、孔径 0.6 ㎝。外面の調整はナデ。２も紡錘車で、1/2 以上を欠損するが、截頭円錐形で孔径は 0.8 ㎝程度。外面はナデ調整。３は周縁部を欠損する紡錘車



第 48 図　土製品実測図（1/2）

表７　４次調査出土土器観察表

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	① 18.8 突帯部径 16.4	口縁部 ほぼ完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
2	第37図 図版26	壺	1号溝 下層	③ 9.6 ④（27.8）	全体の 1/3	調整は外面ナデ・工具痕ナデ、内面工具痕ナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色～黒色、内面淡灰褐色～黒褐色。	
3	第37図 図版26	壺	1号溝 下層	①（18.2） 突帯部径（15.6）	口縁部 ～頸部 1/3	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙色～赤橙色、内面橙色。	
4	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（17.2） 突帯部径（16.0）	口縁部 ～頸部 3/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙白色～淡橙褐色、内面淡橙白色～淡灰色。	
5	第37図 図版26	壺	1号溝 下層	①（31.6）	口縁部 1/5	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を多く、雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	丹塗り
6	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（21.2） 突帯部径（15.8）	口縁部 2/3	調整は不明。 胎土は粗砂粒・微細な雲母を少量を含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙褐白色。	丹塗り
7	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（25.0）	口縁部 1/3	調整は外面ナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～灰褐色、内面褐色。	丹塗り
8	第37図 図版26	壺	1号溝 上層	①（30.0）	口縁部 1/4	調整は不明。 胎土は砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐橙色、内面淡褐色。	
9	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（33.6）	口縁部 ～頸部 3/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡橙褐色。	
10	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（33.6）	口縁部 1/4	調整は内外面ともヨコナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
11	第37図 図版26	壺	1号溝 中層	①（25.4）	口縁部 1/5	調整は外面ナデ？、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～明茶灰色、内面橙褐色～茶灰色。	
12	第37図 図版26	瓢形 土器	1号溝 中層	突帯部径 24.0	胴部 2/3	調整は外面ヨコナデ？、内面ヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐灰白色、内面黒灰色。	
13	第37図 図版26	瓢形 土器	1号溝 中層	突帯部径（25.9）	胴部 1/5	調整は外面不明、内面ナデ？・指頭痕。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量を含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡褐色。	
14	第37図	瓢形 土器	1号溝 中層		胴部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面ともに淡橙色、内面淡褐色。	丹塗り
15	第37図 図版26	瓢形 土器？	1号溝 最下層	③ 10.2	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ？・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐灰白色～灰色、内面黒灰色。	
16	第38図 図版26	壺	1号溝 上層	①（12.8）② 12.6 ③（6.6）	口縁部 ～底部 1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色～暗灰色、内面黄灰色～赤褐色。	
17	第38図 図版26	壺	1号溝 中層	①（11.2）③ 5.8 ④ 11.0	口縁部 ～底部完存	調整は外面板ナデ・ハケ目、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡白茶色、内面灰茶色。	
18	第38図 図版26	壺	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶灰褐色。	
19	第38図	壺	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙灰色～橙灰色、内面橙灰色。	
20	第38図	壺	1号溝 上層	①（36.1）	口縁部 1/8	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
21	第38図	壺	1号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
22	第38図	壺	1号溝 下層	—	口縁部 1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を少量、微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡橙褐色～淡褐灰色。	
23	第38図	壺	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
24	第38図	壺	1号溝 中層	—	口縁部 1/5	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色、内面淡褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
25	第38図	壺	1号溝 最下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
26	第38図	壺	1号溝 下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐橙色。	
27	第38図 図版26	壺	1号溝 中層		頸部径（27.1）	頸部1/3	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡橙褐色、内面淡褐色。	
28	第38図 図版26	壺	1号溝 中層		—	頸部～ 胴部1/4	調整は外面ヨコナデ・ナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐灰色～灰色、内面暗灰色～黒灰色～黒褐色。	
29	第38図	壺	1号溝		突帯部径（32.1）	胴部1/4	調整は外面ヘラミガキ？・ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶灰褐色。	
30	第38図 図版27	壺	1号溝 中層		③7.7	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ・板ナデ。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
31	第38図 図版27	壺	1号溝 中層		③（10.2）	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰色、内面淡灰色。	
32	第38図 図版27	壺	1号溝 下層		③6.6	底部完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
33	第38図 図版27	壺	1号溝 中層		③（9.4）	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面指頭痕。 胎土は砂粒やや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面灰褐色～橙褐色。	
34	第38図	壺	1号溝 上層		③（9.2）	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
35	第38図	壺	1号溝 中層		③（6.5）	底部3/4	調整は外面ハケ目・ナデ？、内面ナデ？・指頭痕。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面淡褐色～淡暗褐色。	
36	第38図 図版27	壺	1号溝 中層		③（9.0）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒･雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面褐色。	
37	第38図 図版27	蓋	1号溝 中層		①（17.9）	口縁部1/5	調整は外面ミガキ、内面ナデ？・ヨコナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面淡褐色。	丹塗り 穿孔あり
38	第39図 図版27	甕	1号溝 最下層		①（23.3）②29.7③9.2 ④23.7	全体の1/2	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡暗褐色。	
39	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		①（30.7）	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目。 胎土は粗砂粒・細砂粒をやや多く、微細な雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色～暗褐色、内面淡褐色。	
40	第39図 図版27	甕	1号溝 下層		①（29.0）	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母・角閃石をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
41	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		①（30.0）	口縁部1/4	調整は不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
42	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		①（29.8）	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面暗褐色～橙褐色、内面褐色。	
43	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/8	調整は外面ナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・微細な金雲母を多く、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面淡橙褐色。	
44	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ？。 胎土は粗砂粒・赤色粒・微細な金雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙褐色。	
45	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/8	調整は外面ナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～淡橙褐色。	
46	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/6	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く、赤色粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面淡褐色～淡橙褐色。	
47	第39図 図版27	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目？、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗褐色、内面淡褐色～淡橙褐色。	
48	第39図 図版27	甕	1号溝 下層		—	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
49	第39図	甕	1号溝 中層		—	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm) ①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
50	第 39 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡橙褐色。	
51	第 39 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗灰褐色。	
52	第 39 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色～暗褐色。	
53	第 39 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡橙色。	
54	第 39 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ？、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面褐色。	
55	第 39 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
56	第 39 図 図版 27	甕	1 号溝 下層	—	口縁部 1/6	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐灰色。	
57	第 39 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
58	第 39 図	甕	1 号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶色、内面明灰褐色。	
59	第 39 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐白色。	
60	第 39 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
61	第 39 図	甕	1 号溝 最下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
62	第 39 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナデ？・ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに橙色～褐色。	
63	第 39 図 図版 28	甕	1 号溝 上層	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面褐色。	
64	第 39 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
65	第 40 図 図版 28	甕	1 号溝 上層	—	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナデ・ナデ？、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙灰色、内面淡橙色。	
66	第 40 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
67	第 40 図 図版 28	甕	1 号溝 下層	①（37.0） 突帯部径（34.1）	口縁部 1/5	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
68	第 40 図 図版 28	甕	1 号溝 中層	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～淡暗褐色、内面淡橙褐色。	
69	第 40 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡橙色。	
70	第 40 図	甕	1 号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～淡橙褐色。	
71	第 40 図 図版 28	甕	1 号溝 中層	①（31.0）	口縁部 1/4	調整は外面刻み目・暗文・ミガキ・ヨコナデ、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～赤褐色、内面褐色。	丹塗り
72	第 40 図 図版 28	甕	1 号溝 中層	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙色～淡橙白色、内面暗灰色。	
73	第 40 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ？、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐灰色、内面淡褐色。	
74	第 40 図	甕	1 号溝 下層	—	口縁部 1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～暗橙褐色、内面黒灰色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
75	第40図	甕	1号溝 中層	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙灰褐色～淡灰褐色、内面淡橙褐色～淡赤橙色。	
76	第40図	甕	1号溝 下層	—	口縁部1/5	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明茶灰褐色～茶灰褐色、内面明茶灰褐色～茶橙褐色。	
77	第40図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
78	第40図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡橙褐色。	丹塗り
79	第40図	甕	1号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色。	
80	第40図	甕	1号溝 下層	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色～淡灰褐色。	
81	第40図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ？、内面不明。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
82	第40図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒・角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色、内面淡褐色。	
83	第40図	甕	1号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。 色調は外面茶灰褐色、内面明茶褐色。	
84	第40図	甕	1号溝 最下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は粗砂粒・砂粒・赤色粒を少量、微細な雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡灰褐色。	
85	第40図	甕	1号溝 最下層	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒をやや多く、砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
86	第40図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
87	第40図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
88	第40図	甕	1号溝 中層	—	口縁部1/6	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粒を多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡黄橙色。	
89	第40図 図版28	甕	1号溝 上層	—	口縁部1/5	調整は外面ナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を多く、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶灰褐色～茶色、内面淡茶色。	
90	第40図 図版28	甕	1号溝 中層	—	口縁部1/5	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面はヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡暗褐色。	
91	第40図 図版28	甕	1号溝 上層	①（29.8）	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰色～褐色、内面灰色。	
92	第40図 図版28	甕	1号溝 中層	①（33.8）	口縁部1/4	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
93	第40図 図版28	甕	1号溝 中層	①（27.0）	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
94	第40図	甕	1号溝 中層	①（29.8）	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡暗橙色、内面淡灰褐色。	
95	第40図 図版28	甕	1号溝 上層	—	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙茶色、内面淡灰茶色。	
96	第40図	甕	1号溝 上層	—	口縁部1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡橙褐色。	
97	第41図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
98	第41図	甕	1号溝 最下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
99	第41図 図版28	甕	1号溝 下層	—	口縁部1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面淡褐色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
100	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗灰褐色～淡橙褐色、内面淡橙褐白色～淡橙褐色。	
101	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～明灰茶色、内面灰茶色。	
102	第 41 図	甕	1 号溝 下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒をやや多く、雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面橙色～橙褐色、内面橙褐色。	
103	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面淡橙褐色。	
104	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面淡橙褐色～橙褐色。	
105	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/5	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙色、内面淡橙褐色。	
106	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粗砂粒・赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面淡橙褐色。	
107	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡橙褐色、内面淡灰褐色。	
108	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黒橙色、内面黒褐灰色。	
109	第 41 図	甕	1 号溝 下層		—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面淡橙色～淡灰色。	
110	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部 1/8	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡橙褐色。	
111	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面茶灰褐色。	
112	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
113	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明灰茶色。	
114	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
115	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰茶色～茶色、内面茶色。	
116	第 41 図	甕	1 号溝 下層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙灰色。	
117	第 41 図	甕	1 号溝 最下層		—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
118	第 41 図	甕	1 号溝 中層		—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色。	
119	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 中層		①（36.4） 突帯部径（34.5）	口縁部 1/4	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙褐色、内面淡橙褐色～淡褐色。	
120	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 下層		—	口縁部 1/6	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
121	第 41 図 図版 28	甕	1 号溝 中層		①（42.4） 突帯部径（34.5）	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色～淡褐色～淡灰褐色、内面淡褐色。	
122	第 41 図 図版 29	甕	1 号溝 下層		①（28.0）	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰褐色～橙褐色、内面褐色。	
123	第 41 図	甕	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡橙色。	
124	第 42 図 図版 29	甕	1 号溝 中層		—	口縁部 1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡橙色、内面淡暗褐色～淡橙色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm) ①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
125	第42図 図版29	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明茶灰褐色～灰色、内面茶灰褐色。	
126	第42図	甕	1号溝 中層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色～淡橙褐白色、内面淡橙褐色。	
127	第42図	甕	1号溝 中層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに暗橙褐色。	
128	第42図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ？。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙灰色～橙褐色、内面淡橙褐色。	
129	第42図	甕	1号溝 中層	—	胴部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面浅黄灰色～灰色、内面浅黄灰色。	
130	第42図	底部	1号溝 下層	③（7.4）	底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～橙褐色、内面灰褐色。	
131	第42図	底部	1号溝 中層	③（5.1）	底部3/4	調整は不明。 胎土は粗砂粒を多く、赤色粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
132	第42図	底部	1号溝 中層	③（4.2）	底部 ほぼ完存	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面白灰褐色、内面淡茶灰褐色。	
133	第42図	底部	1号溝 中層	③（9.0）	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～暗褐色、内面淡灰褐色。	
134	第42図 図版29	底部	1号溝 下層	③10.8	底部完存	調整は外面ハケ目・工具痕、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色、内面淡明灰褐色。	
135	第42図	底部	1号溝 上層	③（8.0）	底部1/5	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡白褐色～黒色、内面淡白褐色。	
136	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③（8.0）	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗褐色～淡橙褐色、内面淡褐白色～淡褐色。	
137	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③（7.0）	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面板ナデ・ナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙茶褐色、内面灰黒褐色。	
138	第42図 図版29	底部	1号溝 上層	③6.1	底部 ほぼ完存	調整は外面不明、内面指頭痕。 胎土は砂粒・赤色粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄灰色～橙褐色、内面黄灰褐色。	
139	第42図 図版29	底部	1号溝 上層	③（9.0）	底部1/3	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～黒褐色、内面淡黒灰色～灰茶色。	
140	第42図	底部	1号溝 中層	③（8.2）	底部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色～褐灰色、内面灰褐色～淡橙褐色。	
141	第42図	底部	1号溝 下層	③（8.8）	底部1/5	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黒褐色。	
142	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③（8.0）	底部3/4	調整は外面ハケ目、内面指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
143	第42図 図版29	底部	1号溝 下層	③（9.0）	底部1/2	調整は外面ハケ目後ナデ？、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
144	第42図	底部	1号溝 中層	③（7.8）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は粗砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
145	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③8.2	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面淡茶灰褐色。	
146	第42図	底部	1号溝 下層	③（10.6）	底部1/4	調整は外面ナデ？、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡橙色、内面淡褐色。	
147	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③5.9	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ？。 胎土は細砂粒を少量、赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐灰白色、内面淡橙褐色。	
148	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③（8.4）	底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面茶灰褐色、内面灰褐色。	
149	第42図 図版29	底部	1号溝 中層	③（7.4）	底部3/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒・赤色粒を少量、微細な金雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面茶橙褐色、内面明淡茶褐色。	丹塗り

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
150	第43図 図版29	底部	1号溝 中層	③9.6	底部 ほぼ完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は粗砂粒を多く、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～黄灰色、内面灰色～橙褐色。	
151	第43図 図版29	底部	1号溝 中層	③（9.0）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面指頭痕。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面茶灰褐色、内面淡茶色～暗茶色。	
152	第43図 図版29	底部	1号溝 下層	③（11.0）	底部1/2	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
153	第43図 図版29	底部	1号溝 上層	③（9.2）	底部1/3	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶色～茶色、内面白茶色。	
154	第43図	底部	1号溝 最下層	③（8.8）	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡橙褐色、内面淡褐色。	
155	第43図 図版30	底部	1号溝 上層	③8.4	底部完存	調整は内外面ともにナデ？。 胎土は砂粒を多く、角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色～橙褐色～褐色、内面黄灰色。	
156	第43図 図版30	底部	1号溝 下層	③（6.4）	底部1/2	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡白褐色、内面淡白褐灰色。	丹塗り？
157	第43図	底部	1号溝 中層	③5.9	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
158	第43図 図版30	底部	1号溝 中層	③（9.6）	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は細砂粒･微細な雲母を多く､赤色粒を少量含む｡焼成は不良。 色調は外面橙褐色、内面赤褐色。	
159	第43図	底部	1号溝 上層	③（7.1）	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～黒灰色、内面暗灰色。	
160	第43図	底部	1号溝 下層	③（8.4）	底部1/4	調整は外面板ナデ・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙暗灰色。	
161	第43図	底部	1号溝 中層	③（7.6）	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙灰色、内面暗灰褐色。	
162	第43図 図版30	底部	1号溝 中層	③（7.0）	底部3/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・角閃石を含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰褐色、内面茶灰褐色。	
163	第43図	底部	1号溝 中層	③（6.8）	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
164	第43図	底部	1号溝 中層	③（6.6）	底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面暗灰色～褐色。	
165	第43図	底部	1号溝 下層	③（7.9）	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙褐色～橙色、内面暗灰色～黒褐色。	
166	第43図 図版30	底部	1号溝 下層	③（7.6）	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐灰色、内面黒灰色。	
167	第43図	底部	1号溝 中層	③（7.5）	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡橙褐灰色～淡橙色、内面淡褐灰色。	
168	第43図	底部	1号溝 下層	③（7.6）	底部1/3	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡橙褐色、内面淡灰褐色。	
169	第43図	底部	1号溝 上層	③（6.6）	底部1/2	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～淡橙褐色～淡橙色、内面淡橙褐色。	
170	第43図 図版30	蓋	1号溝 上層	ツマミ部径（6.15）	ツマミ部 3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ・工具痕。 胎土は細砂粒・金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶橙色。	
171	第43図 図版30	蓋	1号溝 下層	ツマミ部径5.0	ツマミ部 完存	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
172	第44図 図版30	鉢	1号溝 下層	①（12.0）②14.5 ③（8.0）④（14.4）	全体の1/2	調整は外面ハケ目後ナデ、内面ナデ・指頭痕・工具痕？。 胎土は粗砂粒をやや多く、微細な雲母・赤色粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
173	第44図 図版30	鉢	1号溝 中層	①（17.8）②5.85	全体の1/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
174	第44図	高坏	1号溝 下層	—	口縁部1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面橙色、内面淡橙白色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
175	第 44 図	高坏	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡白褐色。	丹塗り
176	第 44 図	高坏	1 号溝 上層		①（25.4）	口縁部 1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は微細な金雲母を少量、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶橙色。	
177	第 44 図 図版 30	高坏	1 号溝 中層		①（24.0）	口縁部 1/8	調整は外面ミガキ、内面不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	丹塗り
178	第 44 図	高坏	1 号溝 上層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
179	第 44 図	高坏	1 号溝 中層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡橙褐色～淡橙灰褐色、内面淡橙褐色。	
180	第 44 図	高坏	1 号溝 中層		—	口縁部 1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
181	第 44 図 図版 30	高坏	1 号溝 中層		⑤（16.8）	脚部 1/4	調整は外面不明、内面シボリ痕・指頭痕。 胎土は粗砂粒を多く、微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡橙色、内面淡橙色～淡灰褐色。	
182	第 44 図	高坏	1 号溝 下層		—	坏部 3/4	調整は外面不明、内面ナデ・工具痕？。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
183	第 44 図 図版 30	高坏	1 号溝 中層		—	脚部 1/2	調整は外面ミガキ・ナデ？、内面シボリ痕。 胎土は細砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白灰色～黄灰褐色。	丹塗り
184	第 44 図 図版 30	高坏	1 号溝 上層		—	全体の 1/2	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
185	第 44 図	高坏	1 号溝 上層		—	全体の 1/2	調整は外面不明、内面ナデ・シボリ痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色。	
186	第 44 図 図版 30	器台	1 号溝 下層		① 12.1 ② 18.0 ⑤ 14.1	全体の 3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～橙色、内面灰褐色。	
187	第 44 図 図版 30	器台	1 号溝 下層		⑤（11.6）	脚部 1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙褐色。	
188	第 44 図 図版 30	器台	1 号溝 下層		⑤（9.4）	全体の 1/3	調整は外面ハケ目後ナデ？、内面ハケ目・ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡橙褐色。	
189	第 44 図 図版 30	器台	1 号溝 中層		② 10.6 ⑤ 9.4 受部径 7.1	完形	調整は外面ナデ、内面ナデ・シボリ痕。 胎土は粗砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡暗褐色。	
190	第 44 図 図版 31	器台	1 号溝 最下層		⑤ 10.6	全体の 1/3	調整は外面不明、内面シボリ痕。 胎土は粗砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡灰褐色～淡橙色、内面淡橙色。	
191	第 44 図 図版 31	器台	1 号溝 最下層		① 6.6 ② 13.4 ⑤ 8.1	完形	調整は内外面ともにナデ・指頭痕。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
192	第 44 図	手捏	1 号溝 中層		③（3.8）	底部 1/3	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
193	第 45 図 図版 31	陶質土器 器台	1 号溝 上層		—	坏部片	調整は外面ヨコナデ・刺突文、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐灰色、内面灰色。	
194	第 45 図 図版 31	甕	2 号溝		①（12.2）	口縁部 1/4	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ？。 胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色～黒褐色、内面灰褐色。	スス付着
195	第 45 図	甕	2 号溝		—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面橙褐色。	
196	第 45 図 図版 31	鉢	2 号溝		—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰褐色～暗灰色、内面黒灰色。	
197	第 45 図	甑	2 号溝		—	底部片	調整は外面ケズリ、内面はハケ目、底部ヨコナデ。 胎土は砂粒やや多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色～褐色、内面黄褐色。	
198	第 45 図 図版 31	器台	2 号溝		—	くびれ部 1/4	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙色、内面淡橙色。	
199	第 45 図 図版 31	壺	2 号溝		①（11.0） 受部径（12.2）	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ・波状文、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色～灰色、内面暗灰色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)　①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
200	第 45 図 図版 31	坏蓋	2 号溝 最下層	①（13.8）②4.8	全体の 1/4	調整は外面回転ヘラケズリ・ヨコナデ、内面当具痕。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐灰色～暗灰色、内面灰色。	
201	第 45 図 図版 31	坏身	2 号溝	①（15.0）②5.2 ③5.0	全体の 1/3	調整は外面回転ヘラケズリ・ヨコナデ、内面ヨコナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰色。	
202	第 45 図	甕	2 号溝	—	胴部片	調整は外面タタキ目、内面当具痕。 胎土は粗砂粒をやや多く、赤色粒･雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～黒褐色、内面褐色。	スス付着？
203	第 46 図 図版 31	壺	2 号溝	①（24.0）	口縁部 1/6	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡黄色。	
204	第 46 図 図版 31	壺	2 号溝	①（24.1）	口縁部 1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・ケズリ？。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡黄色。	
205	第 46 図	壺	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面刻み目、内面不明。 胎土は砂粒を少量、微細な白雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙赤色。	丹塗り
206	第 46 図	壺	2 号溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
207	第 46 図	壺	2 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～淡赤色。	丹塗り
208	第 46 図 図版 31	壺	2 号溝	—	底部 1/4	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶灰褐色。	
209	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整はヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに橙黄色。	
210	第 46 図	壺	2 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡白橙色。	
211	第 46 図	甕	2 号溝	①（30.0）	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄灰褐色、内面褐色。	
212	第 46 図 図版 31	甕	2 号溝	—	口縁部 1/8	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量、細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面橙茶色、内面暗茶灰褐色。	
213	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに橙色～淡橙黄色。	
214	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ナデ後ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色～暗褐色、内面黄灰色。	
215	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄灰色。	
216	第 46 図 図版 31	甕	2 号溝	①（31.3）	口縁部 1/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は細砂粒を少量、赤色粒・微細な雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面橙褐色～黄灰色、内面褐色。	
217	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄灰色。	
218	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色～灰褐色。	
219	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄橙色。	
220	第 46 図	甕	2 号溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙色～暗黄灰色。	
221	第 46 図 図版 31	底部	2 号溝	③（4.4）	底部 3/4	調整は外面ナデ、内面ハケ目・ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡赤橙色～黒色、内面暗黄灰色。	
222	第 46 図 図版 31	底部	2 号溝	③（8.0）	底部 1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗茶灰色、内面黄色。	
223	第 46 図 図版 31	底部	2 号溝	③（11.2）	底部 1/4	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面灰褐色～橙褐色。	
224	第 46 図 図版 31	底部	2 号溝	③10.0	底部完存	調整は不明。 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面暗黄色～灰黒色、内面黄灰色。	

（　　）は復元値

番号	挿図 図版	種別	出土 位置	法量 (cm) ①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚裾部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
225	第46図 図版32	底部	2号溝	③（8.2）	底部1/2	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄色～黄橙色、内面黄灰色。	
226	第46図	底部	2号溝	③（6.8）	底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面橙褐色、内面灰褐色。	
227	第46図	底部	2号溝	③（8.8）	底部1/4	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡橙黄色。	
228	第46図	底部	2号溝	③（10.0）	底部1/5	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面灰黄色、内面橙黄色。	
229	第46図 図版32	底部	2号溝	③（8.6）	底部1/3	調整は不明。 胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄色～灰黒色。	
230	第46図 図版32	底部	2号溝	③（8.1）	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明橙褐色、内面暗橙褐色。	
231	第46図	底部	2号溝	③（8.2）	底部1/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～黄橙色。	
232	第46図	底部	2号溝	③（9.4）	底部1/4	調整は外面ナデ・指頭痕、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡橙色～黄橙色。	
233	第46図	底部	2号溝	③（8.0）	底部1/4	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰褐色、内面黄灰色。	
234	第46図	底部	2号溝	③（7.6）	底部3/4	調整は内外面ともにナデ？ 胎土は粗砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面橙色、内面黄橙色。	
235	第46図	底部	2号溝	③（6.4）	底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ？・指頭痕。 胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面赤橙色～黒灰色、内面暗茶褐色～茶黒色	
236	第46図 図版32	底部	2号溝	③5.9	底部完存	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡橙灰褐色。	
237	第46図	高坏	2号溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ？。 胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
238	第46図	高坏	2号溝	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ・ナデ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
239	第47図 図版32	鉢	P1	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ・ハケ目。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
240	第47図 図版32	小型 丸底坩	P1	—	胴部1/8	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒･細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙色～黄灰色。	

表８　４次調査出土土製品観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値（cm，g）				残存状態	色調	調整及び特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重量				
1	第48図 図版32	紡錘車	1号溝	3.0	3.1	1.0	9.8	完形	黄灰色	調整は両面ナデ。 胎土は0.5㎜以下の白色砂粒子をやや多く含む。焼成は良好。	
2	第48図 図版32	紡錘車	2号溝	4.3	2.4	0.8～1.4	14.4	欠損	黒灰色	胎土は1.5㎜以下の白色砂粒子をやや含む。白雲母をわずかに含む。焼成は良好。	
3	第48図 図版32	紡錘車	1号溝	6.2	5.0	0.95	24.3	欠損	黄色～黄灰色	調整は表はナデ、裏は不明。 胎土は2.0㎜以下の白色砂粒子をやや含む。焼成はやや良好。	
4	第48図 図版32	土製円盤	1号溝	6.1	5.8	0.7	30.2	完形	黄灰色	調整はハケによるナデ。 胎土は1.0㎜以下の白色砂粒子をやや含む。焼成は良好。	
5	第48図 図版32	土製円盤	1号溝	4.5	4.4	1.05	24.1	完形	黄橙色	調整は不明。 胎土は3.0㎜以下の白色砂粒子を多く含む。焼成は不良。	

と考えた。孔は歪で表面が広い。表面にはナデを施すが、裏面は磨滅のため不明。

４・５は土製円盤。４は日常土器の破片を円盤状に打ち欠き成形しており、器面の湾曲から表面が本来の土器の外面側と分かる。表・裏面ともにハケ目調整が残る。５は、４よりも小形品であるが、厚みがあるもの。器面の湾曲から表面が本来の土器の外面であるが、磨滅のため調整は不明。

（３） 青銅器生産関連遺物

① 鋳型類（図版 33 －(1)、第 49 図、表９）

１号溝から出土した鋳型と鋳型の可能性が考えられるもの５点を報告する。

１は銅矛の耳部周辺の鋳型小片で、石材は滑石系の石。湯口からハバキ、節帯が確認でき、湯口の周辺は黒変する。耳は菱環で、節帯の途中から付く。下面には合印を刻む。

２・３は石英長石斑岩製の鋳型。２は銅矛の袋部と武器形の鋒が残存する鋳型。横断面形の形状から考えると鋒側が先に刻まれたと考えられるが、今回は銅矛袋部側を水平にして図化した。袋部の周辺には耳、節帯やハバキが確認できないことから小銅鐸鋳型の可能性も考えたが、鋒部鋳型から想定される鋳型の中心から反転すると小銅鐸にしては幅が狭いため、節帯、ハバキを欠損する袋部の下端部鋳型とした。武器形の鋒部は、反対側の銅矛袋部と向きを違えて刻まれる。型と合わせ面の一部が黒変するため、実際に鋳造したことが分かる。なお、合わせ面を水平にすると 、鋳型の掘り込みの中心付近とほぼ同じレベルになる。現状観察では、合わせ面が砥石などに二次利用され削られたとは考え難い。武器形の鋳型の中心部（鎬）付近で、合わせ面のレベルと近い部位は鎬の外側にある樋部が考えられる。ただし、通常の矛･剣･戈の樋は鋒の直下にないため、多樋式銅剣のような特殊な製品の鋳型の可能性がある。または鋳造技術の問題になるが、対になる鋳型を合わせた際に多少の隙間があったとしても鋳造には問題がないのか、真土などを合わせ面に塗って高さを調整することもあるのであろうか。合わせ面の黒変は楕円形を呈するが、その内側は黒変しない。この内側に真土が塗られていたのかもしれない。

３は両面に銅剣の型が刻まれる。表面は上から 1.7㎝ に、製品にすると突起状になる部分が彫り込まれる。ここから上部が刳り方、下部が元部と考えた。復元すれば刳り方下端部の幅は５㎝弱であろう。型とその周囲が黒変する。裏面は剣身の上部と考えられる。彫り込みの幅は、実測図の下部よりも上部が広いため、上部が茎側、下部が鋒側であろう。このため表裏は互い違いの方向に彫り込まれる。横断面形は刃部から脊部に向かい浅くなるため、製品は内傾斜樋を持つ銅剣である。型とその周囲が黒変し、光沢をもつ。このため、鋳造前にカーボンなどを塗布した可能性がある。

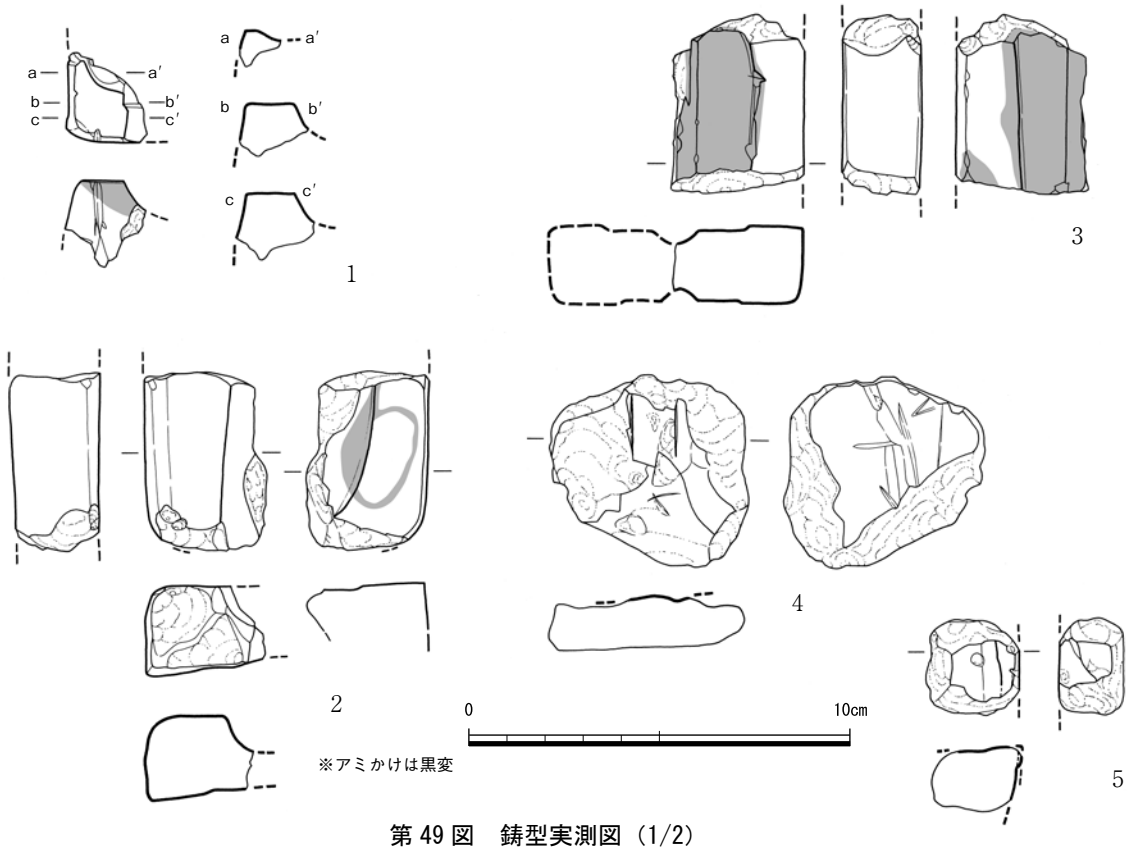
４は石英長石斑岩の破片資料。裏面は、平滑で金属器による溝状の掘り込みが見られるため、砥石として利用される。一方、上面は平行する２つの直線的な彫り込みがあり、その間は突出する。また、周囲は剥落するため本来の形状を残さないが、上述した２つの彫り込みの外側には、わずかではあるが旧状を保つ部分がある。黒変も見られず断定はできないが、以上のことから考えると、中広銅矛などの樋部ではなかろうか。そうすれば、右側が刃部、左側が脊部となろう。

５は土製鋳型の可能性がある小片の資料[1]。中型と同じ真土製で、側面には調整痕の上に塗り込めが認められる。裏面など欠損部が多いが、横断面の形状から武器形の刃部の可能性があり、欠損する左側には脊部が復元できる。

② **中型**（図版 33 －(2)、第 50 図、表９）

銅矛中型の 16 点と銅鋤先中型１点を報告するが、この他にも図化していない小片がある。胎土は、細かい砂粒を含む真土製で､雲母が認められる例がある。２号溝出土の 13 を除き､１号溝から出土した。

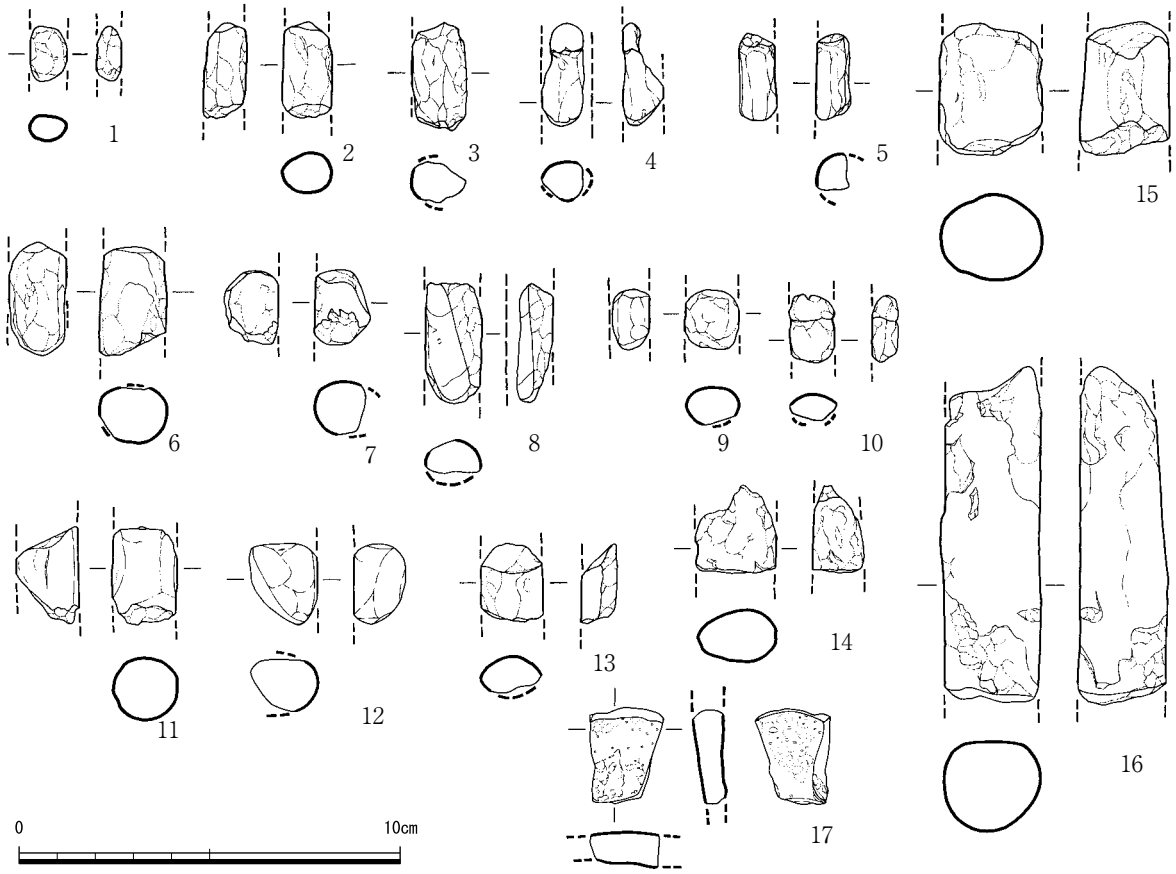
１～ 16 は銅矛中型。１・２などのように幅、厚みの小さい鋒側のものから 15・16 のように幅、厚みのある袋部までの資料がある。また、高温のため灰色系の色調を呈し、硬化や青銅などの付着物が認められる実際に使用された資料があり、製品から取り除かれた中型か鋳造時の失敗により廃棄された



第 49 図　鋳型実測図（1/2）

表９　４次調査出土鋳型観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量（cm）			材質	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	第 49 図 図版 33	銅矛鋳型	１号溝	2.35	2.15	2.3	滑石	細形、中細形か
2	第 49 図 図版 33	銅矛銅剣鋳型	１号溝	4.7	3.25	2.4	石英長石斑岩	袋部・鋒部分
3	第 49 図 図版 33	銅剣鋳型	１号溝	4.75	3.5	2.1	石英長石斑岩	中細か
4	第 49 図 図版 33	武器型鋳型	１号溝	5.1	5.3	1.5	石英長石斑岩	銅矛か銅戈か
5	第 49 図 図版 33	武器型鋳型	１号溝	2.55	2.5	1.7	真土製 細かい砂粒と雲母を含む。	



第 50 図　中型実測図（1/2）

表 10　４次調査出土中型観察表

（計測値の幅と厚さは断面図の位置の数値）

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値（cm，g）				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	1.45	1.0	0.7	0.9	灰黄色	無		
2	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.5	1.35	1.1	3.7	暗黄灰色	無		
3	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.8	1.4	1.2	4.4	黄褐色～黄灰色	無		
4	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.7	1.05	1.1	1.9	灰黄色	無		
5	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.3	0.9	0.95	2.1	黄灰色	無		
6	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.9	1.8	1.5	7.9	黄茶色	無		
7	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.0	1.5	1.45	3.5	黄灰色	無		
8	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	3.2	1.0	0.9	3.5	黄灰色	無		
9	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	1.6	1.4	1.0	1.9	黄灰色	無		
10	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	1.8	1.2	0.7	1.5	黄灰色	無		
11	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.6	1.75	1.65	5.4	淡黄灰色～灰色	無		
12	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.1	1.85	1.4	2.9	黒色	無	スス付着	
13	第 50 図 図版 33	銅矛	2 号溝	2.1	1.7	1.0	2.9	黄灰色	無		
14	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	2.35	2.15	1.4	6.3	暗灰茶色	無		
15	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	3.5	2.7	2.3	20.9	暗黄橙色～灰色	無		
16	第 50 図 図版 33	銅矛	1 号溝	8.9	2.6	2.4	61.4	黄褐色～灰黒色	無		
17	第 50 図 図版 33	銅鋤先	1 号溝	2.6	1.95	0.6	1.6	白灰色～黄灰色	有 緑色		

ものと考えられる。この他にも、途中で破損したために、鋳造前に廃棄された資料があり、16のように長いものが該当しよう。横断面形は丸いものと凸レンズ状のものがあり、前者は細形、中細形、後者は中広形、広形の銅矛中型である可能性がある。16は横断面形や長さから考えると中細形であろう。

17は、上下端部を欠くが、断面が楔形を呈するため、鋤先中型片と考えられる小片。高熱による気孔や付着物が付くため、鋳造の失敗を示す例と考えられる。

③　**坩堝／取瓶**（図版34、第51図、表11）

12点を図化したが、この他にも内面が剥落する資料や小片がある。坩堝／取瓶本体の胎土は、粗砂粒を含み、籾殻と思われるスサが観察できるものがある。内面や口縁部には、きめの細かい真土を貼り付けており、高熱のため内面を中心に暗灰色に変化する。また、青銅が付着するものもある。12が２号溝、その他は１号溝から出土した。なお、何れも大きい破片とは言えず、傾きには疑問が残るものがある。

１～４は口縁部の破片で、１・３・４は端部をやや尖り気味に仕上げるが、２は面を持つ可能性がある。３・４は、同一個体の可能性がある。５は注口部と考えられる小片。６～11は胴部の破片。傾きが強く、厚みのある８・11は底部に近い部分の可能性がある。12は脚台の可能性がある資料で、残存部から考えれば高台状の上底にはならない。

④　**鞴送風管**（図版25－(3)、35－(1)、第52図）

外径3.8～7.2㎝、内径3.0～4.9㎝で、弥生時代の送風管としては大ぶりの印象を受ける。残存長

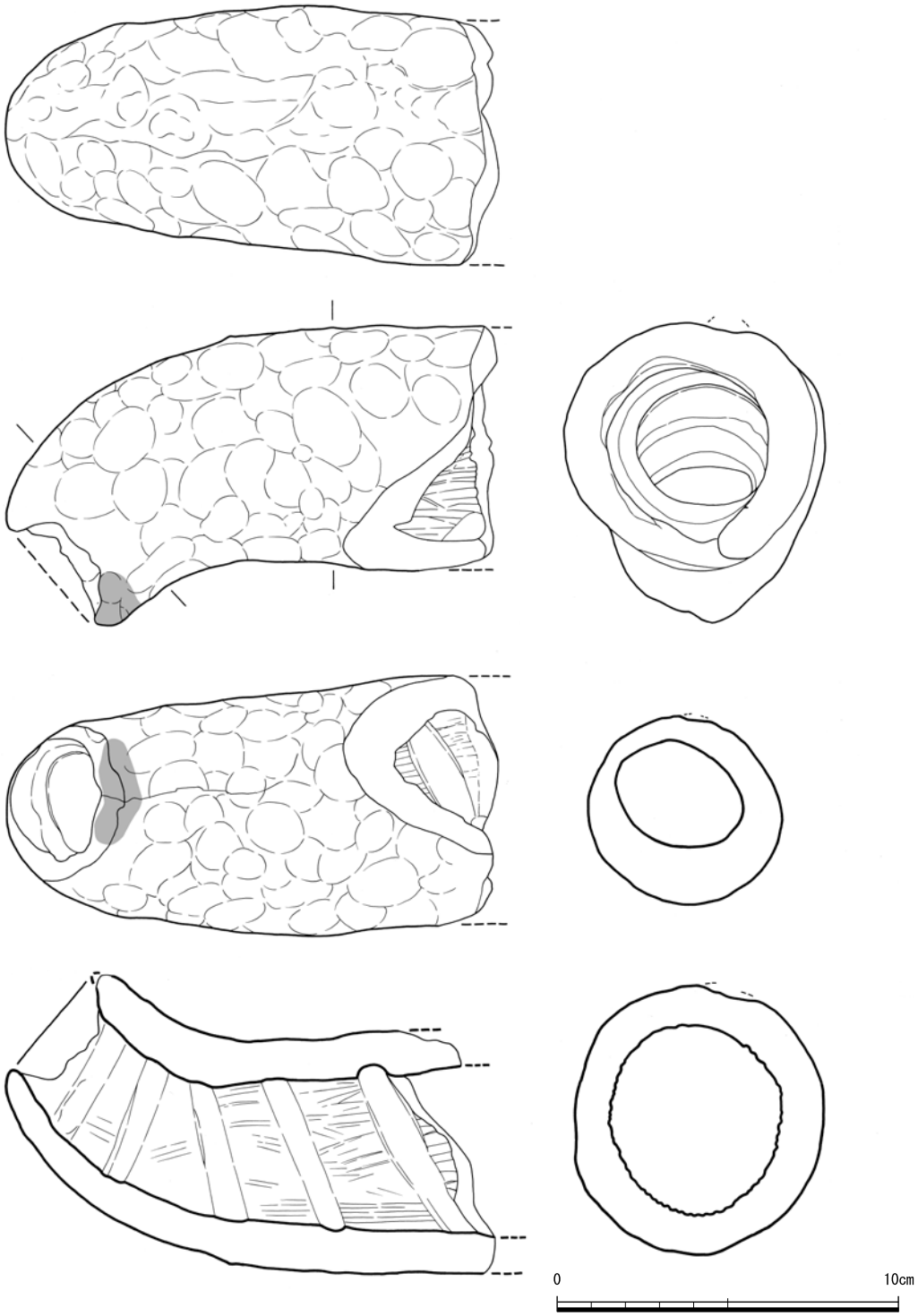
表11　４次調査出土坩堝／取瓶観察表

番号	挿図 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎　土	焼成	備考
			外　面	内　面			
1	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	白色砂粒を含む。	良	
2	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	砂粒を含む。雲母をごくわずかに含む。赤色粒子を含む。	良	
3	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。	良	
4	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。雲母を少量含む。	良	
5	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は赤橙色	調整は真土のため不明。色調は暗灰色。	砂粒を含む。	良	
6	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。	良	
7	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は黄灰色。	調整は真土のため不明。色調は橙色。	白色砂粒を含む。雲母を含む。	良	
8	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は淡橙褐色～橙褐色。	調整は真土のため不明。色調は淡橙褐色、淡茶色。	白砂粒を含む。雲母をごくわずかに含む。	良	
9	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は橙褐色。	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	砂粒含む。	良	
10	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は黄灰色。	調整は真土のため不明。色調は橙色。	白色砂粒を含む。雲母を含む。	良	
11	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は淡白灰色。	調整は一部真土で覆われているため調整不明。色調は淡黄色～橙色、淡白色。	砂粒を含む。 雲母を少量含む。	良	
12	第51図 図版34	2号溝	調整はナデ。色調は灰茶褐色。	欠損のため調整不明。色調は灰茶褐色。	砂粒を含む。 白砂粒を含む。	良	脚部片

第 51 図　坩堝／取瓶実測図（1/2）

は 14.4 cm、先端部をやや屈曲させ基部は欠損する。先端はやや欠損し、腹部側は被熱により赤変する。細かいヒビも被熱と関係あるのかもしれない。また、色調は、外面腹部側が橙褐色に対し、背面側は淡黄色～淡灰褐色のため、二次的な被熱による差とも考えられる。内面は暗灰褐色。

調整は、外面は指頭痕、内面は風化のため不明瞭な箇所もあるが、鞴送風管と平行する草木類の圧



第 52 図　鞴送風管実測図（1/2）

痕と、縄と考えられる螺旋状の圧痕がある。これらは、須玖岡本遺跡坂本地区４次調査で報告したように、ワラのような草木類を束ね、縄で螺旋状に縛ったものを芯として、粘土を巻き付けて成形した痕跡だと考えられる。なお、芯は乾燥後に除去したか、焼成時に燃えたのであろう。坂本地区などの先端部分は内径が細く、竹などを芯としたことが分かるが、当資料は、基部から先端まで、草木類を束ねた芯で製作している。１号溝からは､中期前半から後期の土器が出土するため断定はできないが、鋳型や中型などの鋳造関連遺物は古式で中期前半まで遡るものが多い。このことから考えれば、当資料の時期も中期前半で、後期の坂本地区の鞴送風管とは製作方法が異なるのかもしれない。

胎土は、粗砂粒や雲母を含み、スサと考えらえるモミ殻の圧痕も観察できる。

なお背面には、平面や横断面でも長い範囲に剥離したような痕跡が見受けられる。熊本市八ノ坪遺跡の中期前半の鞴送風管には、背部にタテガミ状の突帯が付けられる。この突帯は、アジア大陸などの鞴送風管でも確認できる。上述したように、当資料が中期前半まで遡るとするならば、剥離痕はタテガミ状の突帯の存在を示すのではなかろうか。

（４） 石器等（図版 35 －(2)・36、第 53 ～ 54 図、表 12）

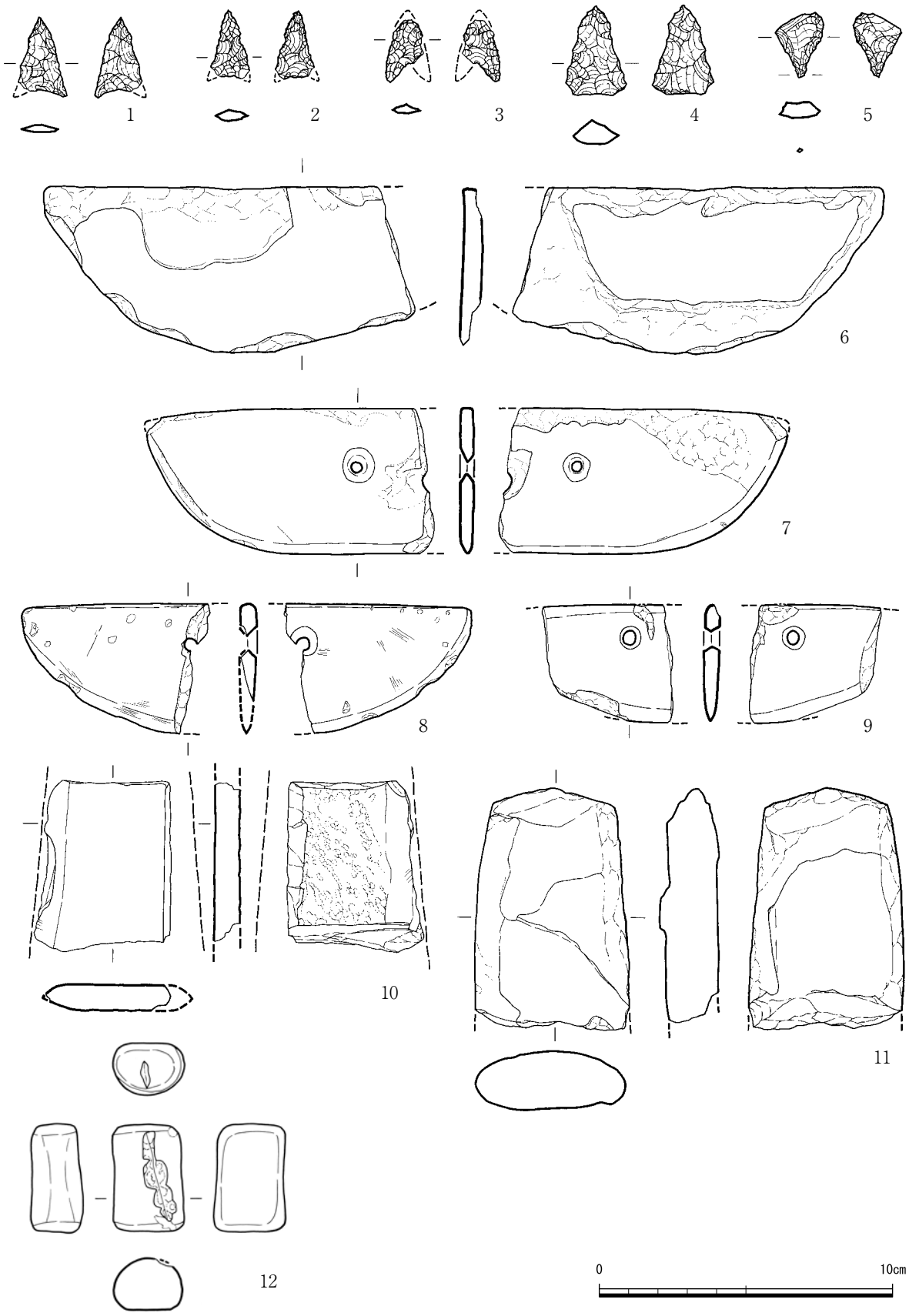
打製石器５点、磨製石器７点、砥石など８点を報告する。法量や出土地点については一覧表を参照していただきたい。

１～５は打製石器。１～４は石鏃。１・２は脚部の抉りが浅く、３はやや脚部が長い資料。４は形状が三角形を呈する資料で、脚部の抉りはない。やや厚みを持つため、小型の尖頭器とした方が良いかもしれない。５は赤褐色を呈するチャート製石錐の完形品。

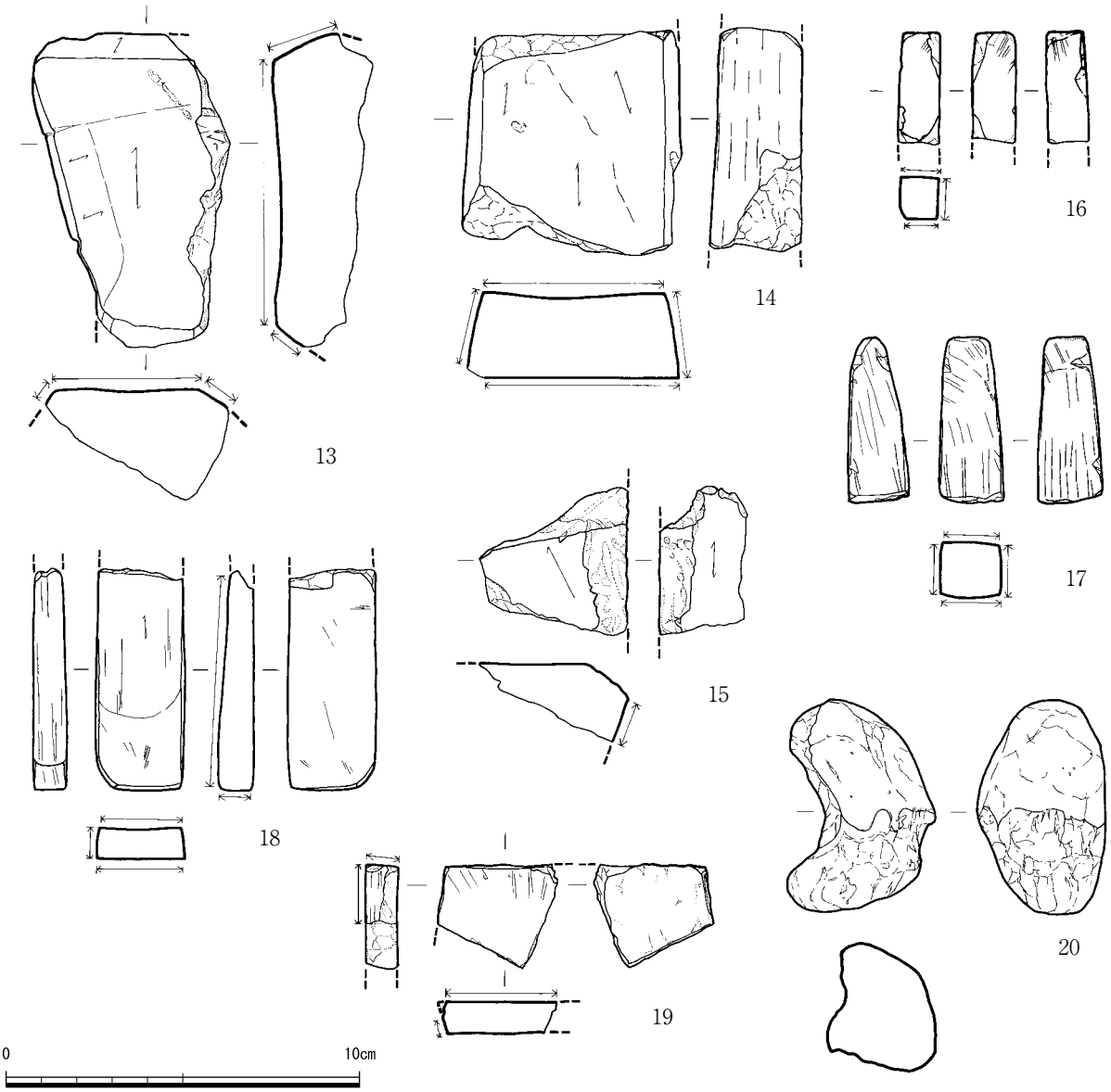
６～ 12 は磨製石器。６～９は石庖丁。６は未成品で、穿孔や刃部も作られていないため、成形段階で破損したために廃棄したものであろう。７はやや大ぶりの石庖丁で、刃部は直線的。２つの穿孔が確認でき、２つの穿孔の位置は背部と平行せず、１つが刃部と背部の中心、もう一方は背部よりにある。８・９は赤紫色の凝灰岩製の破片資料。両者とも１つの穿孔が確認できる。

10 は石剣の身部片と考えた。裏面は丁寧に研磨されず、粗加工の痕跡が残る。横断面で明らかなように、六角形に復元でき、表裏ともに中心に鎬はない。11 は石斧で、刃部を欠損する。12 は、横断面形が蒲鉾状を呈する円筒権。このため、表面は丸みを持ち、裏面は平である。表面には調査時の傷がある。上面には線刻があるが、滑石系の石材であることを考慮すれば、青銅器鋳型の転用品で、線刻は本来の鋳型の合印と考えられる。

13 ～ 17 は砥石。13 は表面と上面、下面を砥石として使用する。裏面は欠損するが、欠損後に一部使用、あるいは平滑にしようとしたためか研磨が認められる。14 は上下を欠く資料で、表面をよく使用するのに対し、両側面はあまり使われていない。15 は破片資料。表面と右側面の使用が確認できる。16 は四角柱の小型の砥石。表面、裏面、右側面、上面を使用し、左側面は未使用、下部は欠損か。17 は楔形を呈する小形の砥石。形態から小形の石斧などの可能性も考えたが、下面も使用す



第 53 図　石器等実測図①（1/2）



第 54 図　石器等実測図②（1/2）

るため砥石として報告する。

18 は幅 2.6 ㎝、厚さ 1.05 ㎝と薄く、砥石か板石硯[(2)]の可能性が考えられる資料。19 は下半部から右半部を欠く。表面、上面と左側面の一部が研磨されるが、裏面は未使用。厚さも 0.95 ㎝であり、板石硯と考えられる。なお、肉眼観察では表面に黒色の粒が付着しており、墨の可能性が考えられる。20 は軽石の石塊である。平面形は「C」字状をなすが、加工を施され成形されたわけではない。須玖岡本遺跡坂本地区など周辺の青銅器生産遺跡で出土することが多く、青銅器などの研磨剤などとして持ち込まれたのであろうか。

註

(1) 柳田康雄氏（國學院大學）に御教示いただいた。

(2) 板石硯については、久住猛雄氏（福岡市経済観光文化局）、柳田氏から御教示いただいた。

表 12　４次調査出土石器等観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値（cm，g）				石材	残存
				長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
1	第 53 図 図版 35	石鏃	1 号溝	2.8	1.7	0.3	1.3	安山岩	一部欠損
2	第 53 図 図版 35	石鏃	1 号溝	2.35	1.35	0.4	0.9	安山岩	一部欠損
3	第 53 図 図版 35	石鏃	1 号溝	2.15	1.3	0.4	0.7	黒曜石	2/3 程度
4	第 53 図 図版 35	石鏃	1 号溝	3.1	2.1	0.85	4.8	安山岩	完形
5	第 53 図 図版 35	石鏃	1 号溝	2.3	1.6	0.6	2.5	チャート	完形
6	第 53 図 図版 36	石包丁	2 号溝	5.4	12.8	0.7	77.4	凝灰岩	5/6 程度
7	第 53 図 図版 36	石包丁	1 号溝	5.0	9.8	0.5	48.0	凝灰岩	2/3 程度
8	第 53 図 図版 36	石包丁	1 号溝	4.5	6.4	0.55	23.7	凝灰岩	1/3 程度
9	第 53 図 図版 36	石包丁	1 号溝	4.1	4.2	0.55	17.9	凝灰岩	1/3 程度
10	第 53 図 図版 36	石剣	1 号溝	5.9	4.7	0.95	46.6	凝灰岩	破片
11	第 53 図 図版 36	石斧	1 号溝	8.3	5.3	2.0	156.9	玄武岩？	2/3 程度
12	第 53 図 図版 36	権	1 号溝	3.7	2.45	1.8	33.5	滑石	ほぼ完形
13	第 54 図 図版 36	砥石	1 号溝	9.0	5.65	3.2	148.5	砂岩	－
14	第 54 図 図版 36	砥石	1 号溝	6.4	6.2	2.5	178.9	砂岩	－
15	第 54 図 図版 36	砥石	1 号溝	4.25	4.25	2.6	37.7	砂岩	－
16	第 54 図 図版 36	砥石	2 号溝	3.2	1.25	1.25	8.5	石英長石斑岩	－
17	第 54 図 図版 36	砥石	1 号溝	4.8	1.85	1.6	21.5	泥岩	完形
18	第 54 図 図版 36	砥石	1 号溝	6.3	2.6	1.05	34.7	泥岩	－
19	第 54 図 図版 36	硯？	1 号溝	3.0	3.45	0.95	14.6	砂岩	破片
20	第 54 図 図版 36	軽石	1 号溝	6.1	4.2	3.4	21.1	軽石	完形

Ⅴ　まとめ

須玖坂本Ｂ遺跡は、奴国の首長層の墓地である須玖岡本遺跡岡本地区や奴国の官営工房とも称される青銅器生産遺跡、須玖岡本遺跡坂本地区と南に接し、北側には諸岡川を挟みガラス工房を確認した須玖五反田遺跡が所在する重要遺跡である。今回報告した須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査地は、小学校建設時の造成など後世の開発により削平を受けていたが、両調査区がほぼ接することから１号溝などの同一遺構を調査することができたことや、多くの青銅器生産関連遺物が出土するなど大きな成果を得ることができた。ここでは、１・４次調査で確認した特筆される遺構・遺物について述べるとともに今後の問題点なども記し、まとめに代えたい。

１　１・４次調査の１号溝について（第 55・56 図）

１号溝は、１・４次調査を合わせると、ほぼ東西方向に延びる約 46 ｍを検出した大溝である。幅は４～５ｍ程度､深さは､後出する土坑状の掘り込みを除くと最も残りの良い西側部で 50 ㎝程度だが、残りの悪い東側は数㎝と浅い。本来の地形は調査区南側から徐々に高さを減じると推定でき、調査区北のピット群は床面以下まで削平を受けた竪穴建物跡と推測できることや、南側に接する須玖岡本遺跡岡本地区 12 次調査地の検出面から考えても 50 ㎝以上は削られたと考えられる。なお、床面は西側

第 55 図　須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査遺構配置図（1/150）

に緩やかに傾斜するが、一部を土坑状に掘削し、木器等が出土する。

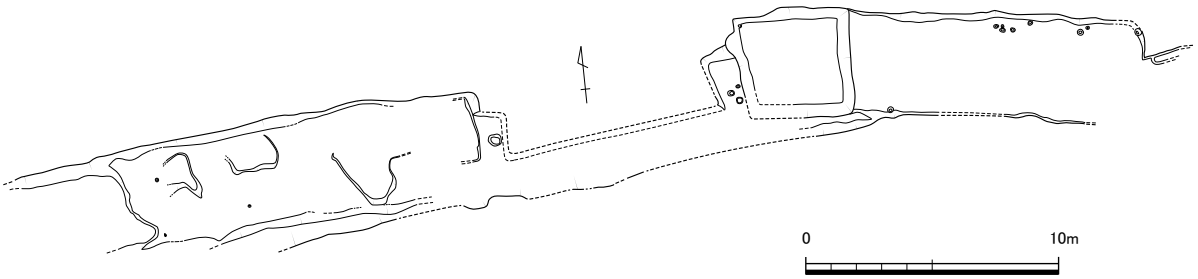
１号溝が上述したような規模の直線的な大溝のために、性格については何らかを区画する溝と考えられてきた。須玖坂本Ｂ遺跡は､須玖岡本遺跡を中心的な遺跡とする須玖遺跡群の一角を占めるが、須玖遺跡群では南部や西部の複数の遺跡で、断面「Ｖ」字や逆台形の大溝が確認されている。これらの大溝は、遺跡が所在する小丘陵の一方だけである遺跡群の外縁部のみに掘られるため、谷を越えて機能する一連の遺構と考えられ遺跡群を大きく巡る環濠の可能性がある。そのため須玖坂本Ｂ遺跡の１号溝についても、遺跡群を囲む北部の溝と考えられた時期もあった。

しかしながら、須玖岡本遺跡坂本地区６次調査によって、坂本地区と須玖坂本Ｂ遺跡の間には谷があることが明らかになった。また、須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査成果によって、溝の北側からブロック混じりの土壌が流入することや、出土遺物が日常土器や木器、青銅器生産遺物等の北側の集落に起因する遺物であることから、１号溝の北側を内側と考えて間違いなかろう。もし、１号溝の南側丘陵側を囲むとするならば、須玖岡本遺跡岡本地区は墓地が主体の遺跡であるから、溝の中には丹塗土器などの墳墓に伴う遺物が多く包含されるはずであり、このことからも当溝が区画を表すとするならば、北側の遺構群を囲んでいた可能性は高い。

なお、１号溝の１・４次調査の境目には、張出部、陸橋の存在が考えられる。掘り残された部分が後世の溝（２号溝等）で破壊されることや、４次調査のその部分が未調査であるために断定することは難しいが、平面形や残存部から考えて張出部、陸橋の存在は間違いなかろう。第 56 図では、北側から張出部が延びるように復元を行った。１号溝の北側が内側とすると張出部の付き方には矛盾はないが、張出部上に想定される物見櫓等の掘立柱建物跡は確認できない。しかも、１号溝が１・４次調査地の北側の遺構群を囲む大溝とすれば、張出部は南側の墓地に向かって張り出す形をとり、物見櫓等の施設が意味をなさない。

以上のことから、この部分については南側の墓地や工房への通路としての陸橋であった可能性を考えたい。もし、張出状の施設であった場合には、木の橋などをかけていたのではなかろうか。

当溝は中期前半から終末期までの土器が出土し、削平をかなり受けるために、時期の詳細な検討は難しいが、４次調査を担当した境靖紀氏の調査日誌等の記録を参考に検討したい。中期前半～中頃の土器は、中・下層からも多く出土したようである。ただし、後期前半の残存状態の良い甕が最下層から出土し、１次調査１号土坑の下層からは貨泉が出土する。４次調査では、北側壁面から床面に



第 56 図　須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査１号溝復元図（1/300）

かけて、地山ブロックを含む堆積があり、この中には中期前半～中頃の土器と共に青銅器鋳型が含まれる。境氏は、ブロックを含む堆積については崩落した土塁と考えられている。土塁については、溝を掘削した時に出た土を利用したと考えるのが自然である。このため、１号溝が掘られる前に中期前半の遺構が存在し土器が土塁に混じった可能性はあるが、土器の量が多いことから大形の遺構であった可能性がある。幅４ｍ以上、深さ１ｍ弱の溝の性格を考えれば、掘り直し等が行われた可能性は高いと考える。中期前半に掘られた溝を後期後半に大幅に改変、掘り直しを行った可能性も考えられるのではなかろうか。

昭和 32 年に当地で小学校建設に係る造成が行われた際の知見を記した鏡山猛氏によると、弥生土器が散布し、竪穴建物が数軒見られ、環濠の可能性がある１条の溝があり、運動場の北端に溝の一部が残るとされる [(1)]。当遺跡は、縁辺部で６次に渡る調査を行い古代の溝なども検出したため、慎重に検討する必要はあるが、今回、運動場の南端で調査した１号溝と一連の溝が、運動場北端まで続く可能性がある。１号溝が東西方向の直線的な溝であることを考えれば、方形区画、しかも方位も意識した可能性も考えられる。

須玖遺跡群では、集落に近接して墓地が営まれる例が多い。首長層の墓地は須玖岡本遺跡岡本地区にあるが、近隣の遺跡で首長層の居住域であるような遺跡は確認されていない。首長層の居住域は一定の広さを有することが推察できるが、須玖坂本Ｂ遺跡は岡本地区周辺で広い平地を有し、中心部の性格が明らかになっていない遺跡の１つである。須玖坂本Ｂ遺跡も含め、周辺遺跡で青銅器・ガラス玉生産が大規模に、継続的に行われることから考えれば、当遺跡が首長層の居住域である可能性は高い。そうするならば、１号溝は首長の居宅を囲む溝の可能性があるのではなかろうか。今後の調査成果に期待したい。

２　須玖坂本Ｂ遺跡の青銅器生産

須玖坂本Ｂ遺跡の６次に渡る調査では、青銅器鋳型、銅矛中型、坩堝／取瓶等の青銅器生産関連遺物が多数出土する。特に遺跡の北端部の３次調査は、諸岡川の氾濫や校舎建築時に大きく破壊されていたが、100 点を超える中型が出土することから、当遺跡で青銅器生産が行われたことは間違いない。包含層等からの出土品が多いが、土器と伴うものや鋳型型式、中型の断面形などから後期初頭～前半頃の青銅器生産に伴う遺物と判断される。

また、遺跡西部の５・６次調査では大きく削平を受けるが、周囲に溝を巡らす掘立柱建物が確認され、溝からは坩堝／取瓶が出土する。この建物は須玖永田Ａ遺跡１次調査と同じタイプの青銅器工房と判断できる。

本論で述べたように１・４次調査でも鋳型等は出土する。ここでは古式の鋳型や中型から中期前半の青銅器生産の可能性について述べたい。４次調査から出土した古式の鋳型は、１号溝の北側壁面から床面にかけてみられる堆積土中から中期前半～中頃の土器と共に出土した。滑石製の鋳型を含み、

細形～中細形の武器形青銅器の鋳型であるため、土器の時期とも矛盾はない。谷を挟んだ南側には、青銅器生産遺跡として著名な須玖岡本遺跡坂本地区が所在するが、青銅器生産は後期が主体であるため、そこの遺物が１号溝の北側から混入したとは考えられない。以上のことから、須玖坂本Ｂ遺跡の中期前半の青銅器生産は１号溝の北側で行われたと推察できる。

１次調査では、調査区北部のＰ 65 を中心に直径６ｍほどの範囲に柱痕を有する大形のピットを複数検出した（第８図北側ピット群）。これらは、削平を受けた円形の竪穴建物の柱穴と考えられ、復元すれば直径８ｍ前後の竪穴建物となる。この範囲のＰ３・８・27・61・62 からは、中期前半～中頃の土器と共に銅矛中型の湯口部分（中型№.12）や石英長石斑岩の石塊や剥片が出土する。

Ｐ 62 出土の中型の湯口部分は、横断面形が筑前町峯遺跡で見られる中期前半～中頃の土器に伴う「十」字を呈するもので、後期に通有な「Ｘ」字ではない。石英長石斑岩の石塊や剥片は、Ｐ３・８の出土品が接合し（鋳型№.６）、Ｐ 62 の石塊は２つが接合し、さらに剥片も１つ接合した（鋳型№.７）。鋳型№.７は全面に剥離面を有し、平滑な面はない。横断面形が逆蒲鉾形を呈することや、幅から考えれば、武器型鋳型の未製品と考えられる。

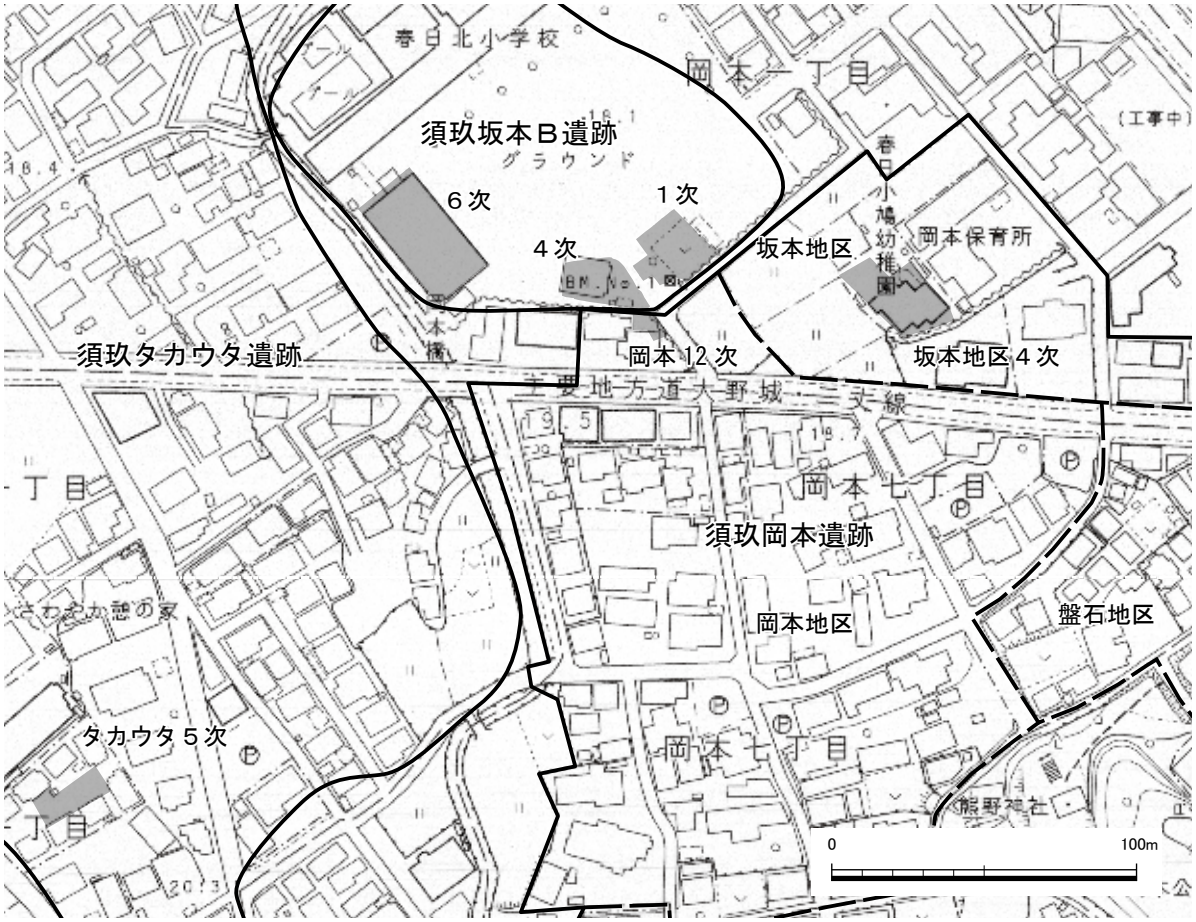
破損した未成品が剥片と接合することや、同じ遺構内から多数の剥片が出土することは、当建物内で青銅器鋳型を製作したと考えて間違いない。削平のために本来床面に残っていた遺物はすべて取り除かれたために、青銅器生産が行われたのかは確認できていない。しかし、Ｐ 62 からは鋳型の未製品や銅矛中型湯口部が出土するから周辺の状況とも考えて、当遺構は円形の竪穴建物を利用した青銅器工房と考えたい。

３　須玖遺跡群出土の権（第 57・58 図、表 13）

須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査では、天秤権と考えられる石器が３点出土する。６次調査でも出土していたので近接する遺跡も含め確認したところ、転用品も含め８つを確認した。ここでは、資料の提示と出土の意義について述べたい。なお、各権の出土地点、石材、法量などについては表 13 を参照していただきたい。

１～７は円筒権で、1・2の横断面形は蒲鉾状を呈する。形態は、１～４の中型品、５の小型品、６・７の大型品の３つに分類できる。１・２・６は須玖坂本Ｂ遺跡１・４次調査の出土品のため、本報告書のⅢ・Ⅳ章を参照していただきたい。

３は横断面形が楕円形の資料で、縦方向に面取りされる。上下端部がやや突出するため、未成品の可能性がある。４は小銅鐸鋳型を権に再加工した資料 (2)。下部には舞から身部の彫り込みが残り、黒変する。縦方向に面取りされ、下端部には工具痕がみられる。上端部には小銅鐸鋳型の時に刻まれた合印が残存するため、鋳型の上辺から舞部下の彫り込みの部分を再利用したことが分かる。５は過去に穿孔具と報告したもの (3)。穿孔による回転を示す使用痕が認められず、側面を面取りすることから、小型の権と再考した。下半部を欠損する。７は不明瞭ながら縦方向の面取りの痕跡を残す大形



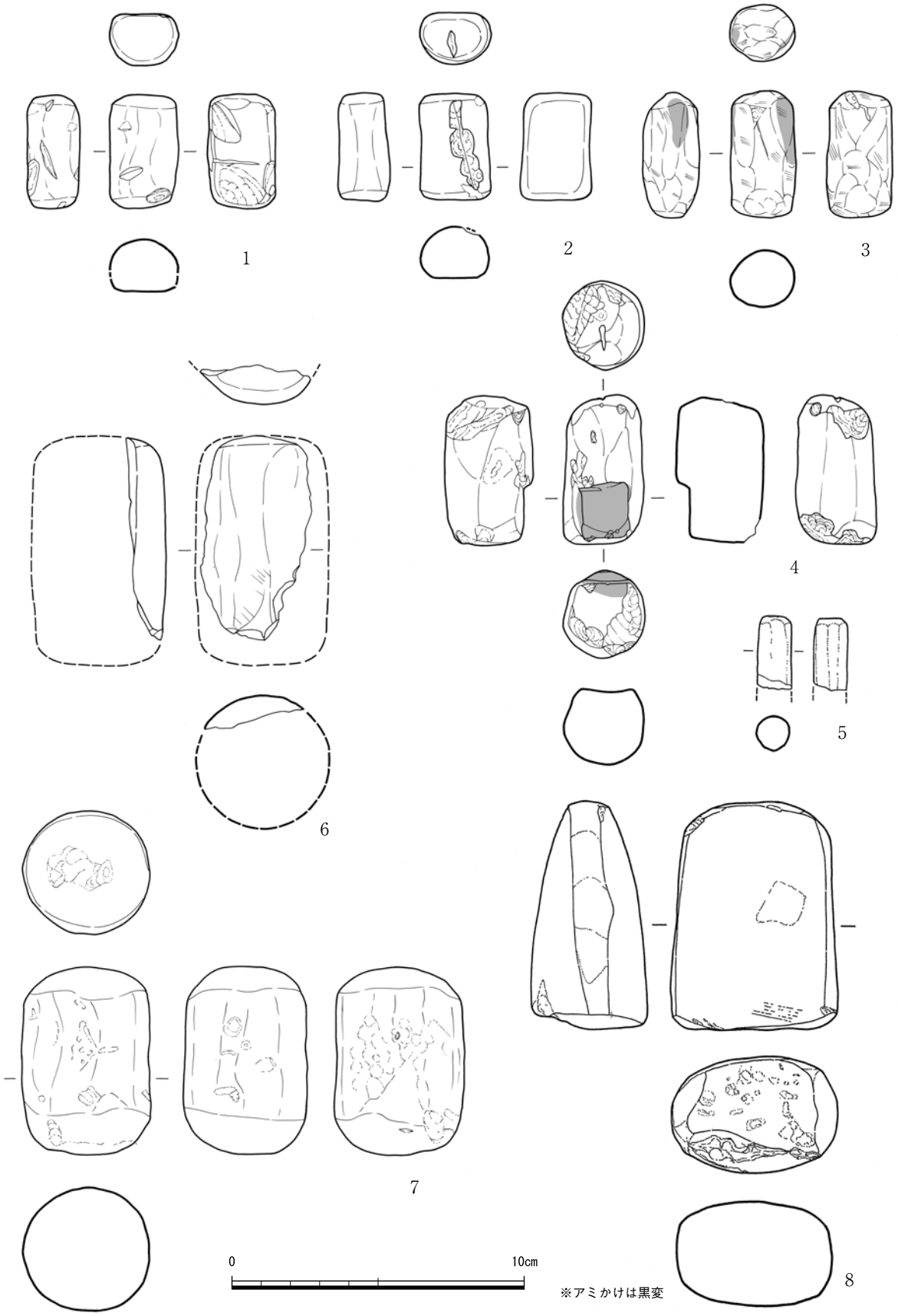
第 57 図　須玖遺跡群権出土遺跡（1/2,500）

の完形品で、横断面形は円形。成形のための敲打痕を残す。８は過去の報告で石斧を転用した石槌としたもの [(4)]。近年の研究成果を参考に石斧転用権と改めた。

以上のように、円筒権７点と転用権１点について述べた。５・８を除き石材が滑石であることは注目される。滑石は加工しやすいために、重さを調整し易いという利点があり、権の石材として好まれた可能性がある。また、滑石は古式の鋳型に利用されることが多く、その時期は中期を主体とする。実際に、２・４は鋳型の痕跡である合印や彫り込み、黒変があるため鋳型の転用品と分かる。これら滑石製の円筒権の時期は、溝や検出時の出土品は時期の決め手に欠けるが、竪穴建物などから出た４・５は中期前半の土器が伴うため、滑石が鋳型として利用された時期と重なる。つまり、滑石製の権は、中期前半を主体とする鋳型の転用品が多いと推察できる。

分布図で明らかなように、須玖坂本Ｂ遺跡の周辺には、権が集中する。時期が中期前半に偏ることや今後須玖遺跡群の他の遺跡でも確認される可能性はあるが、これらの権は青銅器生産遺跡から出土する。鋳型を転用したことも関係あろうが、やはり、青銅生産に関連する計量のために権が使用されたと考えたい。

円筒権は小さく、目立った加工が施されないため見落とされる可能性がある遺物である。また、石斧の転用権なども権と認識されない可能性がある。このため、須玖遺跡群の他の青銅器生産遺跡の石



第 58 図　須玖遺跡群出土権実測図（1/2）

器についても今後再観察する必要があると考えている。

註

(1)　鏡山猛　1957「環溝住居址小論（四）」『史林』第 78 輯　九州史学会

(2)　春日市教育委員会　2017『須玖タカウタ遺跡３』―５次調査―　春日市文化財調査報告書第 77 集　筆者再実測。

(3)　春日市教育委員会　2011「Ⅳ４次調査の内容」『須玖岡本遺跡４』―坂本地区３・４次調査の報告―　春日市文化財調査報告書第 61 集

(4)　註３と同じ。

表 13　須玖遺跡群出土権観察表

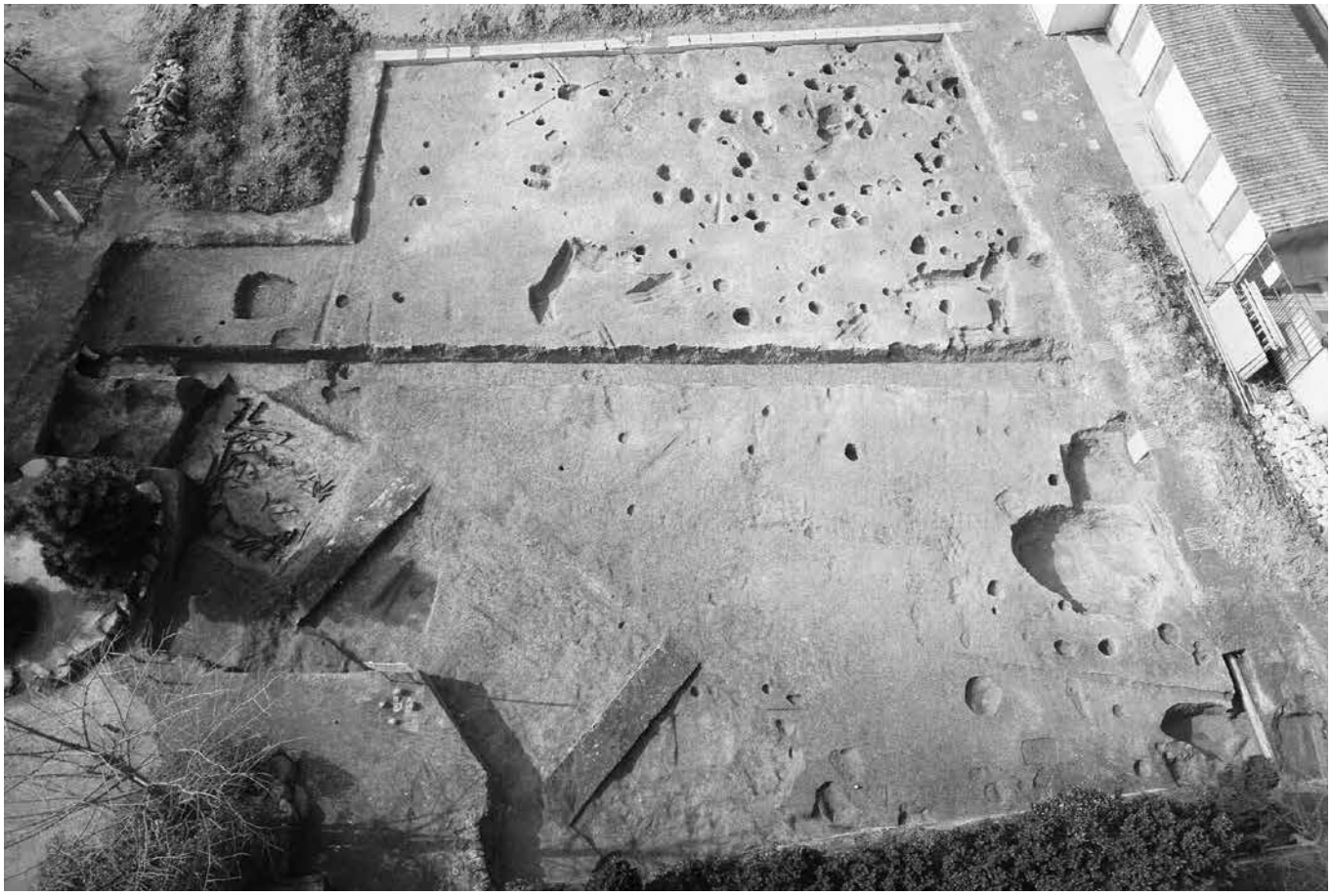
（　　）は残存値

番号	出土位置	計測値（cm，g）				石材
		長さ	幅	厚さ	重量	
1	須玖坂本Ｂ遺跡１次調査 １号土坑	3.9	2.4	1.8	35.13	滑石
2	須玖坂本Ｂ遺跡４次調査 １号溝	3.7	2.45	1.8	33.57	滑石
3	須玖坂本Ｂ遺跡６次調査 遺構検出時	4.4	2.3	2.0	32.47	滑石
4	須玖タカウタ遺跡５次調査 ３号土坑	5.15	2.8	3.05	69.16	紫褐色の滑石
5	須玖岡本遺跡坂本地区４次調査 P2	(2.50)	1.2	1.2	(5.85)	淡灰色の砂岩
6	須玖坂本Ｂ遺跡１次調査 １号溝	(7.05)	(3.8)	(1.35)	37.93	滑石
7	須玖岡本遺跡岡本地区12次調査 ２号住居	6.5	4.5	4.3	223.71	滑石
8	須玖岡本遺跡坂本地区４次調査 １号竪穴状遺構下層	7.85	5.7	4.0	337.19	青味がかった暗灰色の石

図　　版

1　次　調　査

（１）　調査区全景（北から）

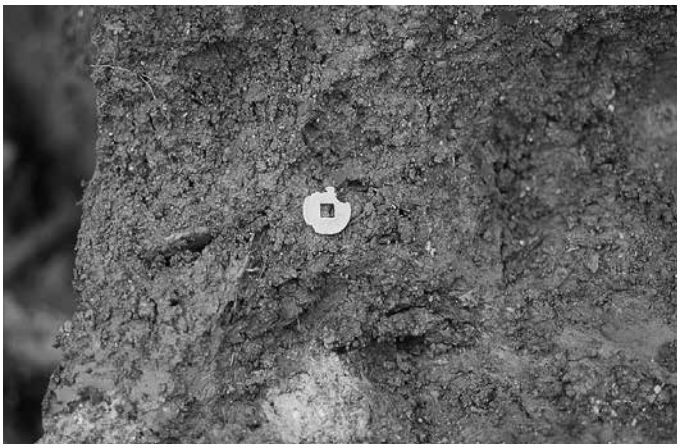


（２）　調査区全景（南から）

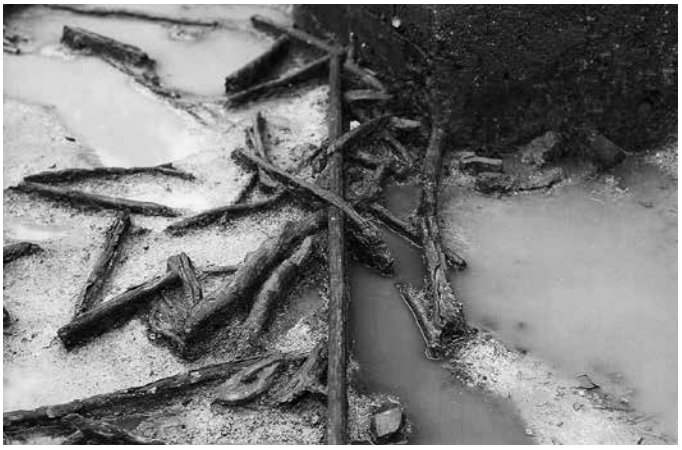
図版２

（１）　１号土坑

（２）　鋳型No.10 出土状態



（３）　貨泉出土状態

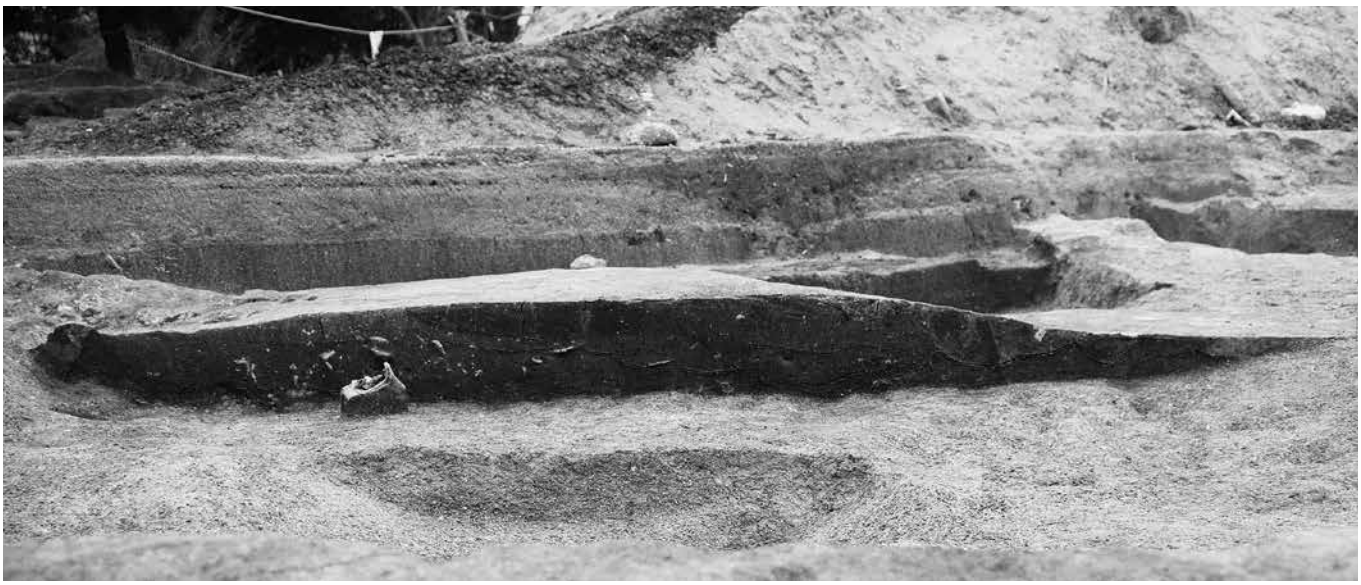


（４）　木製品No.１出土状態

（１）　１号土坑Ａ－Ａ′断面土層（東から）

（２）　１号土坑Ｂ－Ｂ′断面土層（東から）

図版４



（１）　１号溝Ｃ－Ｃ′断面土層（西から）

（２）　１号溝Ｄ－Ｄ′断面土層（東から）

（３）　１号溝Ｅ－Ｅ′断面土層（東から）

（１）　１号溝Ｆ－Ｆ′断面土層（西から）

（２）　１号溝Ｇ－Ｇ′断面土層（東から）

（３）　P66 鉄器出土状態

（４）　P72 半裁状態

1

2

3

5

6

7

8

9

10

15

17

18

19

20

22

31

32

33

36

１次調査出土土器①

37

40

46

47

48

50

56

60

61

62

66

67

69

70

71

74

75

76

77

１次調査出土土器②

78

80

83

87

88

89

90

91

94

96

97

98

105

108

109

110

111

112

１次調査出土土器③

114

115

116

118

122

124

125

127

128

131

137

138

145

147

148

149

150

151

152

１次調査出土土器④

154

155

156

157

158

159

160

162

163

164

165

166

169

170

171

172

175

180

181

182

1次調査出土土器⑤

183

184

185

186

187

188

190

194

198

199

200

202

203

204

208

211

213

216

1次調査出土土器⑥

218

222

230

234

235

236

237

238

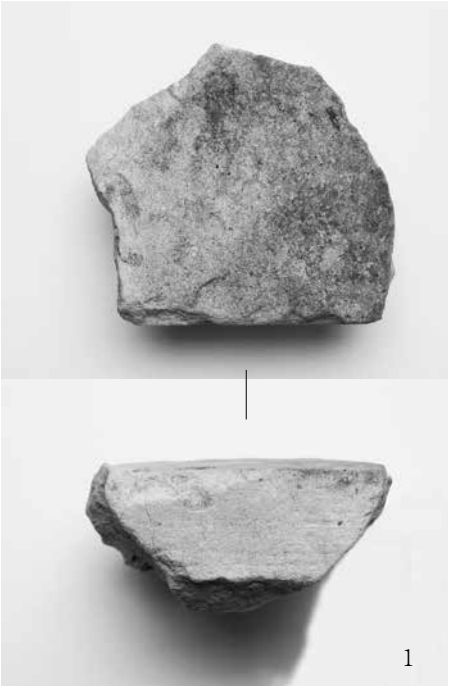
243

245

246

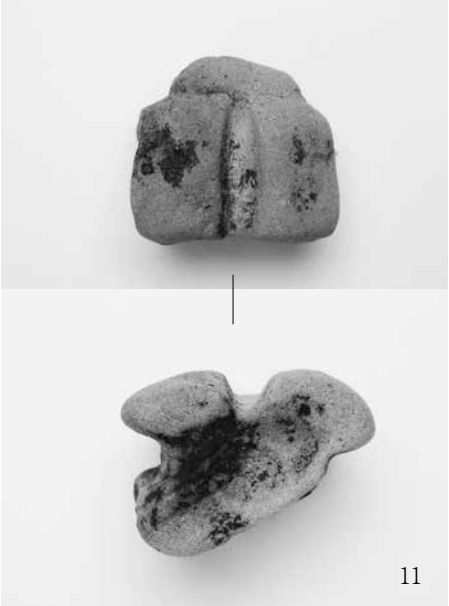
（１）　１次調査出土土器⑦

（２）　土製品等



鋳型類①

鋳型類②



中型

坩堝／取瓶

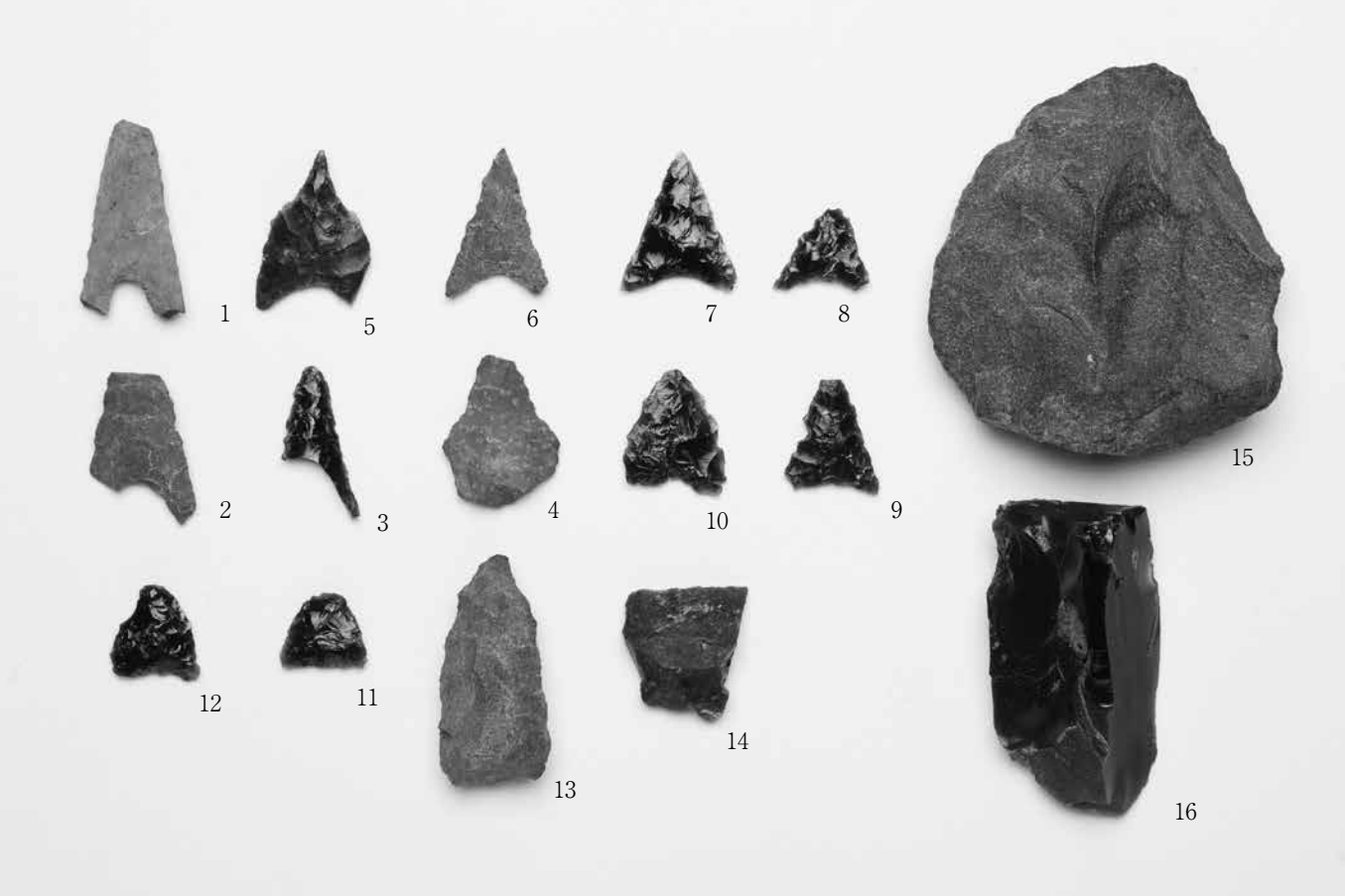
（１） 青銅器

（２） 玉類

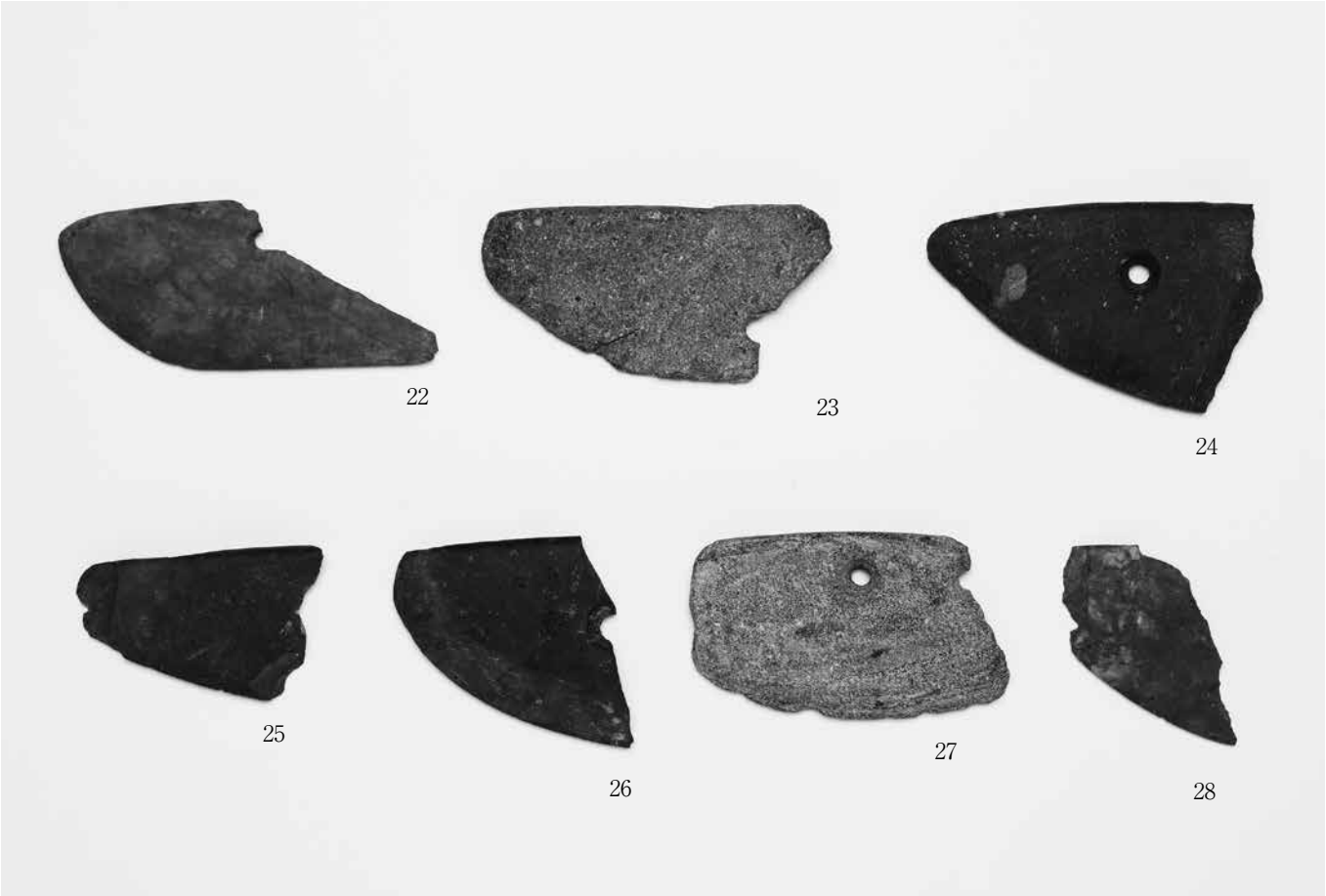
（３） 鉄器

（４） 木製品①

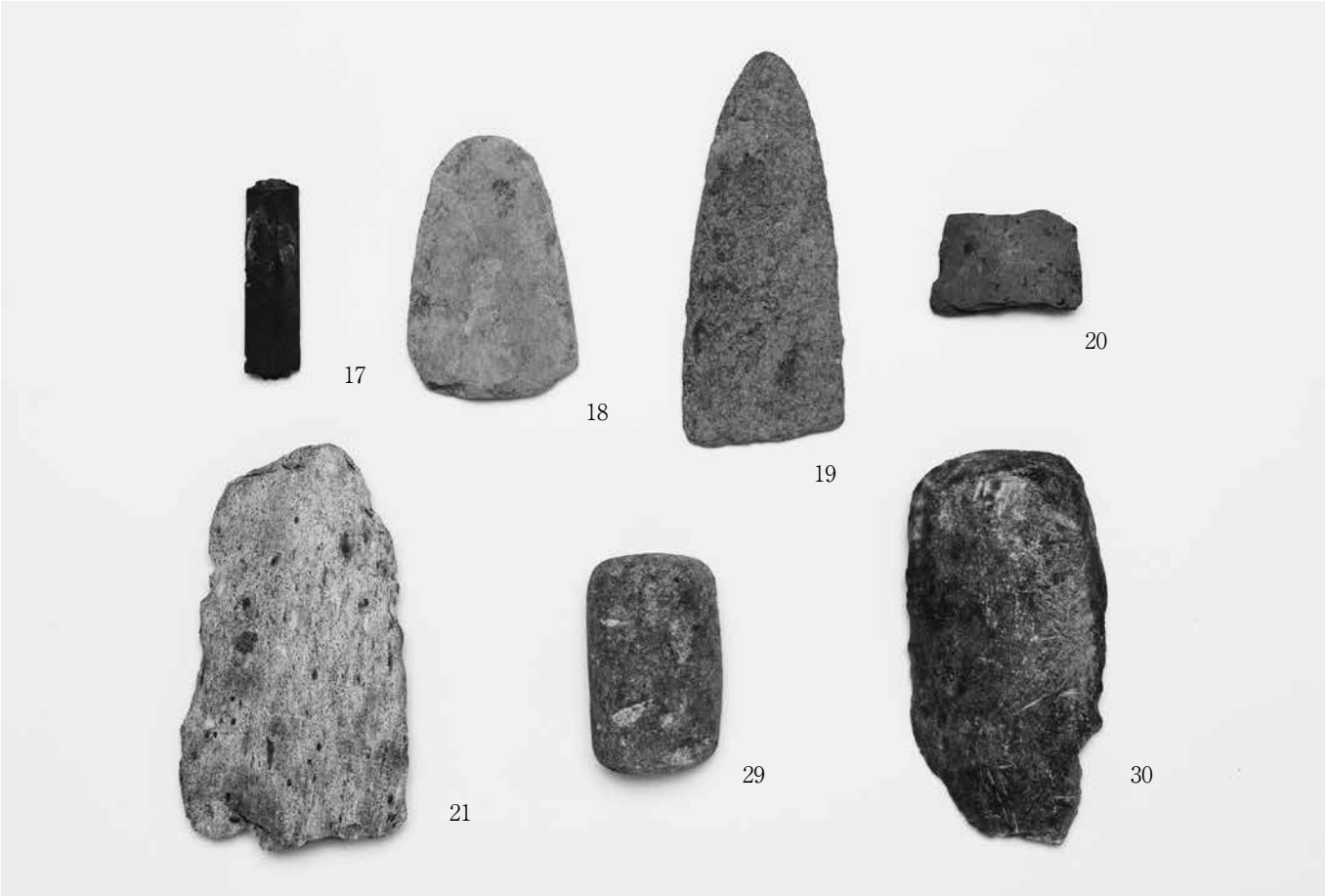
（１） 木製品②



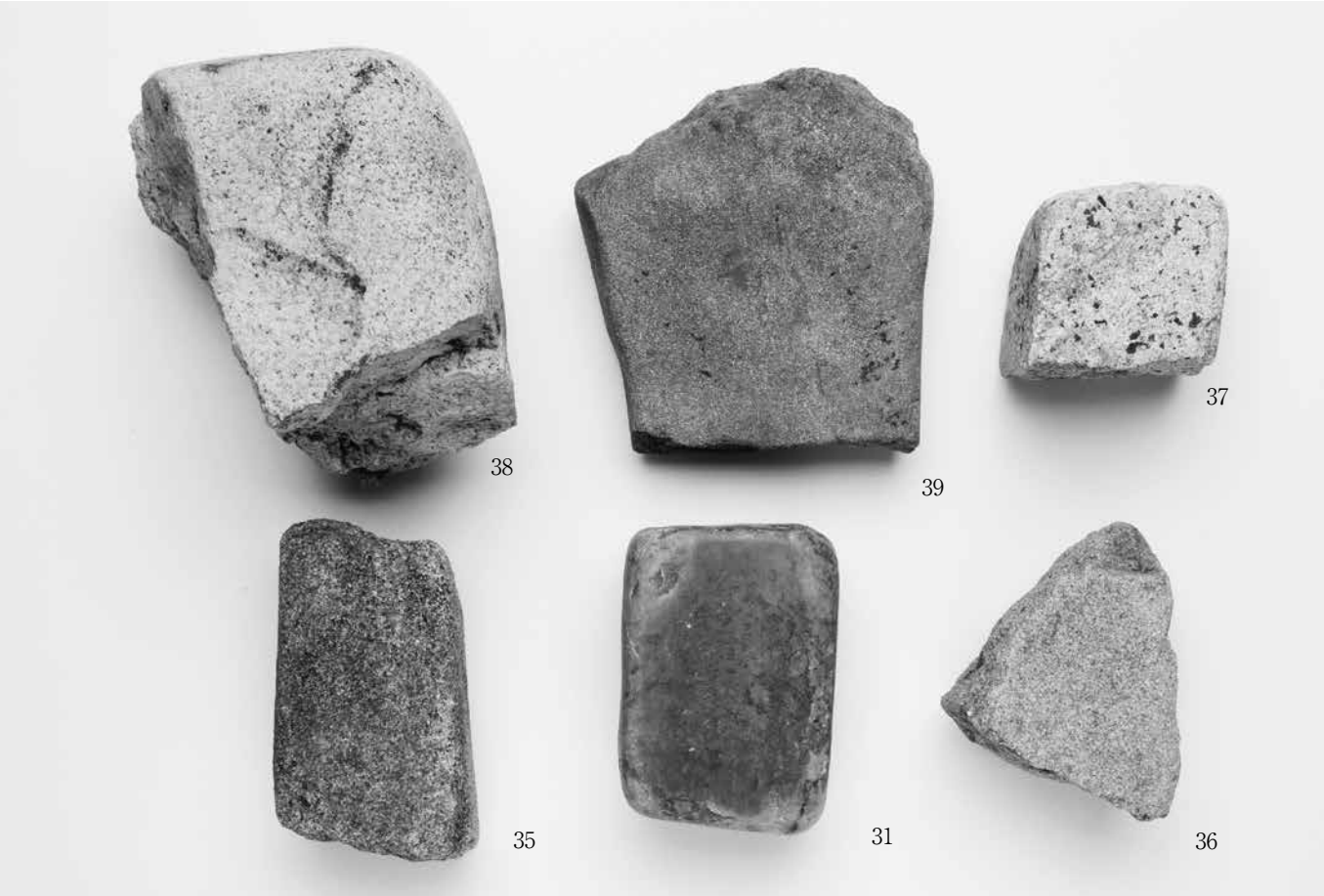
（２） 石器①



（１） 石器②



（２） 石器③



（１） 石器④

（２） 石器⑤

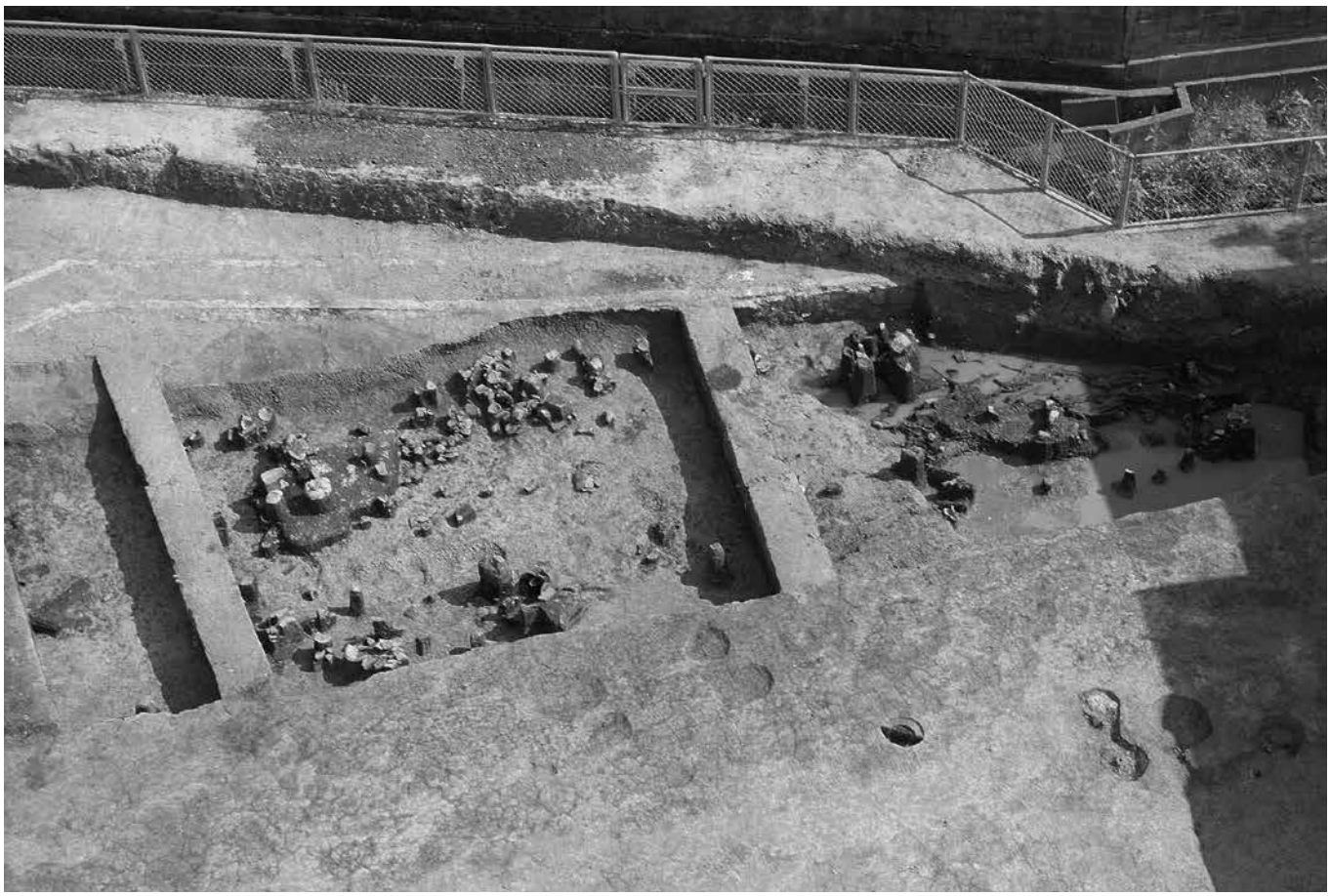
４　次　調　査

（１） 調査区西半

（２） 調査区東半・１号溝

（１）　４次調査地と１次調査地の位置関係

（２）　１号溝（東から）



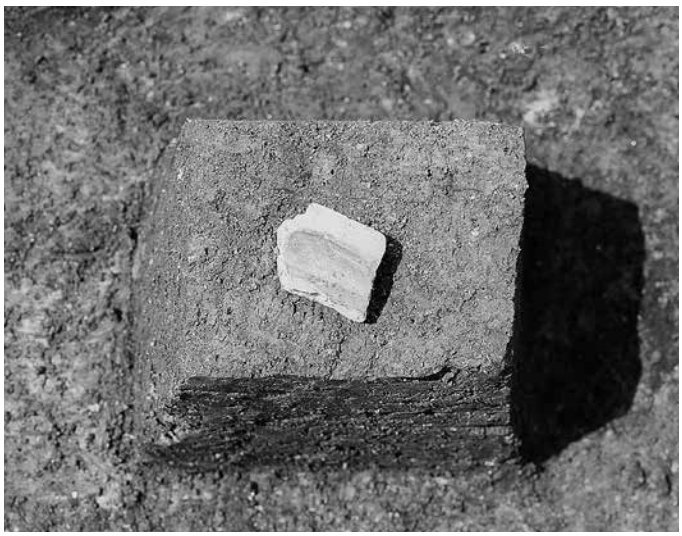
（１）　１号溝西部

（２）　１号溝木製品等出土状態

（１）　１号溝Ａ－Ａ′断面土層（東から）

（２）　１号溝Ｂ－Ｂ′断面土層

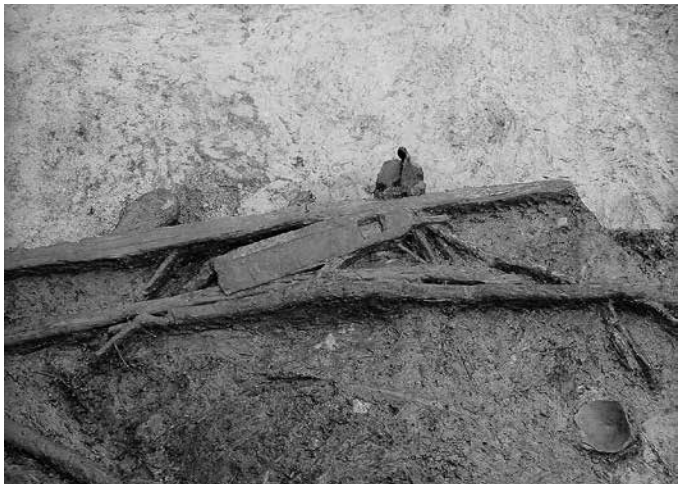
（１） 鋳型№.２出土状態



（２） 鋳型№.３出土状態

（３） 鞴送風管・土器出土状態

（４） 土器出土状態



（５） 木製品出土状態①

（６） 木製品出土状態②

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

15

16

17

18

27

28

４次調査出土土器①

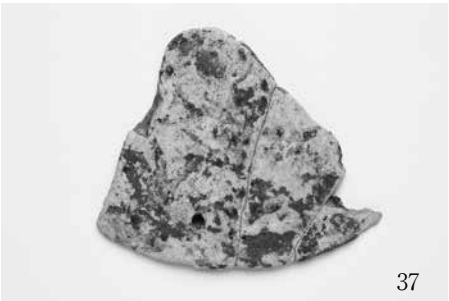
30

31

32

33

36


37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

56

４次調査出土土器②

63

65

67

68

71

72

89

90

91

92

93

95

99

105

106

108

119

120

121

4次調査出土土器③

122

124

125

134

136

137

138

139

142

143

145

147

148

149

150

151

152

153

４次調査出土土器④

155

156

158

162

166

170

171

172

173

177

181

183

184

186

187

188

189

4 次調査出土土器⑤

190

191

193

194

196

198

199

200

201

203

204

208

212

216

221

222

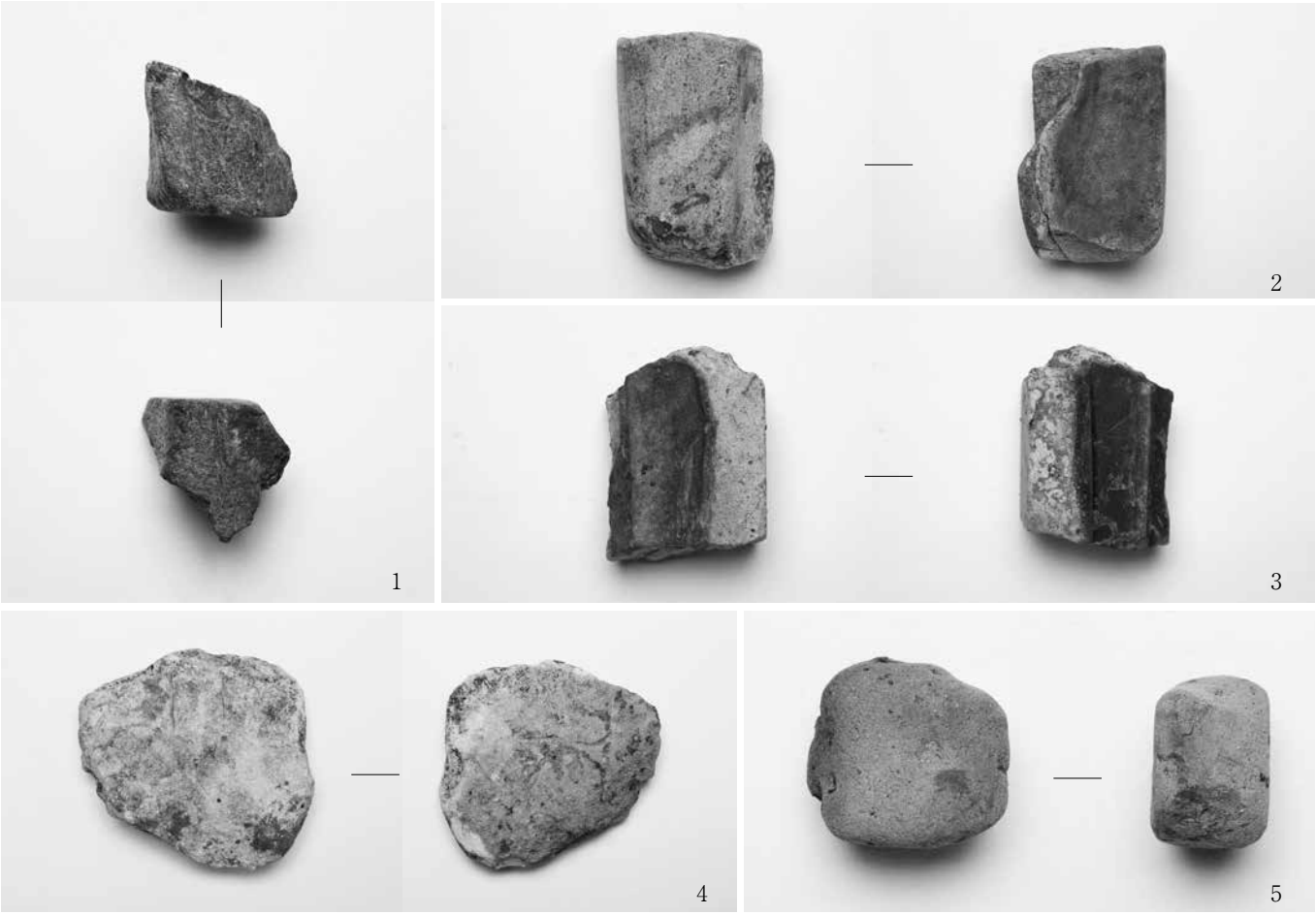
223

224

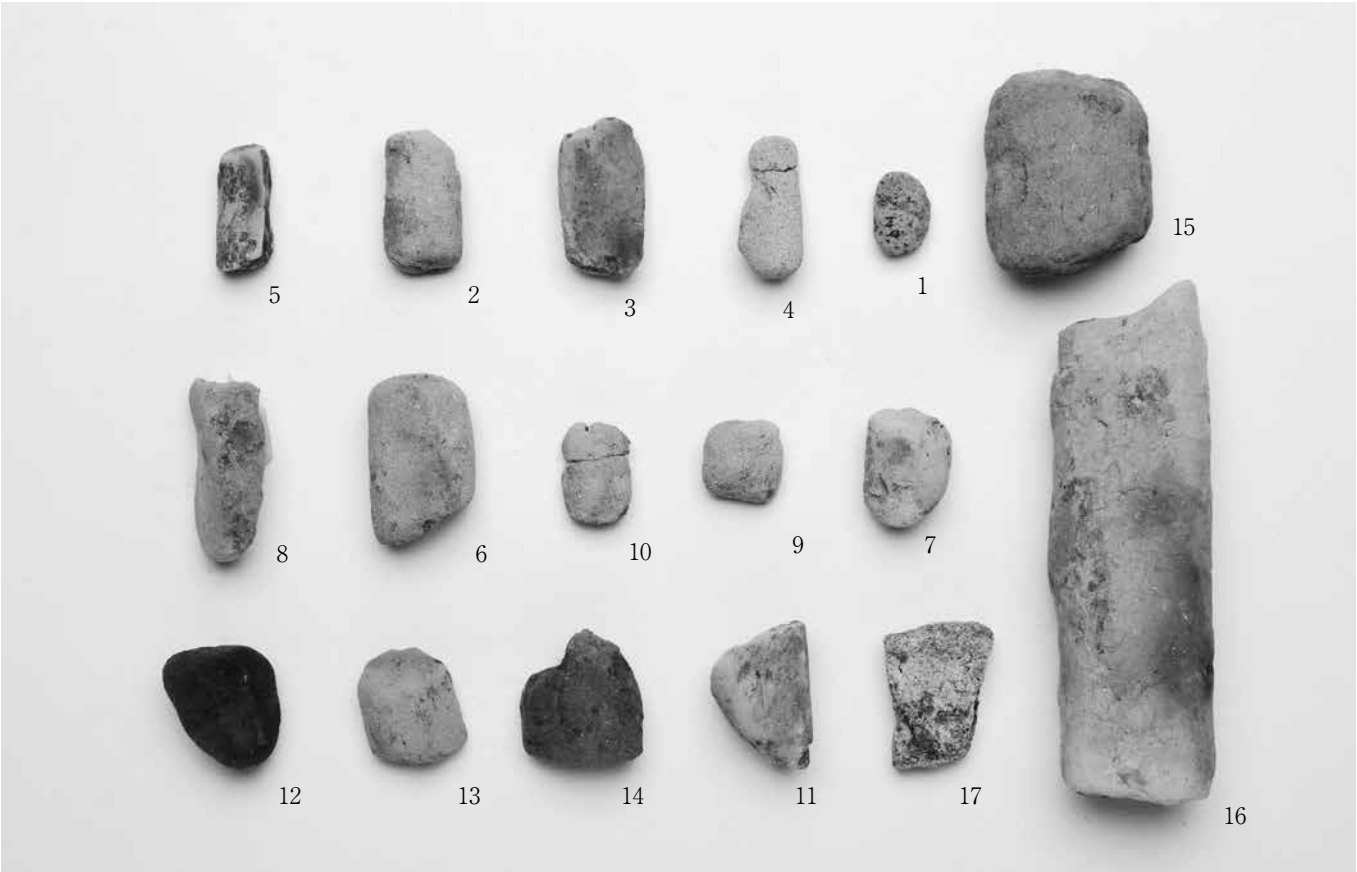
４次調査出土土器⑥

（１）　４次調査出土土器⑦

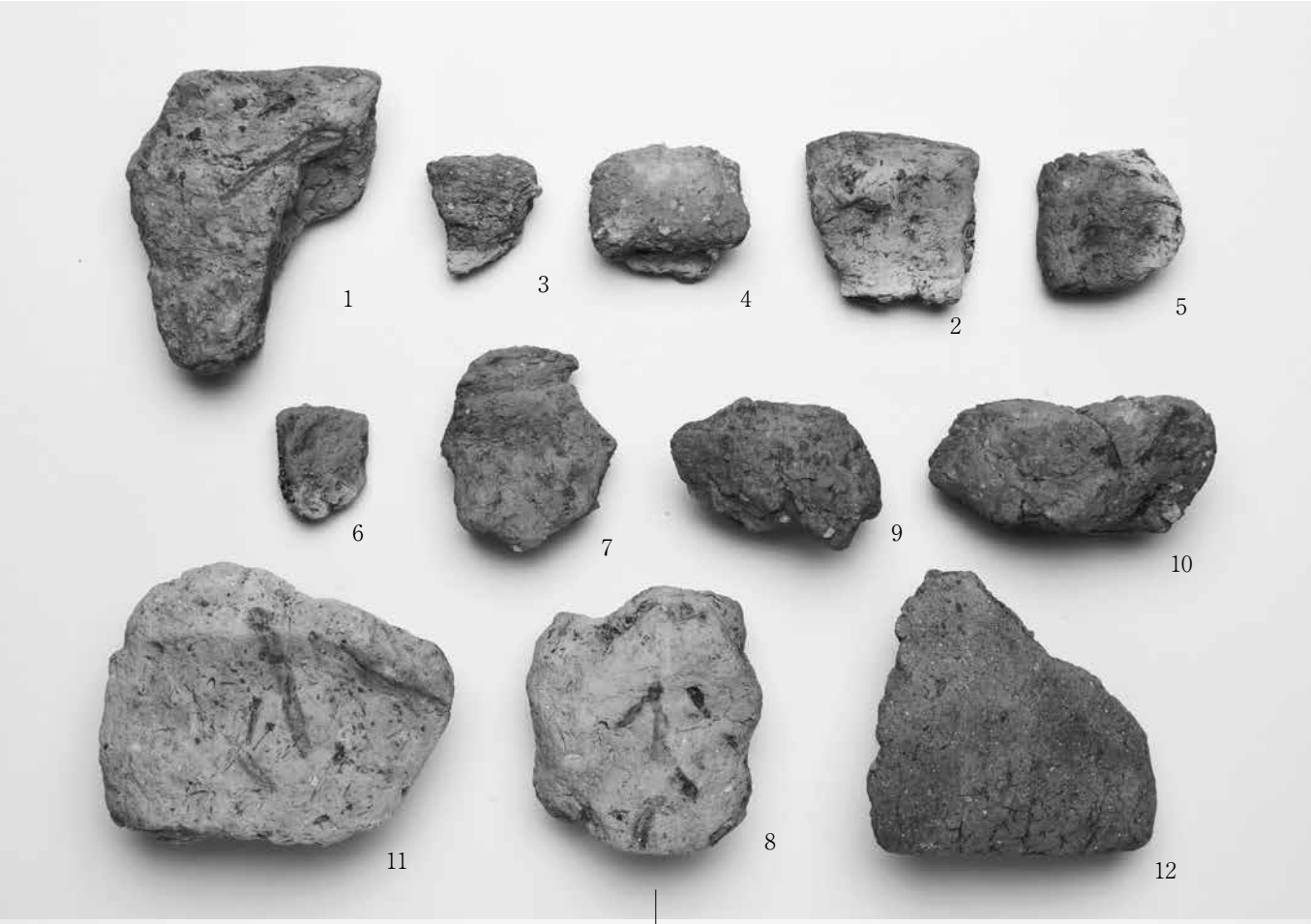
（２）　土製品



（1） 鋳型

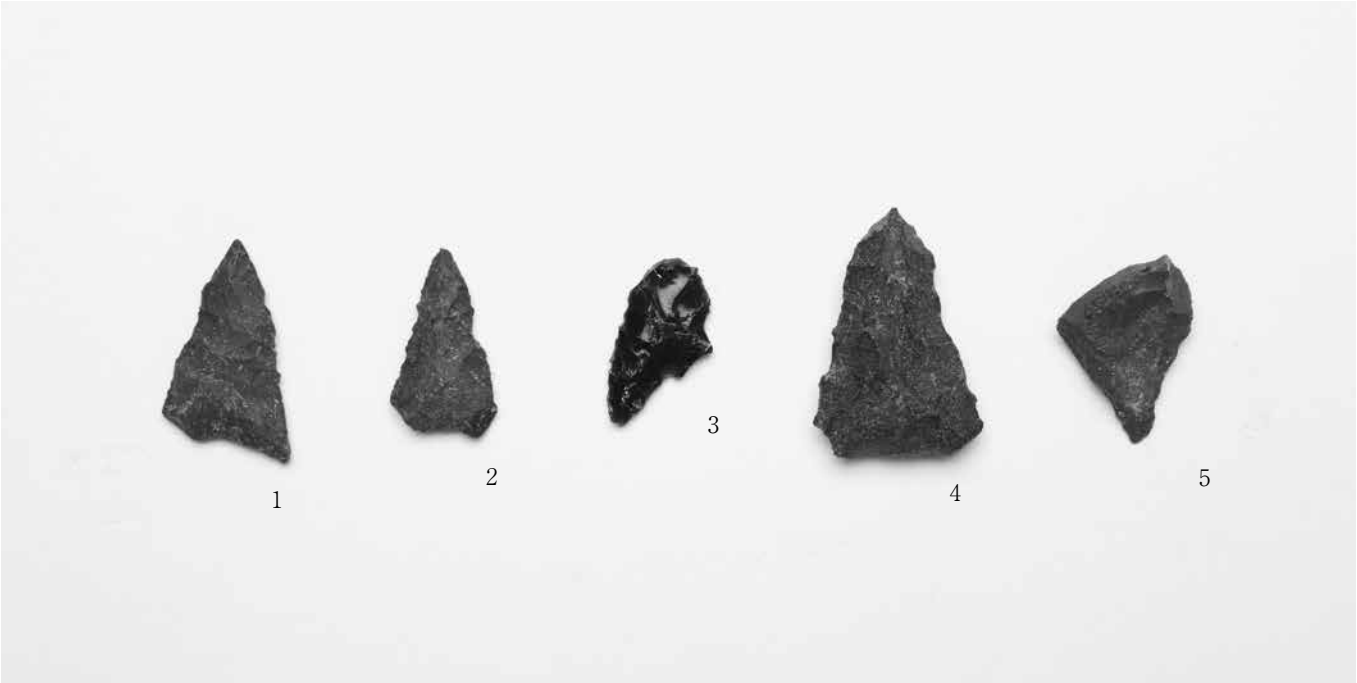


（2） 中型

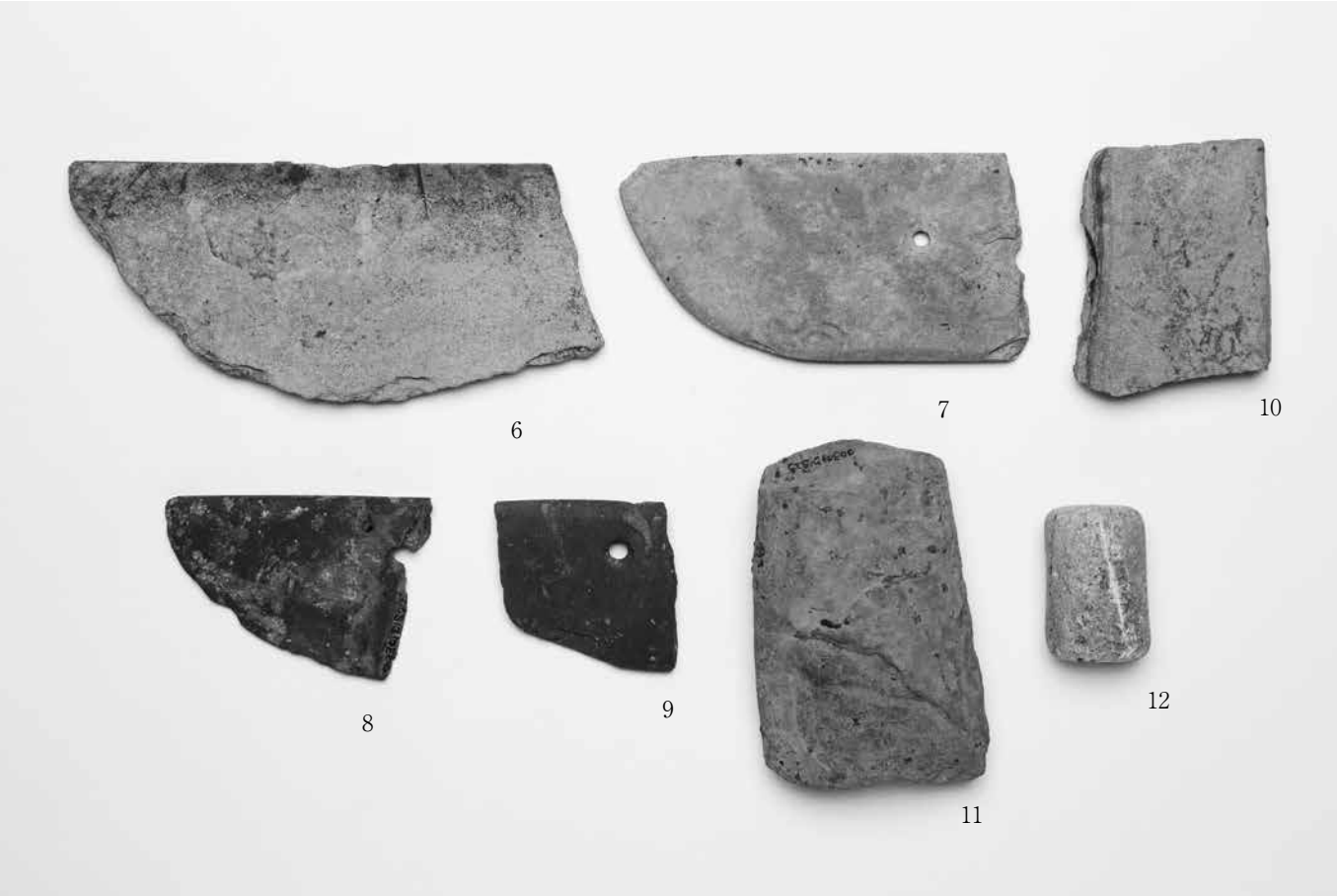


坩堝／取瓶

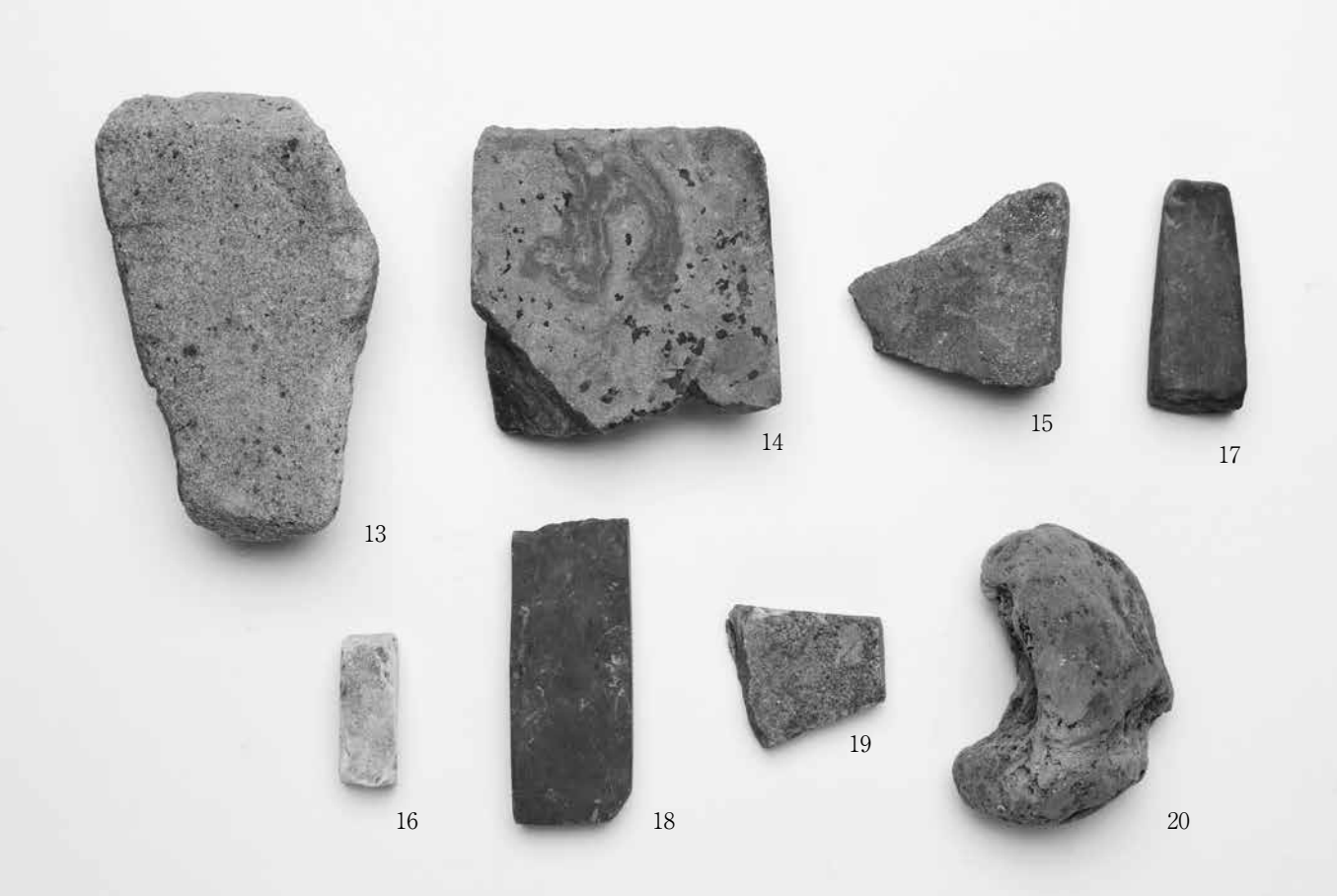
（1） 鞴送風管



（2） 石器①



（１） 石器②



（２） 石器③

ま　と　め

須玖遺跡群出土権

報　告　書　抄　録

ふりがな	すぐさかもとびーいせき　いち・よじちょうさ
書　　名	須玖坂本Ｂ遺跡　－１・４次調査－
副　書　名	福岡県春日市岡本所在遺跡の調査
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 82 集
編著者名	井上義也・熊埜御堂早和子
編集機関	春日市教育委員会
所　在　地	〒816-0804　福岡県春日市原町３丁目１番地５　TEL　092-584-1111
発行年月日	2020 年３月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
すぐさかもとびーいせき 須玖坂本Ｂ遺跡 １次調査	ふくおかけんかすがしおかもと 福岡県春日市岡本	40218		33°32′28″	130°26′51″	19910121 ～ 19910416	414.8	記録保存調査
すぐさかもとびーいせき 須玖坂本Ｂ遺跡 ４次調査	ふくおかけんかすがしおかもと 福岡県春日市岡本	40218		33°32′26″	130°26′54″	20030509 ～ 20030612	344.0	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須玖坂本Ｂ遺跡 １次調査	集落	弥生時代	土坑　　１基 溝　　６条	弥生土器・土製品・青銅器生産関連遺物・鉄器・玉類・木製品・石器	調査区の南部で溝と土坑を、調査区の北部で大形のピットを複数検出。弥生土器とともに多量の青銅器生産関連遺物が出土した。
須玖坂本Ｂ遺跡 ４次調査	集落	弥生時代	溝　　４条	弥生土器・土製品・青銅器生産関連遺物・石器	調査区のほぼ中央部で東西に延びる溝を検出。弥生土器とともに多量の青銅器生産関連遺物が出土した。

要　　約	須玖坂本Ｂ遺跡は春日丘陵の北東側低地にあり、北流する諸岡川の右岸に立地する。南側約 130m には、奴国王墓とされる須玖岡本遺跡が所在し、夥しい数の青銅器生産関連遺物が見つかった須玖岡本遺跡坂本地区は、当遺跡の南側に隣接している。 １次調査の調査区北部で、直径６ｍほどの範囲に柱痕を有する大形のピットを複数検出した。これらは削平された竪穴建物の柱穴と考えられている。またこの遺構からは中型や石英長石斑岩の石塊や剥片が多数出土したことから、竪穴建物を利用した青銅器工房が営まれていたと推察される。 １・４次調査で検出した１号溝は、東西方向に延びる約 46m の大溝である。溝の北側の集落に起因する遺物が多数出ていることから、北側の遺構群を囲んでいたと考えられる。 須玖坂本Ｂ遺跡は、その立地や周辺に比べて広い面積を有する点で、首長層の居住域と推定するには十分でありながらも、その中心部の性格が明らかになっていない。しかし当遺跡とその周辺で、青銅器やガラス玉生産が大規模かつ継続的に行われていること、１号溝が直線的かつ方形区画で方角を意識した可能性を考慮すると、当遺跡が首長層の居住域であることや、１号溝は首長層の居住域を囲む溝の可能性が考えられ、貴重な調査となった。

須玖坂本Ｂ遺跡

―１・４次調査―

春日市文化財調査報告書第82集

令和２年３月31日

発　行　春日市教育委員会
福岡県春日市原町３丁目１番地５

印　刷　株式会社 西日本新聞印刷
福岡県福岡市博多区吉塚８丁目２番15